

80周年記念誌

静岡ロータリークラブ

The 80th anniversary memory magazine

80周年記念誌

静岡ロータリークラブ

The 80th anniversary memory magazine



The
80th
Anniversary



序

パストガバナー
青島 廣幸



80周年に寄せて

青島 廣幸

良くやった。
感激した。

講師のスピーチも
素晴らしいかったし。

RCに入ってる良かった。
とつくづく思った。

あとは100周年に向けて
頑張ってもらいたい。



The 80th Anniversary

序	2
目次	4 - 5
祝辞	
軌跡をベースに更なる未来へ	6
発刊に寄せて	
80年の歳月に思いを寄せて	8
創立からのあゆみ	
創立から50年のあゆみ 50周年記念誌「静岡ロータリークラブの半世紀」より	12 - 21
新たな30年のあゆみ	22 - 65
事業を振り返る	
東日本大震災復興支援事業報告書	68 - 69
志田ガバナー主催の地区大会	70 - 71
80周年記念事業	
3年目を迎えた静岡大学教育連携講座	74 - 79
静大附属擁護学校の富士山写生大会と記念植樹	80
インターシティミーティング	81 - 93
小さな親切運動清掃活動	94
麻機遊水地あずま屋例会	95 - 96
80周年を機になお一層輝きつづける静岡RC	97
80周年記念特別寄稿	
静岡RC 80年誌によせて。	100 - 102
Fire Side Meeting in Shizuoka RC	102 - 105
台北にて	106 - 107

年会誌 2014.7-2015.6

2014～2015年度 理事・役員・委員 編成表	—	110 - 111
アッセンブリーメンバー	—————	112
理事役員委員会 組織図	—————	113
静岡ロータリークラブの歩み	—————	114 - 115
ロータリー会議室	—————	116 - 119
新しい仲間達	—————	120 - 126
随想	—————	127 - 130
1年間のPhoto Gallery	—————	132 - 137
歴代役員・委員長一覧表	—————	138 - 141
前年度入退会者	—————	142
米山記念奨学会寄付	—————	143
ロータリー日本財団寄附		
ポール・ハリス・フェロー／マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	—	144
ベネファクター寄付・2014～2015年度 年間100%出席者表彰	—	146
例会・理事会等	—————	147 - 149
2014～2015年度 決算報告書	—————	150 - 151
財産目録	—————	152

あとがき	—————	154
------	-------	-----





The
80th
Anniversary

軌跡をベースに 更なる未来へ



2014-2015 2620地区ガバナー

岡本 一八

創立80周年を迎えられ、誠におめでとうございます。80年という長い歴史の中で、クラブの軌跡を思い返せば、戦争時代、戦後、そして経済成長期と目まぐるしく変化する時代の中で、クラブの皆様方が力を合わせ、尽力されてきたことと思います。

特に、戦時下で軍部からロータリークラブ解散という危機に追い込まれた際には、全国でいち早くRIを脱会し、「木曜クラブ」として形を存続したとのこと。そして終戦後、すぐさまRIに復帰し、全国へ見本を示したと伺いました。こうした姿勢に感化され、追随する子クラブも数多く誕生するなど、まさに、静岡RCはこの地方のリーダー的基幹クラブといえるでしょう。

そして、着実に積み重ねられてきた実績をベースに、さらに先進的な活動は、現在もさらに輝いています。静岡大学での出前講義を行う社会奉仕活動は、ロータリアンそれぞれの職業を活かし、ロータリーの周知を兼ねながら、次代を担う若手を、そして地域を育てることに繋がります。これこそロータリアンならではの活動と称賛しております。

創立80周年記念式典でお迎えした、千玄室大宗匠様の記念講演も実に感動的でした。世界各地、異なる文化同士でも、お互いを認め合うことで接点生まれ、歩み寄ることができるかと改めて実感

致しました。

全国、そして世界の地域には、さまざまな伝統文化があり特色があります。各地のロータリー活動によって、地域が輝けば、誰もが住み易くなり、万人への幸せがもたらされていくことでしょう。常に、私たちにできることを考え、お互いのコミュニケーションの中から、小さなことを一つ一つ積み重ねていくことが、「世界平和」に繋がると信じています。

今後ますます、静岡RCの、次なる100周年に向けた輝かしい活動を期待し、私の挨拶とさせていただきます。



The
80th
Anniversary

80年の歳月に 思いを寄せて



2014-2015年度
静岡ロータリークラブ会長

浅原 諒 蔵

1935年6月に静岡ロータリークラブが設立され、その時から80年という歳月が経過しました。80年と一口に言っても、その間に幾多の出来事があったものと容易に想像できます。戦前から戦後の復興、高度経済成長、そしてバブル経済の終焉、激動の昭和から平成へと時代は移り変わり、静岡ロータリークラブは80年の年月を刻んできました。この間に7名のガバナーを輩出した外、数多くの子クラブ、孫クラブを設立し、またインターアクトクラブやローターアクトクラブを設立するなど多彩な活動を行い、疑いもなく2620地区のリーディングクラブとしての足跡を残してまいりました。

然しながら、静岡ロータリーが歩んできた80年と云う間に、世の中の価値観や、考え方と云ったものは大きく変化しました。以前は10年ひと昔と云う表現がありました、10年どころかもっと短期間で目まぐるしく移り変わっている昨今です。

特にバブル経済崩壊以降、そのスピードが更に増したのではないのでしょうか。その背景にはIT技術の発達があるかと思えます。IT技術の発達により、生活は便利になり、生産効率の向上も図られたかもしれませんが、便利さの享受とは裏腹に何か大切なモノを失った気がします。

バブル経済崩壊以降、既に25年余りが経過し、その間に日本経済や社会の仕組みも大きく変わり、日本のロータリークラブも会員減少に見舞われて

おります。「奉仕と友情の輪」のロータリー精神は、効率や目先の利益を追い求めるグローバル経済社会にあっては、時代遅れと成っているのでしょうか。

時代の変遷と共に社会の仕組みは移ろいますが、先人達が目指してきた奉仕の理念、倫理観や価値観と云ったものは、いかに時を経ようとも安易に変えるべきものではありません。「時代の変化に対応する」と「時代の変化に迎合する」ことは違います。

EクラブやEラーニングと云ったものは、時代の変化に即した対応と云えるでしょうが、会員増強だけに走るようならば迎合と言わざるを得ません。

RIは今、積極的にウェブサイト・Myロータリーを奨めていますので、全員が登録することになぜ成るかと思えます。スマホやタブレットと言われる類は、確かに便利な代物です。インターネット上で、自らのプロフィールや日常を紹介しながら、他者と交流を深めるソーシャル・ネットワーキング・サービスが全盛となっていますが、80周年の記念誌の作成に当っては、印刷物に勝るものは無いように思えます。

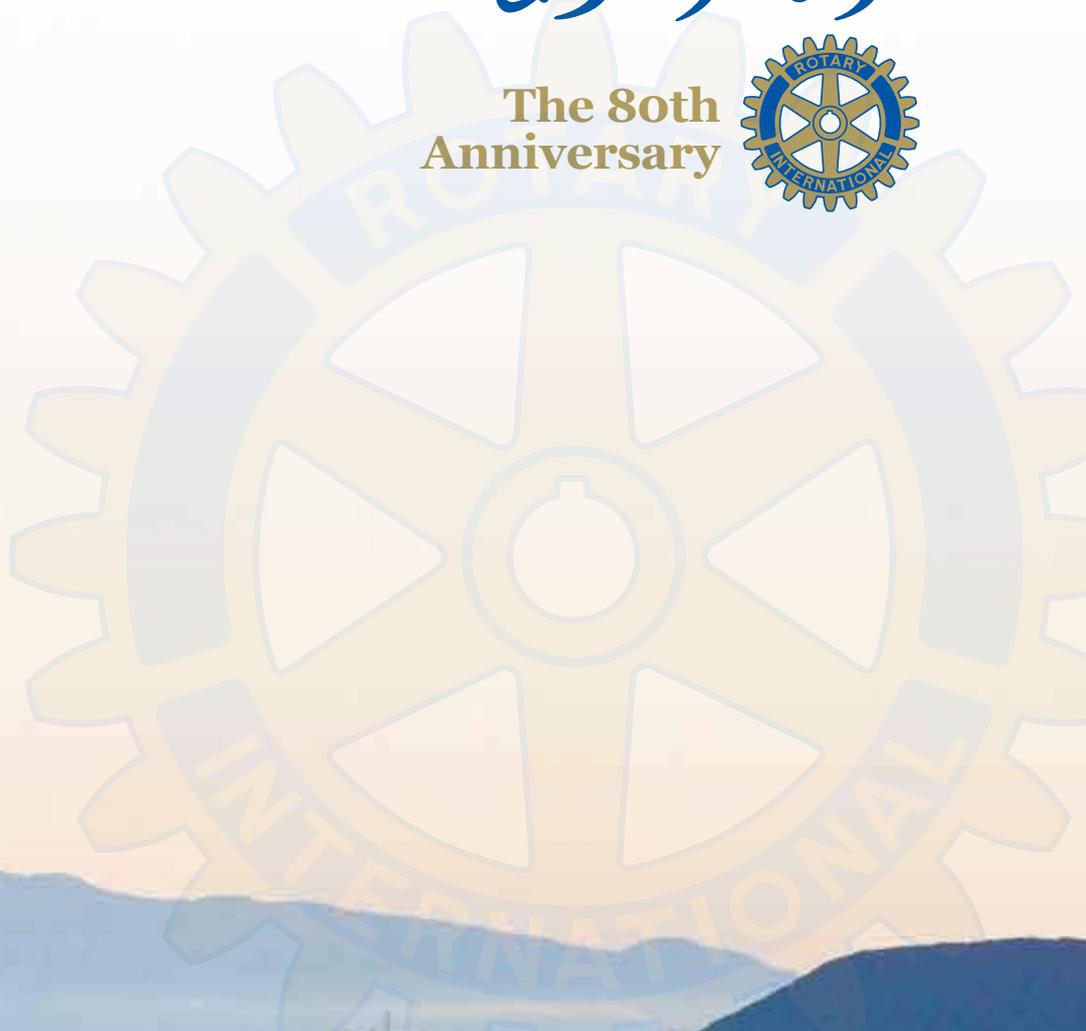
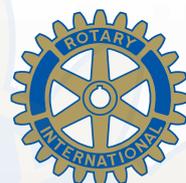
ですから私は今回、パソコンではなく万年筆を使って、この原稿を敢えて書いてみました。



History from establishment

創立からの あゆみ

The 80th
Anniversary





The 80th Anniversary

創立から 50年のあゆみ

— 50周年記念誌「静岡ロータリークラブの半世紀」より —



昭和60年11月25日発行
178頁

静岡ロータリークラブの半世紀

【内容目次】

序 五十年誌の発刊に思う 記念植樹・記念式典・祝宴

RI会長メッセージ 祝辞50周年記念式典に当たって

創立50周年を祝う記念式典及び祝宴 表彰を受けた方々

50周年記念植樹並びに記念除幕式

50年のあゆみ 創立から中断へ 創立から中断までの役員

戦前メンバーは語る 中断から再建期を体験して

再建から発展へ 歴代会長 現代 歴代会長

回顧と展望 座談会1 ベテランの味 座談会2

クラブの中核として 座談会3 次の100年に向かって

広がる奉仕 (RI・地区・分区での活動)

広がる友情

会員の一言

50年のあゆみ (50年誌よりの抜粋)

創立から中断へ (昭和9年～15年)

再建から発展へ (昭和25年～45年)

その後50周年へ (昭和46年～60年)



ポール ハリス



米山 梅吉

創立から中断へ

(昭和9年～15年)

あけぼの

静岡ロータリークラブ(以下RC)の戦前の記録は、昭和15年1月の静岡大火と昭和20年6月の空襲などで、その殆どが焼失し、昭和60年の「創立50周年誌」編纂時点では、松坂屋初代支店長堤瀧三氏と、元市の助役杉本良氏お二人の創立メンバーだけになり、資料収集は困難だったが、幸い先輩が編集された「静岡Rの歴史」(1955年編)と「三十路のR」1966年編)を参考に、50年誌林委員長が、図書館や新聞、東京のR文庫などから集めてくれた。

現存する資料で、最初に静岡RCの記事として昭和10年3月22日付の「静岡民友新聞」は、「人生の寂寥は金力を以てしては駄目だ」といふ信念の下に、真の友情からほとぼり出る交情の世界を作り出そうとして、R倶楽部なるものが生まれ出たのは今より30年前であるが、大静岡市の現実に伴って知名人士の往来も激しさを加えて来た今日においては、静岡にも是非そういう倶楽部の出現が必要とされて来たため、今度、有度村に出来る羽衣（綾羽）靴下会社の居初専務・三橋四郎次・尾崎元次郎諸氏が発起人となって、昨21日午前10時から大東館においてその打合会を行った」と報じている。

居初寛二郎氏は靴下の新工場建設のため赴任しており、元横浜RCのメンバーであり、唯一の経験者。その関係で横浜RCがスポンサーになったと思われる。（綾羽靴下はその後小糸製作所に）三橋四郎次氏は茶業組合理事として、日本の茶業界の大御所的存在。また貴族議員で政界でも活躍した地元の有力者。尾崎元次郎氏は静岡RCの初代会長として、昭和10年より約3ヶ年。また静岡市長として昭和17年から約2ヶ年市政を担当した。また青少年育成や森林業、茶業界、貴族議員でも活躍。

創 立

3月の発起人会から3ヶ月の6月24日、横浜RCがスポンサークラブとなり、創立準備委員長尾崎元次郎氏を始め、鈴木與平・片岡録郎・上中甲堂・居初寛二郎の5委員が中心となり、チャーターメンバー20名（清水より7名）により、浮月楼において創立会が開かれた。総会には、阿部知事・岡裁判長・水田検事正の他RI第70区ガバナー村田省蔵・横浜RC有吉会長他10名・東京RC小林雅一他2名・名古屋RC勝沼等の諸氏が出席された。

ここに、東京RCが大正9年（1920年）10月に創立されてから15年後、当時の日本で28番目の静岡RCが誕生し、静岡・清水の他にもRという「奉仕のりそうの灯火」が燈されるようになった。

クラブの事務所は、本通一丁目にあった静岡商工会議所で、例会は毎週木曜日12時30分、会場は静岡倶楽部であった。当時の入会金20円、年会費80円であった。

創立間もない8月には、大阪RC会員一行9名が自動車で東京に向かう途中、静岡に立ち寄り例会に出席した。これは大きく新聞に報道された。



創立総会（昭和10年6月24日）

チャーターナイト

クラブ創立から約10ヶ月の昭和11年4月3日午後2時より、新築間もない静岡公会堂ホールで、日本のRC創始者であり、本県長町の出身でもある**米山梅吉氏**を始め、各地RCより参加者200名、静岡RC会員23名が参加して、チャーターナイトは盛大に開かれた。

鈴木與平副会長開会挨拶・尾崎会長（市長）式辞・シカゴ市代表マックロー氏・第70区ガバナ朝吹常吉氏・スポンサー横浜RC代表野村洋三氏等の祝辞があり、午前3時半閉会。尾崎会長の案内で自動車にて旧御用邸・富士製茶・浅間神社・臨濟寺・商工奨励館など視察、6時半より浮月楼で晩餐会を開催した。ここでの仕掛け花火は静岡市のみが国内唯一許可を得たもので、来会者を驚嘆させたようだ。

余興では静岡・清水芸妓連の郷土色豊かな踊り、東京藤陰静枝女史の舞踏、茶の湯等有り9時散会。

お土産としてはクラブからは漆器塗の容器セット・シガレットケース・姫鏡台、静岡市より趣味の暖簾、会議所より山葵漬け缶詰、茶業連合会からは紅茶と緑茶が贈られた。

県外からの参加者としては、ハルビン福税関長、鹿島組社長、日本郵船支店長、陸上連盟会長、三菱重工業名古屋製作所長、画家、文士、大丸社長など200名が見えた。



チャーターナイトを伝える静岡民友新聞

楽しい例会

当時のメンバーはそうそうたる人たちだが、集まったのは12～3人くらいで、卓話にスピーカーを頼むことも少なくなく、食事しながら雑談会のような感じだったとか。支那事変も始まり、歌も「御代東海の空明けて…」酒やビールも気楽に飲んで愉快に会合を楽しんだそうだ。

静岡大火と友情

昭和15年1月の大火では、4人死亡、774人が負傷、5106戸が全半焼したが、国際Rの同情を喚起し、日満R各クラブは応分の救済金を募集。シカゴRより423円の送金もあった。

当時は県内にクラブは唯一つ。メイクアップもままならない。昭和12年第70区ガバナー里見純吉氏(大阪)は、国中の公式訪問で東奔西走のなか、月報に「静岡はその名の如く静かな都市に倶楽部を作りたるも、創立日は浅く、他倶楽部との交通少なき為、R気分を涵養するには尚時を要するべし。他倶楽部に出席し、または協議会や区大会への出席が何如に大切かを想わしむ。云々」と書かれている。なにせ隣が横浜か名古屋のRC時代なのだ。

ついに解散

全国に先駆けて静岡RCが解散に至ったのには理由があった。日支事変が発展し、軍部の統制がひどくなるにつれ、Rを見る目も変わり、RIは国際的の反軍的、スパイ行為の機関のように考えたらしい。例会の隣室にも私服特高警官が撞球をやりながら動静を監視したり、談話に耳をそばだてるようになる有様で、会合も次第に不快なものになってしまった。

そしてついに昭和15年8月、日赤病院院長佐藤太平氏は朝日新聞の江河勝太郎氏と共に憲兵分隊によれば、今は八紘一宇の時代、国際的などではない。やめたらどうか……。

そして当時の新聞に解散の記事が載った。

静岡市における有力者によって組織されていた社交団体なる静岡ロータリー倶楽部では昨8月8日木曜日の例会を開き、会員27名中13氏が出席。席上佐藤・江河両氏の爆弾的動議によって、創立以来6年の歴史を持つ同倶楽部は満場一致解散、直ちに東京日満ロータリー本部に通牒を發した。(略)

当時、日満Rには48RC、会員数2142名が加盟していたが、当クラブに続き、大阪、岡山、京都など、また東京クラブはよく9月11日に解散した。

その後静岡では「木曜会」という名称で引き続き有志が集まっていたが、大東亜戦争にも突入し、次第に集まる人も少なくなり、木曜会は自然消滅の形になった。



例会場の静岡倶楽部



解散を伝える新聞 (昭和15年8月9日)

創立から中断までの役員

1935.6 ~ 1936.6 (昭和10年 ~ 11年)

第70区ガバナー 村田省蔵 (大阪)
朝吹常吉 (東京)
会 長 尾崎元次郎
副会長 鈴木興平
幹 事 片岡録郎

1936 ~ 1937 (昭和11年 ~ 12年)

第70区ガバナー 佐藤昌介 (札幌)
会 長 中村圓一郎
幹 事 片岡録郎

1937 ~ 1938 (昭和12年 ~ 13年)

第70区ガバナー 里見純吉 (大阪)
会 長 甲賀菊太
副会長 三橋四郎次
幹 事 片岡録郎

1938 ~ 1939 (昭和13年 ~ 14年)

第70区ガバナー 松本健次郎 (大阪)
会 長 三橋四郎次
副会長 居初寛二郎
幹 事 片岡録郎

1939 ~ 1940 (昭和14年 ~ 15年)

第70区ガバナー 森村市左衛門 (東京)
会 長 鈴木興平
副会長 中田録郎
幹 事 片岡録郎

1940.7 ~ 1941.8 (昭和15年)

第70区ガバナー 平沼亮三 (横浜)
会 長 居初寛二郎
副会長 フレデリック・ヘリヤ
幹 事 片岡録郎

再建から発展へ

(昭和24年～25年)

1950～1952 (昭和24年～26年)

再建初代～3代会長 小塩孫八
幹事 清水一郎 岩城長保

昭和25年4月11日、東京RC会長小林雅一氏が来静、立会のもとに静岡RC再建創立総会が開かれ、小塩氏が推挙され、戦後再建の初代会長と決まった。



昭和25年11月18日 チャーターナイト



チャーターナイト懇親会 松坂屋 日本間

1952～1953 (昭和27年度)

第4代目会長 平野繁太郎
幹事 蛭川勝智

会員数46名 当クラブスポンサーによる清水RC創立総会開催。10名移籍。



昭和27年 家族会 田中屋

1953～1954 (昭和28年度)

第5代目会長 佐藤平太
幹事 蛭川勝智

佐藤氏は日赤病院院長。29年1月県内4クラブのIGFを開催。4月創立4周年記念講演会開催。

1954～1955 (昭和29年度)

第6代目会長 中田駿郎
幹事 蛭川勝智

日本平清掃 青葉通りにアカシア植樹 RI50周年記念県下5RC会長座談会をねHK放送。

1955～1956 (昭和30年度)

第7代目会長 川井健太郎
幹事 蛭川勝智

会員も増えたのえ友好を広めるべきだと語る。佐藤次郎左衛門ガバナーの公式訪問。



昭和30年2月 国際ロータリー 50周年記念

1956～1957（昭和31年度）

第8代目会長 阿部芳三
幹事 稲森利次

R奨励金1ドル。日本平56名の名月観賞。野球チーム編成、清水チームと対戦。

1957～1958（昭和32年度）

第9代目会長 土橋一雄
幹事 稲森利次

浜松RCとの親善試合。歳末助け合い運動に1590円醸金。原町図書印刷工場見学。

1958～1959（昭和33年度）

第10代目会長 鈴木信雄
幹事 稲森利次

第360地区大会が'59年静岡開催決定。静岡・清水合同忘年会。フランス大使と座談会。

1959～1960（昭和34年度）

第11代目会長 上野次郎吉
幹事 稲森利次

年度会費3万円に改定。10月静岡東クラブ設立。10月ホストとして地区大会開催。



昭和34年 年次大会

1960～1961（昭和35年度）

第12代目会長 鱸正太郎
幹事 志太勝次郎

静大教授・教育委員長の鱸氏。静岡・東静岡・清水・焼津4クラブ幹事会結成。シニア会員発表。

1961～1962（昭和36年度）

第13代目会長 柚原慶二
幹事 川辺繁

5月東京でRI国際大会開催。「友愛の家」で銘茶をふるまう。130名で浅間神社お月見会。

1962～1963（昭和37年度）

第14代目会長 青島富太郎
幹事 稲森祐一

アジア・ジャンボリーに5万円寄付。350・360合同の地区大会で上野氏時期ガバナーに。

1963～1964（昭和38年度）

第15代目会長 山崎順造
幹事 小林英則

清水美奈納涼家族会。ミラーRI会長歓送迎。上野ガバナー公式訪問。山梨・神奈川との356地区に。

1964～1965（昭和39年度）

第16代目会長 鈴木安蔵
幹事 片山平吉

鱸氏ガバナー・ノミニーに。横浜で地区大会。3月RI創立60周年記念合同例会。

1965～1966（昭和40年度）

第17代目会長 中村円三郎
幹事 青島廣幸

1月鱸氏ガバナー公式訪問。3月RI創立記念講演会、唐島基智三氏。明治百年記念つづじ贈呈。

1966～1967（昭和41年度）

第18代目会長 中村忠雄
幹事 渡会栄一

毎第一例会を「会員の日」に制定。静岡RC30年史「三十路のR」完成。359地区大会浜松。

1967～1968（昭和42年度）

第19代目会長 三上時太郎
幹事 林清見

9月静岡高校インターアクト・クラブ創立。年会誌に初代から5代までの会長略歴掲載。

1968～1969（昭和43年度）

第20代目会長 山本吉雄
幹事 河瀬卓二

トヨタ自動車工場見学。交通安全功労者表彰。北大路欣也の「坂本竜馬を語る」会開催。

1969～1970（昭和44年度）

第21代目会長 細川一郎
幹事 桜井武雄

今年度名誉会員に平野・川井・上野・佐藤・小塩の5氏。市内3クラブ合同アセンブリー。

1970～1971（昭和45年度）

第22代目会長 福地省吾
幹事 川井祐一

青少年委員会「市内高校生絵画展」開催。田中忠雄氏ガバナー・ノミネーに。家族会233名。

現代

（昭和46年～60年度）

1971～1972（昭和46年度）

第23代目会長 志太勝次郎
幹事 柴主多一郎

8月田中忠雄ガバナー公式訪問。地区内90クラブに。R財団奨学生特別地区指定。清水で地区大会。オマハRCとの姉妹提携成立。日本平クラブを発足させる。米山記念館見学家族会。

1972～1973（昭和47年度）

第24代目会長 稲森利次
幹事 桜井次郎

オマハで開催のミニジャンボリーに団長として会長参加。ローターアクト結成準備委員会発足。ハワイからイアンターアクト13名来静。蔦の細道ハイキング。3クラブ合同事務所開設。

1973～1974（昭和48年度）

第25代目会長 岡田新三郎
幹事 山本菊弥

ローターアクトのチャーターナイト250名出席。中央署にパトカー寄贈。昂揚の京都訪問家族会。親睦ゴルフ会・麻雀大会開催。

1974～'75（昭和49年度）

第26代目会長 大石益光
幹事 山下純一郎

静岡・山梨2県の362地区に。アディショナルクラブ設立準備委員会発足。RI70周年記念日に市内4クラブ合同例会。静岡新聞見学会。御前崎ホテルにて観月会、新そばの会。邦楽の会。

1975～1976（昭和50年度）

第27代目会長 尾崎徳郎
幹事 戸塚誠二

静岡RC創立40周年記念例会。チャーターメンバー

家族を招待。静岡西RC創立総会。会員5名移籍。老人ホームにTV寄贈。クリスマスに若手コーラス。40周年記念座談会開催。

1976～1977（昭和51年度）

第28代目会長 館石和夫
幹事 望月義弘

姉妹クラブ・オマハRCに5名訪問。オマハ市の交換学生2名受入れ。インターアクト3名香港へ。IGFホスト、ローターアクト地区大会ホスト。京都へ家族旅行会。

1977～1978（昭和52年度）

第29代目会長 尾玉連
幹事 谷田庄兵衛

5月第69回RI国際大会が東京で4万人参加で開催。262地区になる。奈良に家族旅行。インターアクト4名韓国へ。第8回市内高校生絵画展。

1978～1979（昭和53年度）

第30代目会長 林清見
幹事 鈴木和夫

静岡東ホストで20年ぶりの市内での地区大会。林会長静岡RCのルーツを調査。ゴミゼロ運動。下水処理場・ゴミ処理場見学。5月新緑の美術館・米山記念館など訪問。

1979～1980（昭和54年度）

第31代目会長 柴主多一郎
幹事 三上益弘

RI創立75周年年度。竜爪山にゴミゼロ掲示板設置。インターアクト韓国全州クラブ訪問。3月75周年祝賀会で75歳会員、75関連記念品贈呈。囲碁大会・麻雀大会・邦楽会など。



昭和55年 国際ロータリー 75周年記念

1980～1981（昭和55年度）

第32代目会長 渡会栄一
幹事 松崎至宏

青少年活動を重視。青年と語る会開催。静岡ホームに図書80冊寄贈。ローターアクト14名シンガポール訪問。紅葉訪問家族会・丸子白址へのハイキング。天ぷら賞味会。由紀さおショー。

1981～1982（昭和56年度）

第33代目会長 青島廣幸
幹事 遠藤嘉勇

トーク・イン・ロータリーを始める。国際交流パーティー70余名で開催。スター精密見学会。折戸湾納涼家族会。ゴルフ同好会再発足・65歳以上の熟年会発足。事務局移転。

1982～1983（昭和57年度）

第34代目会長 大畑憲太郎
幹事 平尾謙司

日本人二人目の向笠RI会長年度。2月家族含む17名でハワイ親善交歓旅行実施。新橋演舞場観劇会。地区大会でクラブ会報奨励賞受賞。ハンディーキャップスカウトに車椅子・炊飯セット贈呈。

1983～1984（昭和58年度）

第35代目会長 桜井次郎

幹事 時田行一

IGFホスト。田宮模型工場見学。インターアクト13名を含む18名でハワイ南ヒロとの親善交流。

忘年家族会はマジックショー。例会場中島屋から日興会館に移転。50周年準備委員会発足。

1984～1985（昭和59年度）

第36代目会長 川井祐一

幹事 才茂誉英

RI創立80周年・静岡RC創立50周年、262地区10周年。地区大会静岡南クラブホスト。

3月2000回記念例会。記念行事はケヤキの植樹。サウスヒロRCを8名で訪問。昭和60年4月1日創立50周年記念例会。記念式典・記念祝賀会実施。

記念式典・祝宴

記念式典は、日興会館5階、鳳凰の間で午後5時から開催された。会場は会員118名と夫人。来賓として、山本県知事・河合市長・262地区坂本ガバナー・スポンサークラブ横浜RCをはじめ県内・市内の格RC・海外友好クラブハワイサウスヒロRC代表などが集まり、川井会長は、「昭和10年会員20名から誕生してから50年が過ぎた。この間困難もあったがそれを乗り越え、希望あふれる21世紀への道を築くために、さらに前進することを誓い合いたい。」と挨拶。来賓からの祝辞のあと、昭和61年春開館予定の県立美術館の歩道に、ケヤキ74本を植樹する計画を発表し、山本知事に目録が贈呈された。その後クラブに功績のあった10名に感謝状を贈り終了した。祝宴は6階の光琳閣に移り、6時半開宴。室内楽の流れるなか、河野辺副会長の開会の辞につづいて、河合市長・サウスヒロRCケネス・イワナカ会長の祝辞、262地区阿部ガバナーノミニの発声による乾杯で祝宴が始まった。

イワナカ氏を含め前日から練習した会員バンドと共にハワイアンソングを歌って会場を魅了。

最後に「手と手をつないで」の大合唱で終了した。





座談会 その1

昭和59年8月20日

青島氏の司会で、山崎・福地・稲森・岡田の会長経験諸氏が「ベテランの味」として開催。

入会の思い出、思い出の人々、家族ともども、年代を超えてなど語り合った。

座談会 その2

昭和59年9月17日

同じく青島氏の司会で、渡会・林・川井・柴主・桜井・山下の会長経験諸氏中心に「クラブの中心として」開催。何と云っても参加が大切、危機もあったインターアクト、思い出の早朝例会、オマハとは永久友好、手回しの良い静岡クラブ、推薦者の責任は重大、打ち上げ花火より基本を等。

座談会 その3

昭和59年10月15日

幹事経験者を中心に青島・志田・稲森・林・川井・柴主・桜井・山本・望月・谷田・鈴木・松崎・平尾・才茂・平野辺の諸氏が出席。「次の100年に向かって」と題し、定款細則がロータリーの中心、外国クラブとのフレンドシップ、正会員もアクティブ会員、西クラブ誕生と羊羹の切り方、もっと会員増強を。米山奨学金問題、50周年は反省の年など話し合った。

広がる奉仕

RI・地区・区分での活動、職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕、青少年奉仕の諸活動。

広がる友情

楽しい例会、思い出の記、(手に手をつないで、ソングリーダーと私、七夕豪雨の思い出、海外RCに出席して、ベレー帽の思い出、親子二代にわたって、野球チームの誕生、邦楽同好会、囲碁・将棋の会、麻雀同好会、ゴルフ同好会、そばと食味の会など)

会員の一言

会員のアンケートで、あなたは静岡RC創立の昭和10年の頃、または再建の昭和25年の頃には、何をし、どんなことを考えて居ましたか。どちらか年度についてお答え下さい。

全会員の顔写真・生年月日とともに、アンケートの答えを収録した。



浅間山での観月会



The 80th Anniversary

新たな 30年のあゆみ

昭和60年度（1985～1986）

第37代会長は川野辺芳郎さんで、幹事は川村昭二さん、会員数は116名のスタートであった。

前年度は静岡RC50周年の年で、昭和61年4月に開館する「静岡県立美術館」へのプロムナードにけやき74本の植樹をして「けやき並木」を完成させる事業を達成した。2月11日に現地で「50周年記念植樹祭」と「記念碑除幕式」が行なわれた。この記念碑には



当時の会員名が刻まれている。

また、大畑憲太郎さんのご令弟が所属されているハワイのサウスヒロRCとの友好関係を深めるために、59年11月に会員8名で訪問して提携をはたすことができた。数年前から連絡を重ねていた事業で、4月1日の「50周年記念例会」にはサウスヒロからイワナカ会長とモリオカ国際奉仕委員長が来訪された。

川井祐一会長と才茂誉英幹事の年度であった。

この年度のRI会長はアメリカのエドワードF.カドマンさんで「ロータリーを通じて世界理解と平和を」をテーマとされた。

地区ガバナーは甲府北RCの安部豊任さんで、公式訪問は9月9日、地区大会は10月26～27日に甲府平安閣で行なわれた。

3月31日にはイギリスの107地区からGSEのチーム6名が来静し、例会出席後、河合代悟市長を表敬訪問し、SBS・静岡新聞社を見学のあと、浅間神社と臨濟寺を観光した。

恒例の忘年家族会は12月16日、日興会館で、新年フォーラムは嵯楽で1月6日行なわれた。各委員会のファイアースイドミーティングや同好会の活動もよく行なわれた。9月19日「喜久屋」で麻雀同好会。9月18日菊川カントリークラブでゴルフコンペ。10月27日に東京宝塚劇場での観劇会、11月13日「岩久本店」で新そばの会、12月1日藤枝カントリークラブのコンペ、3月26日「満寿一酒蔵」で利酒の会、3月29日500クラブでのゴルフコンペ。5月24日の南アルプス「二軒小屋」への家族旅行会がある。この計画は前年度にあったが相にくの雨で中止となり、2年越しの実施であった。更に6月29日の菊川カントリークラブのゴルフと仲々に盛んであった。

ファイアースイドミーティングでも8月7日上石町「柏木」1月10日ターミナルホテル「たち吉」5月16日常盤町「車や」などの記録がある。市内5クラブ正副会長幹事会も年間6回開かれている。

この年には小野辰二さん、山下純一郎さん、福地省吾先生、三上益弘さんが物故されている。

昭和61年度（1986～1987）

第38代会長は中須幹夫さん、幹事は野澤武良男さんで会員数は113名であった。

RI会長はフィリピンのM.A.T.ガバラスさんで「ロータリーは希望をもたらす」をテーマにかかげ、地区ガバナーは浜松RCの内田智康さんで9月1日に公式訪問があった。地区大会は熱海南RCのホストで5月12～13日に熱海のニューフジヤホテルで開催された。この大会で「ロータリー財団寄付10,000%達成クラブ」「ロータリー財団寄付優秀クラブ」「米山功労クラブ」の3つの表彰を受けた。IGFは島田RCのホストで2月1日に島田平安閣で開催されている。

中須会長は会員の親睦を主眼におき、昭和56年度会長の青島廣幸さんの「トークインロータリー」を復活させた。これは1つのテーマを例会のテーブル毎に話し合うもので、卓話を聞くのと違って会員同志の親睦もはかれるし、多くの意見が聞かれるスタイルで、その後もしばしば継続されている。

またこの年度に「新会員親睦小委員会」が新設された。川村昭二委員長が入会2年未満の会員を対象として年3回開催され、親睦とロータリー情報の伝達につとめた。

歴史ある静岡ロータリークラブの「駿府公園のつつじ」は従来社会奉仕委員会に属していたが「つつじ委員会」を独立させた。年間のつつじの管理には30万円の予算が計上されており、今年は市からの補助を受けることができた。62年4月20日のつつじ例会は「つつじ植樹35周年」を記念して故・高野敬作先生、安並宏先生、高木堅吉さん、渡会栄一さん、稲森利次さんに感謝楯を贈呈し、河合代吾静岡市長からの感謝状を受領した。

静岡高校のインターアクトクラブは昭和62年1月5日から8日まで韓国慶州を訪問し、慶州女子高等学校との交歓会は好評であった。

この年には静岡中央ロータリークラブが発足してテリトリーの重複割譲決議なども行なわれた。

また、マレーシア・ベナン市出身の張惜麗さんは静岡薬科大学3年に在学していたが、米山奨学生試験に合格して静岡RCがホストクラブとなり、林清見さんがカウンセラーとなった。

年間の行事としては9月8日の観月家族会、12月15日の忘年家族会、1月12日の新年会、4月28日の夜桜を楽しむ会が中島屋で開かれている。ゴルフ同好会も菊川カントリーと藤枝カントリーで4回行なわれた。

この年度には遠藤嘉勇さん、増井東平さん、館石和夫さんが物故された。

昭和62年度（1987～1988）



第39代会長は稲葉慶一さん、幹事は秋田早苗さんで会員数は111名であった。

RI会長はアメリカのチャールズC.ケラーさんで「奉仕に結束、平和に献身」をテーマとされた。

ガバナーは浜松東RCの加藤恒七さんで、ガバナーノミニーが病気になられたので昭和55年度からの再登場であった。公式訪問は8月10日であった。

地区大会は磐田RCのホストで11月7～8日にグラウンドホテル浜松で開催され、IGFは焼津RCのホストで焼津文化センターで行なわれた。

稲葉会長は従来の委員会構成を変えて「米山委員会」と「ポリオプラス委員会」を新設した。ポリオプラスのプロジェクトはRIが提唱して昭和60年度から活動を開始したもので3年目を迎えている。この事業に関連してポールハリスフェローに8名、準フェローに3名なっただき、この8,300\$とボックスによる約54万円と合計で約160万円を支援した。

恒例の行事は10月12日、新そばの会、12月14日に忘年家族会、1月18日に新年会、4月25日にはつつじ例会が行なわれた。

昭和63年度（1988～1989）

第40代会長は才茂誉英さん、幹事は山口良昌さんで会員数は110名であった。

RIの会長はオーストラリアのロイス・アビーさんで、テーマは「ロータリーに活力をあなたの活力を」をかかげた。

ガバナーは甲府RCの岡島哲之助さんで、公式訪問は10月3日の例会に行なわれた。地区大会は甲府RCのホストで3月25～26日に甲府の山梨県民文化センターで開催された。分区のIGFは榛南RCのホストで相良町中央公民館で行なわれた。

静岡ローターアクトクラブは創立15周年を迎えた。9月11日雨天ではあったが清水港の船内で記念例会が開かれた。昭和48年10月23日の第1回例会から360回目に当たっていた。ローターアクトクラブの在籍者の名簿が作成され、31名のチャーターメンバーをはじめとして162名が在籍したになっていた。

また、10月31日には親クラブとアクトの合同例会も開かれている。

かねてから友好を深めているハワイのサウスヒロRCを訪問する計画が実現した。才茂会長夫妻を含めた10名のスタッフが2月10日に出発している、盛大な歓迎を受けた意義ある事業であった。

韓国のソウルでRCの世界大会が開かれた。静岡クラブの大石益光さんはガバナーノミニーで、この大会に出席してガバナーエレクトになる。そんな機会であるからと会員とご夫人総勢33名がこの大会に出席した。

7月15日の家族旅行会はオープンしたばかりの東京ドームに行き西武・日ハムの野球を楽しんだ。9月26日は待月楼で観月家族会、11月7日は岩久本店で新そばの会、12月12日には日興会館で忘年家族会、昭和64年1月7日には昭和天皇が崩御されて年号は平成となった。その1月9日、中島屋で静かな新年会が行なわれている。5月29日の夜間例会は特別な初鯉を楽しむ会であった。

平成元年度（1989～1990）

第41代会長は実石貞次さんで幹事は高木悦壯さん、会員数は109名でスタートした。

RI会長はアメリカのヒュー M.アーチャーさんでテーマは「ロータリーを楽しもう」であった。地区ガバナーは静岡RCの大石益光さんで地区内69クラブの公式訪問をはたした。静岡RCには9月4日の例会であった。

地区ガバナーは静岡クラブからは田中忠雄さんが務められてから18年振りである。

地区幹事には林清見さん、柴主多一郎さん、桜井次郎さん、鈴木和夫さん、牧田早苗さんが担当した。地区大会実行委員会は、川井祐一さん、尾崎徳郎さん、青島廣幸さん、才茂誉英さんで編成された。その地区大会は10月7～8日に静岡市民文化会館で盛大に開催され、懇親会は静岡ターミナルホテルに移動して行なわれた。参加人員は2,100名と記録されているが地区大会のSAAを務めた野澤武良男さんは「もう二度とご免」といていた。地区会計は平野孝雄さんが担当した。

地区大会のホストも昭和34年以来30年振りであった。

IGFは藤枝RCのホストで2月25日藤枝エミナースで行なわれた。

年間行事も9月18日の観月家族会は清水市三保羽衣ホテルで開かれ、11月20日の新そばの会は伊勢丹の岩久店、12月18日は年末家族会、3月11日の家族旅行会は池田20世紀美術館とスカンジナビア号で昼食会をやっている。4月16日のはつつじ例会には天野進吾静岡市長も出席されて挨拶をしている。5月には初鯉の会も開かれた。

3月には高村金次郎さんを団長とするGSEメンバーをオーストラリアに派遣して4月9日に帰朝報告があった。その前の10月15日から11月10日にはGSEの受入れもしている。2月19日は市内6クラブの合同例会も日興会館で行なった。平成元年は静岡市制100周年の年で3日には駿府博覧会が開かれ、静岡RCにとっても55周年の年であった。



平成2年度（1990～1991）

第42代会長は戸塚陽二さんで、幹事には松川弘さんが当り、会員数は111名であった。

RIの会長はブラジルのパウロV.C.コスタさんで、テーマは「ロータリーを高めよう、思いを尽し、熱意を尽し」であった。

地区ガバナーは熱海南RCの本田成明さんで7月23日には静岡RCへの公式訪問をはたしている。しかし、その後何かのアクシデントがあって、前年度ガバナーの大石益光さんが9月27日の再就任された。地区大会の実行委員会は三島RCのスタッフで進められており、5月16～17日に三島市民文化会館で開催された。

分区のIGF（インターシティ・ゼネラル・フォーラム）はIM（インターシティ・ミーティング）と名称と内容が変更されて2月9日焼津RCのホストで「サッポロビール静岡工場」で開かれた。

10月8日の職場見学ではIMより前であったが焼津の「サッポロビール静岡工場」に行っている。新そばの会は10月19日、12月17日は年末家族会、1月7日は瓦楽で新年会と続く、4月14日の家族会は横浜中華街と、新しいベイブリッジの観光をしている。4月22日はつつじ例会、恒例の行事をこなしている。

ニューヨーク第725地区のGSEチーム6名が4月26日から5月25日まで来静して会員の宅にホームステイした。

この年度に前年度幹事を務めた高木悦壯さんが物故された。

平成3年度（1991～1992）

第43代会長は高村金次郎さんで幹事は影山弥太郎さん。118名の会員数であった。

RI会長はインドのラジェンドラK.ザブーさんで、テーマは「自分を越えた目を」でこの年は地区の名称が変更され1977（昭和52年）からの262地区が2620地区となった。

ガバナーは甲府RCの上原勇七さんで、7月15日に公式訪問をされている。地区大会は甲府南RCのホストで開催された。地区のIMは島田RCがホストであった。

この年は静岡インターアクトクラブがホストでインターアクトクラブ年次大会を11月23～24日に開催した。会場は東海大学の三保研修センターで成功裡に終了できた。

また、10月20日には「きれいな街・さわやかな街づくり」と題した環境美化活動を行なった。9:30から12:00までの時間帯だけであったが常磐公園から中心街、駿府公園までのエリアを対象に、静岡東・静岡中央・静岡北RCの協力と静岡ロータリーアクトクラブ、静岡インターアクトクラブ、静岡振興会などの参加もあって総勢400名の活動であった。

オーストラリア、メルボルン、ノーブルパークRCを高村会長夫妻他会員家族11名で2月5日から12日まで親善訪問され国際理解を深めた。

10月22日には吐月峠柴屋寺で観月家族会があり、11月25日には岩久本店で新そばの会、12月16日は日興会館で年末家族会を開き、ビンゴゲームや大サイコロゲーム、バナナのたたき売りなどのアトラクションがあり楽しかった。

1月6日は瓦楽で新年会、4月19日に織田信長史跡めぐりの家族会をやり、4月27日は恒例のつつじ例会だった。6月10日、トヨタ自動車東富士研究所の視察も行なっている。

3月23日に市内7クラブの合同例会もあった。

平成4年度（1992～1993）

第44代会長は望月義弘さんで幹事は稲森正彦さん。会員数は119名のスタートであった。RI会長はアメリカのクリフォードL.ダクターマンさんで、テーマは「まことの幸福は人助けから」をかかげた。地区ガバナーは浜北RCの乾昇さんで、公式訪問は8月10日、地区大会は11月28～29日に浜松西RCのホストで行なわれた。

第5分区のIMは静岡RCのホストで2月13日実行委員長林清見さんと幹事鈴木和夫さんで参加者300名で行なわれた。6月28日には打ち上げの会まで開催されている。

ローターアクトクラブは創立20周年を迎えた。9月に6日間のハワイ海外研修を実施した。静岡からの4名を含む20名は、ハワイ大学でのリーダーシップセミナー、老人ホーム慰問や小学校訪問、歓迎ピクニックなど充実した研修をすることができた。3月14日には青葉イベント広場でチャリティバザーを実施。収益金17万円を地区の「バングラディッシュに学校を設立する特別基金」に寄附をした。

5月5日には20周年記念例会を日興会館で開き乾ガバナー、内田パストガバナー、中込青少年委員長などの来賓を迎え盛大に行なわれた。

10月8日、岡部の玉露の里で観月家族会が計画されたが雨天となりお茶室とテントの会場となってしまった。12月14日は年末家族会、1月11日は新年会、3月26日は日興会館で麻雀大会、4月18日には家族観劇親睦会でミュージカル「ミスサイゴン」に行った。4月26日にはつつじ例会、5月23日は伊豆天城へのハイキングで八丁池をめざし、湯ヶ島での露天風呂を楽しんだ。6月7日には西ヶ谷の清掃工場の視察も行った。

この年には静岡クラブの新しいバナーも作成され、11月にはサンディエゴからのGSEも迎えている。

悲しいことでは佐々木市五郎さん、安並宏さん、川村昭二さん、坂本茂美さんが物故されたことであった。

平成5年度（1993～1994）

第45代会長は岡田宏司さん、幹事は田中楯夫さんで年度初めの会員数は116名であった。RI会長はスイスのロバートR.バースさんで、テーマは「行動に信念を信念は行動に」とされた。2620地区ガバナーは静岡西RCの中村孝次郎さんで公式訪問は7月26日、地区大会の静岡日本平RCのホストで11月6～7日静岡市民文化会館で開催された。IMは静岡北RCのホストで2月6日に実施されている。

市内7クラブの共同事業として5月14日、静岡銀行アゴラホールに市内高校生500名が参集し「私の夢と職業」と題したVGP（ボケイショナル・ガイダンス・プログラム）を日本人最初の宇宙飛行士秋山豊寛さんの基調講演と、SBSの松野輝洋アナウンサーの司会で、グローバルリンク総合研究所の上川陽子さん、高木滋生建築設計事務所の地域環境デザイナー久保田翠さん、静岡市会議員の田辺信宏さん、元日本青年会議所会頭の西村予史男さんのパネルディスカッションは充実した内容であった。

前年度実施した街の美化運動は3月13日、今年もローターアクト、インターアクトの参加があつて60名で実施された。

8月30日の第2400回記念例会はローターアクトの合同で開かれ、創立スポンサーの東京クラブから巴川製紙会長の井上貴雄さんを招待して来賓卓話をいただいた。

10月1日の崑久屋での観月会に49名参加、12月13日の年末家族会は164名が参集し、スエーデン出身の女性歌手リリコさんとナポレオンのマジックショーなどのアトラクションを楽しんだ。

1月10日は新年会。3月6日には一泊の家族旅行会で24名が遷宮直後の伊勢神宮を参拝、松阪牛の和田金での食事をいただいた。3月14日は7クラブ合同例会、4月25日につつじ例会を行なっている。

平成6年度（1994～1995）

第46代会長は鈴木和夫さんで、幹事は杉山孝俊さんが務められた。会員数は114名であった。RIの会長はイギリスのビル・ハントレーさんでテーマは「友達になろう」と簡潔であった。ガバナーは富士吉田RCの内藤成雄さんで公式訪問は11月28日、地区大会は富士急ハイランドリゾートで開催された。

第5分区のIMは3月5日、焼津南RCのホストで実施された。

ローターアクトクラブでは地区代表に秋山一夫君が選出されたので11月13日に清水のマリンビルで静岡RACのホストで第21回地区大会を開催した。参加者は139名を数えた。

オーストラリアからの青少年交換留学生のシャノン・バリー君は国際奉仕委員長の荻原英生先生のお宅にホームステイしていたが、9月に同級生たちがノーベルパークから来静し静岡のインターアクトと交流した。藁科川上流にある鮎のつかみどりセンターでリクリエーションを楽しみ、インターアクトの家庭に宿泊した。引率の先生も静岡の先生も有意義な2日間だと好評であった。

11月にはアメリカのコロラド州デンバーからGSEチームが来静し、シャノン・バリー君は田中楯夫さんの処、牧田静二さんの処、伴野隆一郎さんのお宅とホームステイを重ねた。

12月には西クラブでお世話していた交換留学生のオーストラリアのナタリーさんと合同でのお別れパーティーが行なわれた。バリー君は平成7年1月11日、荻原先生に見送られて成田からオーストラリアに帰国した。



9月29日は満観峠にハイキングを実行し、10月10日は吐月峠柴屋寺での観月会、10月24日は職場見学、10月31日の夜間例会でもシャノン・バリー君は3分間スピーチをやっている。12月12日に年末家族会、1月9日には新年会と行事が続いた。

静岡RCは昭和10年6月24日創立総会、9月27日RIの認証を受けているので60周年に当る。還暦を迎えたわけであるから、4月10日に60周年還暦記念祝賀会が開催された。スポンサークラブの横浜RC大須賀会長、内藤ガバナー、旭分区代理、近隣RC会長などを招待した。記念に還暦の赤いちゃんちゃんこに見たてたエンジのベストを作り当日は全員着用して雰囲気をもりあげた。



4月24日にはつつじ例会も行なわれ、初纏の会もあった。

鈴木会長はロータリー財団奨学生の選考のために中国浙江省杭州の杭州大学に3月7日から10日まで訪問している。

なおこの年度には石川敏二さん、時田行一さん、稲森利次さん、横山護夫さん、水野種一さんが物故されている。

平成7年度（1995～1996）

第47代会長は松井純さん、幹事は増田悦男さんでスタート時の会員は118名であった。

RI会長はアメリカのハーバードG.ブラウンさんでテーマは「真心の行動・慈愛の奉仕・平和に挺身」をかかげた。ガバナーは吉原RCの高橋堯昭さんで公式訪問は9月11日、地区大会は吉原RCのホストで11月11～12日に富士ロゼシアターで開催された。この年度に青島廣幸さんはガバナーノミニーに選ばれた。

IMは榛南RCのホストで3月10日に開催された。

中国浙江省杭州大学からのロータリー財団奨学生夏菊分さんは9月に来日した。3月25日の例会では「日中文化の相異点」と題した卓話があった。そして7月には帰国した。

10月9日に観月会、10月23日の職場見学では浜岡原子力発電所に伺った。11月20日にはけやき例会、12月18日に年末家族会、1月8日は崑楽で新年会、4月22日のつつじ例会など恒例の行事が行なわれた。珍しい事は9月10日に駿府公園東北側の堤のつつじの手入れが会員の手で行なわれたことがあった。

残念なことは田辺三平さんが物故されたことである。

平成8年度（1996～1997）

第48代会長は牧田静二さん、幹事は伊藤恒道さんで会員数は118名を数えた。

RI会長はアルゼンチンのルイス・ビンセンテ・ジアイさんでテーマは「築け未来を、行動力と先見の眼で」であった。

2620地区ガバナーは静岡RCの青島廣幸さんで地区幹事は田中楯夫さんが務められた。公式訪問は12月9日、地区大会は11月9～10日、静岡西クラブのホストでツインメッセの会場で行なわれた。登録人員2,189名の大成功であった。

この年の第5分区代理は柴主多一郎さんでIMは静岡RCのホストで実行委員長は桜井次郎さんが当った。3月1日、会場は駅前のAOIホール、パイプオルガンの演奏は中野ひかり先生、記念講演は「真の国際協力のあり方」でレシャー・カッレド博士が流暢な日本語で話された。懇親会は別会場で行なわれたが323名が登録し成功裡に終了した。

国際親善奨学生として浙江省杭州大学から張雅麗（チョウガレイ）さんを迎えた。昨年の夏菊分（カキクブン）さんに続いて2人目であった。県立大学で学んでいた張雅麗さんは4月7日の例会で「中国からの留学と不法渡航について」と卓話をしている。杭州大学では建学100記念式典があり、会長の牧田静二さんと張さんのカウンセラーに当った田中楯夫さんに招待状が来て2人はこの式典に参列した。

米山奨学生の久冬梅（ヨウドウバイ）さんやオーストラリアからの交換学生エマ・ルイーゼ・クルージャーさんの世話などあって国際奉仕委員長の伴野隆一郎さんは多忙であった。ホームステイは牧田静二さん宅、萩原英生さん宅、田中楯夫さん宅、今井利昭さん宅、桜井一郎さん宅にも担当していただいた。

10月24日には浮月楼で観月会、10月27日は紅葉の井川勘行峠から富士見峠へのハイキング会。12月26日の日興会館での年末家族会ではハワイアンのアトラクションがあった。1月6日は新年会。4月13日は桜と富士山の田貫湖湖畔へのハイキングがあった。4月28日はつつじ例会、5月11日は天竜舟下りの家族会、5月12日は職場見学で静岡赤十字病院に伺っている。5月26日はけやき例会と行事が続いた。

パストガバナーの大石益光さんが5月22日71才で亡くなられた。6月23日の例会は卓話なしで大石さんの葬儀に参列した。

平成9年度（1997～1998）

一年をふり返って

会 長 松崎至宏

“ただ今から第2575回の例会を始めさせていただきます。身に余る大役をいただき、大変緊張しております。”と始まった第一回例会、不肖の身で一年が無事務まるかという不安に、挨拶の声も震える出発でした。皆さんの温い友情、ご声援により、何とか一年を終わり、次期会長へのバトンタッチができますことに、望外のしあわせを感じると共に、心から感謝しているところです。

会運営の柱を親睦におき、行事への会員参加を皆さんに呼びかけました。活動方針にも述べましたように、私はロータリー活動を円滑に進めるための基盤となるのが、親睦であると考えています。職種の異なる多くの人と知り合い、クラブライフを通じて、種々の活動に参加し、共に力をあわせることにより、相手を知り、己を知って貰う中に、お互いを認めあう友情が生れ、それが次の仕事を生んでいくのだと思います。その交友関係の中で、お互いが啓発され、その啓発された心がお互いの職業に生かされ、そこに奉仕が生まれるのだと考えます。

当クラブの特徴として、静岡に支店を置く会社、銀行などの支店長として勤務される、在籍2～3年のメンバーが1／3おられます。そのメンバーのクラブへの参加妙何が、クラブの活性に大変影響します。当クラブでは、その点に留意し、10年位前から、新会員親睦小委員会を設け、直前幹事を委員長として、新会員が一日でも早く、クラブにとけ込めるよう、年2～3回の委員会を開いて参りました。本年度も、伊藤（恒）委員長が熱心に対応していただき、その役割を十分に果たしてくれたと思っています。

荻原委員長をはじめ、親睦委員会の皆さんも、会長の意を汲んでいただき、春秋のハイキング、お月見、ハゼ釣り、年末家族会等、大変に工夫をこらして、参加を呼びかけ、実績をあげていただきました。

プログラムを担当していただいた村井プログラム委員長には、お忙しい中を、バラエティーに富んだ卓話者をお選びいただきましたし、ソング・リーダーの藤牧さんには、毎回タクトをとって、例会を盛り上げていただき、又多彩なご趣味を生かして、ハイキングを計画していただきました。

クラブにとって、新しい血の注入は常に大切です。丁度変わり目にさしかかったのか、お仕事が終われるのを機に、退会するベテラン会員が何人かあり、転勤する支店長さんの退会と重なって、100名の会員での出発を余儀なくされました。これも、望月会員増強委員長をはじめ、会員の皆さんのご協力により、112名まで回復し、新旧の入れ代わりを果たすことができました。

対外的にも、中野社会奉仕委員長のお骨折りのもと、“小さな親切運動”に毎回沢山のメンバーが参加していただきました。

西村国際奉仕委員長には、GSEの受入れを担当していただきましたし、オーストラリアからの交換留学生エマさんの受入れは、牧田、荻原、今井、伴野、田中（楯）、櫻井の皆さんで、一年のホームステイを引受けていただきました。

東青少年奉仕委員長には、市内6クラブとの協力による、新世代会議を成功させていただきました。

志田インタクト委員長には、静高インタクトを引率して、アメリカ・パロアルトロータリークラブ訪問の国際交流を果していただきましたし、山崎ロータクト委員長には、ロータクト25周年記念行事にお力をいただきました。

山積みする事務をテキパキと処理していただいた、八木さんをはじめ、事務局の皆さんのお力も忘れません。

あれも、これも皆様の暖かい友情、ご協力の賜物と心から感謝し、御礼を申し上げる次第です。有難うございました。

平成10年度（1998～1999）

1年をふりかえって 会長 野澤武良男

3年前の11月に、当時の牧田会長と大先輩の志田さんから、「次々年度の会長を」といわれた時はびっくりして、私なんかには伝統ある静岡ロータリークラブの会長がつとまるのかと不安で一杯でしたが、1年半はあっという間に過ぎて、会長となる年度がやって来ました。幹事に稲葉卓一君をお願いして、相談し乍ら理事・役員・各委員長の人選をし、お願いしたところ、全員快く引き受けて下さってほっとしました。そして1998年7月1日より会長年度が始まりましたが、今になってみると、長くて、短い、そして緊張しました楽しい1年間でした。これといった業績も残せませんでした。又これといったトラブルもなく、大過なく過ごすことが出来た1年でした。これも稲葉幹事をはじめ、スタッフの皆さんのご協力のお陰と深く感謝している次第です。

ロータリー財団寄付をはじめ、諸々の協力金については、全てクリア出来ましたが、唯会員増強については、プラス、マイナス0で、残念ながら純増を達成することが出来ませんでした。

当所より掲げた「エンジョイ・ロータリー」の線で、クラブ内の融和を第一に心がけ、又毎週の会長挨拶は「温和知新」をモットーに、その時折にちなんだ逸話やら、地元からんだ古い話しなど、つまらない話しを毎週させて頂きましたが、会員の皆さん、良くあきもせず、聞いて下さいます、ありがとうございました。



私は先日の年度初めのクラブフォーラムで、19年皆出席賞を頂きましたが、会長の年度には、是非初めての「ホームクラブ100%出席」を達成したいと、ひそかに決意しました。忘れもしない、今年の3月29日の例会日に、我が母校、静岡高校が春のセンバツ野球に19年振りに甲子園に出場し、その初戦が、その例会日、3月29日の月曜日に、千葉の柏稜高校と初戦することになってしまいました。第2試合でしたので、順調に行けば、17時34分着の「ひかり」で帰って来て、その日は夜間例会でしたので充分間に合うと、喜び勇んで甲子園へ出かけました。ところが第1試合から延長戦、第2試合も延長戦となり、帰るに帰れず、いらいらし乍ら応援し、延長12回7-5で柏稜高に辛勝しましたが、時間はすでに午後4時近く、急いで新大阪より新幹線にとびのり、静岡へ着いたのが午後7時半近く、走って日興会館の例会場へかけつけたら皆で輪になって「手に手つないで」を唄ってるところでした。あわてて輪の中に入って、唄いました。唄い終わってから、遅延のおわびと、当日の甲子園報告をしましたが、これで念願の「ホームクラブ100%」の夢も消え去ったかと思ひ、メーカーキャップをしましたが、その後事務局員から「野澤さん、あの日は出席になっています」といわれて、嬉しいやら、後ろめたいやらの複雑な心境でした。記録上は「ホームクラブ100%出席」は達成出来た訳ですが、私としては「99.5%出席」かなと反省しておりますが、どうか大目に見て頂いて、お許し頂きたいと願っております。

終わってみれば、あっという間の1年間でした。会員皆さんのお陰で、今までにない充実したロータリー・クラブを楽しく送ることが出来ました。改めて皆さんに厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

平成11年度（1999～2000）

反省とお礼

会 長 秋田早苗

「光陰矢の如し」と申しますが、本当に月日のたつの早いものです。昨年7月、会長に任命されてから今年6月までの12ヶ月間は、あっと言う間の出来事でした。

65年の歴史ある静岡ロータリーの榮譽を傷つけないようにと、私なりに精いっぱい努力をいたしました。が、しょせん一人では何も出来ないのがロータリー活動であることを改めて教えられました。もとより浅学非才の身であります。が、静岡クラブの嬉しいところは、任に当たった人間を幹事、副幹事をはじめとする全員が協力して盛り上げてくれることです。ここが世間から「静岡ロータリークラブは大人のクラブ」と言われている所以ではないかと思つた次第です。

昨年の年度初めのあPETSにおいて、RI会長およびガバナーの方針等、いろいろ勉強をさせていただきましたが、カルロ・ラビツアの提唱する「活動は堅実・信望・持続」というターゲットは少し難しいものではありましたが、何か自分にロータリーの在り方を教えていただいたような気がいたしました。特に20世紀から21世紀に向けて新しい時代を迎えるロータリーが、とき伝統を継承しながら、新しい風にも目を向けようとするものの考え方と行動には、目から鱗が落ちる感じがしました。

そして勝山ガバナーが「クラブ内部の強化こそロータリアンの最大の責務である」と説いている点については、生意気な言い方をすれば、全くその通りであると思つます。

私は会長の任に就くに当たって「ギャップを埋めてロータリアンの絆を強めよう」を目標に掲げました。具体的には以下の5項目を提唱しました。



『人類の英知を築いた20世紀から21世紀へ、そして新たなミレニアムへ、今まさに歴史の新しいページが開かれようとしています。65年の伝統と榮譽を誇る我々静岡ロータリークラブは積極的に新しい会員を仲間に加えて、ロータリー精神を受け継ぎ常に新鮮で力強く発展することを指針とします。

- ①世代のギャップを埋めてロータリアンの絆を強めよう
- ②入会歴による奉仕のギャップを埋めてロータリアンの絆を強めよう
- ③地元会員と県外企業体各ロータリアンのギャップを埋めて絆を強めよう
- ④各委員会ごとのギャップを埋めて委員会同士が協力して点から面の活動しよう
- ⑤地域ニーズとロータリー活動のギャップを埋めて地域社会とともに歩もう』

以上ですが、クラブ組織が肥大化すると無意識のうちにはクラブの一枚岩が崩れてくるものと思つます。外に向かつての活動と内に向かつての活動、この両輪がうまくかみ合つてこそ初めて強固なロータリークラブが形成されるのだと思つます。特に静岡クラブは県外企業メンバーが25%を占め毎年のように入れ替わっています。この事は常に新しい風がクラブを新鮮にしてくれます。そして、それに対するインターアクションも大切なことだと思つます。

いずれに致しましても、この1年間、会長という大役を務めることができましたのは東幹事、萩原副幹事、アッセンブリーメンバーと全会員皆さまのお陰と心から感謝を申し上げます。

最後に静岡クラブの益々の発展をお祈りしてお礼の言葉とさせていただきます。

平成12年度（2000～2001）

1年を振り返って

会 長 向坂達也

2000～2001年度という、20世紀から21世紀へと、新しい世紀に跨る記念すべき年度に会長を務めさせていただきました。

この年度のフランク J. デブリン国際ロータリー会長は、この年度のテーマとして「意識を喚起し、進んで行動を」と提唱されました。私はこのテーマを「ロータリーの精神に則って、原点に還って見つめ直し、進んで行動しよう。」と提唱されているものと解して、ロータリーの基礎は、そしてロータリーが他のサービスクラブと根本的に違う点は、「会員一人一人が、その業務を通じて、クラブに・地域社会に・世界に貢献することにある」ことから、まず、「自分の仕事を、日ごろから、お互いに、世のため、人のためになるように、良い仕事をして行こう。」と、この1年間呼びかけて行くことにしました。

また、クラブが円滑に運営されて行くためには、会員が本音で語り、交流し合えることが大切で、そのためには会員間の世代や入会歴などの差を埋めて、会員間の絆を強め、深めることが必要だと思い、私はこの年度のテーマとして、先の呼びかけに加えて「等しく、楽しく」を提唱することにしました。

そして私はその実践として、役員・理事や委員長などを世代や入会歴などにこだわらずに経験回数の少ない方からまず選考してお願いしましたところ、大半の方が快くお引き受け下さいました。

この1年間、私自身は大したことはできませんでしたが、なんとか静岡ロータリークラブの伝統や品位を汚すことなく運営することができたとすれば、それはアッセンブリーメンバーの方々や会員の皆様方のご協力のお陰に外なりません。心から感謝と御礼を申し上げる次第です。

この年度においてホストを務める行事として、静岡市内7クラブの合同例会がありました。講師の選考にあたっては篠崎プログラム委員長のご努力によって、山本武彦早大教授に「21世紀の日米関係」と題してご講演いただきました。アメリカのブッシュ政権発足直後で、時宜にかなった内容だったと、お陰様で好評でした。

また、最終例会直前の静岡ロータリークラブの創立記念日の日に、駿府公園内で、小嶋静岡市長や都市整備部長などのご参列を得て、「つつじ植樹記念碑」の除幕式を行うことができました。一昨年度の野沢会長の時に、私は最後のつつじ委員長に選任され、つつじの管理を静岡市に移管する役割を担当し、その後始末としての記念碑の除幕式を私の年度内に実施できて、やっと肩の荷を降ろせた感じがいたします。これには管理の移管に際して、高野元会員らのつつじに関して来られた先輩諸氏のご了解を得ることなどの、地味なしかも辛い役割を果たしてこられた野沢元会長や当時の理事役員の方々や、記念碑の建設や除幕式について、何回となく現場に出向かれるなどしてご苦勞された田中委員長はじめ記念碑建設小委員会の皆様方などの大勢の方々のお力添えの賜物に外なりません。



5月には、静岡ロータリーアクトクラブがホストクラブとなって、R I 2620地区のローターアクト地区年次大会が開催されました。年齢制限があり、価値観や生活様式などが多様化している中で、ロー

ターアクトの継続には、アクト会員はじめスポンサークラブの理解ろ不断の努力が欠かせません。静岡ローターアクトクラブの創立に関与した一人として大変感慨深い会合でした。

この年度、交換留学生の受け入れがありました。ホームステイとして各家庭への受け入れには、同世代の子弟がおられないご家庭なども多く、御家族はじめ国際奉仕委員会などの関係者の皆様方に、大変ご心労やご負担をおかけしました。お引き受け下さいました方々に、心からお詫びと御礼を申し上げる次第です。

親睦委員会は、今年度の私のテーマである「等しく、楽しく」を大いに実践して下さいました。観月会は、万葉の宴と題して、雅楽の舞や琵琶の演奏があり、私も娘と共に、衣冠束帯と十二単の平安時代の服装で月見をさせていただき体験を味わいました。また、年末家族会では、会場を豪華客船に見立てるということで、タキシードを着る機会が与えられました。春の箱根の家族旅行の外、「緑・花・祭」の見学を追加行事として急にお願いしましたのに、丁寧に取り組んで下さいましたし、夜叉神峠と賤機山のハイキングや新会員親睦委員会の会合と共に、大いに親睦の機会を作して下さいました。

職業奉仕委員会による浜岡原子力発電所の職場見学、社会奉仕委員会による小さな親切運動へ参加の清掃活動、財団委員会による財団認証ポイントの活用によるマルチおよびポール・ハリス・フェローの増大、会場監督による適切な例会進行、出席委員会による出席増大のためのフォーラム、会報委員会による毎週欠かさぬ会報の発行、会員選考委員会による不況の中の会員増強への努力などなど、どの委員会も事業計画を予想以上に達成して下さいました。また、いうまでもなく、萩原幹事・志田副幹事には、一方ならぬご支援・ご協力を賜り、お礼の言いようもありません。

最後に、この1年、会長挨拶に際して私個人に関する思い出話や体験談、趣味の話など身の回りの話ばかりしてきました。浅学非才での気の利いた話ができないことと、社交性に乏しく、取っ付きにくいと言われる私を少しでも知っていただくためには、恥やプライバシーを恐れず在りのままに話す以外にないと思ったからに他なりません。しかし、他人の私事を食事の時間帯に聞かされた皆様方には、さぞご迷惑なことだったのではないかとお詫び申し上げます。次第です。

加えて、個人的なことでは、副会長の1年とこれに続く会長としての1年の2年間は、亡妻にはじまり亡妻で終わった丸2年でした。病状にあった妻は、'99年6月29日に息を引き取り、私が副会長に就寝した7月1日が葬儀、3回忌の翌日に私の会長の任期が終わりました。亡妻の「自分が重荷にならなければ」との願いが、神仏に通じたかのように、私は身軽にロータリーの役員として2年間、その任に専念できる結果となりました。

日本平での万葉の宴の観月会で、
いにしへの衣をまとい庭に出て
月の光に 亡き妻 想ふ
と詠んだ一首を想い起こします。

皆様のご協力ご支援、本当にありがとうございました。



平成13年度（2001～2002）

一年を振り返って

会 長 福田 榮

長くて、そして短かったこの一年間を振り返ると本当に夢のような気がします。左膝の骨折で入院中に会長のお話を頂いた当時は、まだ先のこと、それまで生きていればの話とのんびり構え、副会長として2番テーブルに座るようになってからはもう後戻りは出来ないと覚悟し、3月のPETSに出席してガバナーのレクチャーを受けてこれは大変だがやるしかないかと腹を括り、そして2001年7月2日、ついに会長としての初の例会を心身を震わせながら迎えたわけでした。それからの1年間、まことに浅学非才の身でありながら兎に角能力の限り一生懸命に役目を果たそうと走ってきました。そしてやっと任期が終わり、肩の荷が下りホッとした反面ガラんとした空き部屋に入っているような虚ろな感じもしている昨今、この2、3年のいろいろな出来事が走馬灯のように思い出されます。

私が常に幸せと感じていたことは非常に多くの会員の友情に包まれていたことです。何かにつけご指導を頂いた青島パストガバナー、有能で気配りに優れた志田幹事さん、ユーモアに富んだ伴野副幹事さん、アイデアと実行力でクラブをリードして下さった理事・役員・クラブアッセンブリーの方々、そして会員諸氏の暖かいご協力。私が会長としての任を果たすことが出来たのは一に多くのスタッフの力の結集によるものであったことを痛感しております。

私はクラブの目標として「楽しく 肩が凝らず生き生きと」を提唱いたしました。その具現に大いに努力して下さったことは本当に感謝感謝の至りです。またこの年度はR Iの定款・細則の改定を受けて静岡ロータリークラブの定款・細則・内規などを改定する大変な作業がありました。得にシニア会員資格消滅に伴う新職業分類の作成は大変なことでしたが、志田幹事さんたちのお陰で今後永い間活用



できる分類が定まりました。その他例会・トークインロータリー・社会奉仕活動・親睦活動など多くの行事についても各委員会の斬新なアイデアによって一層楽しく生き生きとした変化を取り入れられたことは好かったと思っております。皆さん本当に有難うございました。

このように思い出一杯の1年でしたが、只一つの痛恨事は私自身5月26日の富士山こうもり洞穴内での転倒事故でした。膝の骨折以来脚力が低下し、それに暗い中で視力が落ちていたため足元が悪くよろけたのだらうと思いますが、転倒したこと、救急車に乗った事は今でも思い出せません。現役時代何回となく診てきた頭部外傷の意識障害をこの年になって実体験するとは思ってもみませんでした。その節はご迷惑をかけて申し訳ありませんでした。医者が自分で怪我をしてしまうなど慙愧の至りです。ただ回復が齢の割には意外に速かったことは幸いです。

この1年間を振り返って自ら得たものは非常に大きく、その価値は計り知れないものがあります。やはり静岡ロータリークラブに17年間お世話になったこと、そして人生にとって掛け替えにない宝を頂いたことに私は心から感謝いたします。今後も理事として何かクラブのためにお役に立てばと願っております。また福地年度が会長のリーダーシップと素晴らしい多くのスタッフによってますます発展の年になりますことを心から祈っております。

平成14年度 (2002 ~ 2003)

反省とお礼

会 長 福地益人

父がロータリークラブの会長に選出され、最初の例会日前に決意したメモ書きがある。今回の年会誌では、その文を、亡き父の許可を得て、その全文を掲載してみたい。

父は昭和32年に静岡ロータリークラブに入会し昭和61年に退会、その年に死亡した。父は当クラブの会長を引き受けたことを、日本臨床外科医学会の第42回総会会長を引き受けたことと同じほど名誉と思っていた。〔日本臨床外科医学会の総会会長は、静岡県で会長になったのは父が初めてであり、今後百年しても静岡県では無いと云われてる〕(以下全文)

45. 7. 6

- 本日から向こう1ヵ年間この会長の席に着く。
- この光栄を汚してはならない。
無事に、そして若し出来るならより立派に乗り越えたい。
- それには自分自身細心の注意と最大の努力を惜しまないが。
- 一人の力ではいくらかがいても駄目、全会員絶大なるご支援とご協力を頂きたいとお願い致したい。
- 皆様のご要望を出来る丈聞きたい。又、会長は幅広い権限が許されるから、可及的カラーを出せと、有り難い激励を受けている。
- 凡ての意見がマチマチの場合には、受け入れが困難。
- 会長の独断専行は慎まねばならぬ。
- その時は理事会に諮って「万機公論に決すべし」の態度。
- さて、ここにRIのウィリアムEウオーク会長からの親書とメッセージが来ている。親書の内容をカイツマンデ申すなら、
- このクラブが新年度の発足に当たり、会長の指導によって優秀な年度を迎えるよう祈ると共に、次

の二つの重要事項を支援するように願いたい。

(一)同封のメッセージ即ち「隔たりを取り除こう」を七月中になるべく早急に全会員に周知徹底させ、更に、次回のフォーラムに於いて、この重要事項を討議して、この中に必要事項を満たすために、どのように援助するかを決定されたい。

(二)八月中に会長自身で新会員一名を推薦し迎え入れることを切望する。貴下がこの提案を受諾されると確信する。貴下がこの提案を受諾されると確信する全世界の14,000以上のクラブ会長が、同様の努力によって八月中に14,000の新会員がもたらす衝撃を想像頂きたい。

貴下の生涯の最も多忙な且つ記念すべき年を迎えるに際しご多幸を祈る。

- 一に就いては、この前ご報告しましたが、来る二十日にクラブフォーラムを予定しているからご承知下さい。
- さて、夫れでは私のこの一年間の方針は如何か。これから計画を申し上げてご理解を得たい。ロータリークラブには綱領と四つのテストがある。之に忠実であるべきは当然。更に、フェアと云うことを強調したい。その理由は医局エゴと気取りは交え得ぬ、今も変わらぬ。今日は急ぐから色々のことは省く。ろ正太郎先生、出席60%、フェアでない所にギャップが起こる。逆にギャップをなくすにはフェアが必要。
- フェアは使用する場所によって色々に訳す。どのように訳されてもよろしい。フェアで行こうと云うことである。
- 四つのテストの二番目、公平。
- 私は中学、スポーツの際、用いたフェアで戦う、即ち、正々堂々、フェアプレーに対してスタンドプレーがある。スタンドプレーは誰も採らない。ファインプレー美技、ファインプレーはフェア

プレーの中に出現する。ファインプレーに努力すればスタンドプレーである。フェアプレーには私心がないし無欲、誠意、実社会に於いて、自分丈けよい児、名誉心、親切振、知った振り、凡て利己的でスタンドプレーに属する。学生選手である前に学生、学生の本分を怠ってならない。プロ選手、報酬を貰って入場料、試合そのものは精一杯やっても平素の心構えが根本から違う。フェアでないプロ、黒い霧、学生、リンチ。

○戦後は戦前に較べ利己主義者が殖え、フェアが薄れた。従って不公平が多い。税金でも公平なら誰でも納める。正直者が馬鹿を見ると云うこと。出し渋ったり遂い脱税などを計る。

○戦時中にヤミと云う商売が出来た。戦後には没人、政治家の汚職、民間にはゴネ得。

最近の公害、大企業家の独善的利益主義で他を返り見ない。交通事故も不可抗力は少なく、非道徳者に多い。家庭の嫁と姑、婆抜き、みんなフェアであれば、このようなことは起こらないであろう。権利丈を主張し義務を知らない人間が多くなったからいけない。

人間は神様と違い、お互いフェアを主張し、一致しない場合もあろうが、互にフェアであれば、大きなギャップを起こさないで解決すると思う。重ねて申す。

フェアであればギャップは起こらない。

ギャップを取り除くにはフェアが必要。

私は向こう一年間を通じての言葉として、フェアと云うことを貫きたいと思う。どうか、ご賛成にご協力を。

(以上)

以上が書き留められたメモの総てであり、読みずらいものですが、あくまでメモであり、清書されたものではありません。父は会長を拝受し第一回の例会に出席するときに心していた心境であると思っています。

『私の場合』

父ほどの精神的な悲壮感は無かった。ただし、内外共に特別に多忙な年に当たってしまったので、引き受けるには肉体的な覚悟が必要であった。女房とも相談したが、他人ではなく自身の肉体との相談となった。身体さえ続けば優秀な会員の絶大なる支えで乗り切れるものと感じていた。最後は「やってみるか」と相成った。

副会長時代から会長時代を通じて、予想通り、素晴らしい仲間の強力な支えにより責任を果たせたと胸をなでおろしております。向坂、福田両前任会長、荻原、志田両前任感じ、伴野寛二、櫻井副幹事、多くの理事、委員長、ただ感謝あるのみです。あせらずに一步一步進むと云うようなやり方しか出来ませんが、会長としてクラブ奉仕に専念することが私の心構えでしたので、その目標は何とか出来たと満足しております。それにしても、「ロータリアンらしくないロータリアン」から脱出できたかどうかは今もって疑わしい。「あらゆるコンサルテーションより親睦は勝る」と旗を掲げていましたが、その成果はそれなりに出たと感じています。しかし、フレンドシップとは頭をさげての友達つき合い、親しき仲にも礼儀有り、とも考えますと、ほど遠い感もありました。今後の静岡ロータリークラブの発展を願い、今年の年会誌に寄せます。



平成15年度（2003～2004）

反省とお礼

会 長 田中楯夫

静岡ロータリークラブの歴史が一年経過したと同時に、私の会長時代の一年も終わりほっとしています。2003～04年度のジョナサン・B・マジアベ国際ロータリー会長は、この年度のテーマとして「Lend a Hand手を貸そう」を提唱されました。ロータリアンは166の国におよそ120万人の会員がおり、発展途上国にも先進工業国にも強力な組織を築いております。この地盤を利用し、全ロータリアンが地域社会や世界に対して、手を貸そうではないかとしており、さらに同僚ロータリアンやその家族に手を貸そうではありませんかとRI会長は投げかけました。私は現在の苦しい経済環境、先が見えない様々な社会環境の中では、特にロータリアンがロータリアンらしく、職業はすべて社会に尽くす手段とする考えのもと、ロータリー仲間が互いに助け合い、情報交換し、お互いの仕事に役立てて、それぞれの仲間にも手を貸そうとすることが大切ではないかと考えました。そして楽しむときは楽しみ、締めるときは締め、明るく元気で楽しいロータリーでありたいと提唱しました。ロータリーの公式の場で職業上のPRをすることは好ましくはありませんが、個人レベルでは大いに結構と申し上げてまいりました。それは例会や親睦活動を通じて行われ、少なくともクラブ内では「Lend a Hand」は実践されているように思われました。



この一年を通じて何とか静岡ロータリークラブの伝統と品位を汚すことなく様々な行事ができたことは、それは桜井幹事や寺戸副幹事をはじめ、実にアッセンブリーメンバーの方々や会員の皆様のご協力のお陰のほかなりませんことは、重々承知しております。心から感謝と御礼を申し上げます。

この年度で印象深いことがいくつかありました。その一つとしてロータリー国際大会が大阪で開催され、参加したメンバーと家族がRI会長のお話を直に聞くことができたことです。また日本の伝統と伝承された能や演奏の実演と、それを近代的な映像と音響技術でカバーした心に残る開会式に参加できたことはロータリアンとして意義深いことでした。またローターアクトクラブの存続の危機が全国的にいわれる中、静岡ローターアクトクラブは創立30周年を迎え、静岡ロータリークラブのメンバーに会員減少から来る危機の現状認識を意識してもらい、会勢立て直しのきっかけにしたことです。

さらには国際ロータリーが100周年を迎える中、その記念事業として、巴川流域麻機遊水池自然再生協議会に参加し、静岡ロータリークラブとして形に残る地域貢献事業をスタートしたことです。山口年度には他のロータリークラブも参加し、お披露目できそうです。などなどいろいろありましたが、中でも静岡ロータリークラブ年間の集大成とも言えるRI会長賞を、ガバナーの強い勧めでエントリーし、我がクラブにとって初めて受賞できたことは、クラブの経験として大切なことだったと思います。

その内容を記録としてここに記します。

2003～04年度RI会長賞申請内容

○ロータリーの家族に手を貸そうをどのように実践しているか

- 1 クラブ奉仕委員会に「ロータリー家族委員会」を併記、設置した。
- 2 機会を捉えて退会したロータリアンとその家族、逝去されたロータリアンの家族等参加を呼びかけている。
- 3 ハイキング、ピクニック、新会員親睦委員会、年末家族会など機会を捉えてパートナー、子供を招待しています。

○あなたのクラブに

- 1 3%純増目標に対し、2003年7月に95名でスタートした会員は3月31日現在98名です。
- 2 会員の多様性奨励に対し、未充填職業分類、印刷業、社会保険労務士が入会しました。
- 3 公式行事に参加しているかに対して、会長エレクト研修セミナー・地区協議会・地区ロータリー財団セミナーおよび地区大会への参加は義務出席になっています。

○あなたの天職に・・・地域社会で若い人のために職業相談、進路指導、職場体験などやっているかに対し、

- 1 静岡市特別支援教育進路指導協議会で養護学校生徒に対する進路および就職後の指導。
- 2 市内の高校が推進する「学生の体験学習」への積極的な対応をクラブとして提唱。
- 3 ロータリー情報委員会が「四つのテスト」をタイトルにフォーラムを開催。

○あなたの地域社会に・・・

社会奉仕の実践は？の問いかけに対し

- 1 地区の貧困緩和プロジェクトへの参加。
- 2 100周年記念活動、巴川流域麻機遊水池自然再生協議会への参加。
- 3 地域小学校と連携し「より良い地域社会の環境作り」プログラムを開始。

○世界に・・・

世界に対する奉仕活動はいかにの問いかけに対し

- 1 地区の目標であるポリオプラス協力金に毎年参加。
- 2 G・S・Eへのメンバー派遣及び受け入れ、交換学生の派遣及び受け入れの実施。
- 3 地区の目標であるロータリー財団寄付を全会員が実行。

以上の項目の活動目標を達成したことを報告しました。その結果地区内86クラブ中26クラブが受賞したそうです。関係した委員会の皆様、ご苦労様でした。



平成16年度（2004～2005）

一年を振り返って

会 長 山口良昌

前年度会長の田中さんから次期会長のお話をいただいた時には、私ごとき出来の悪いロータリアンが伝統ある静岡ロータリークラブの会長職など、とても努まらないと思いました。しかし、頼まれたら決して「ノー」とは言わないと言うロータリーの不分律はよく承知しておりましたので、然らば退会するしかないのではないかと思いましたが、よくよく考えてみますと、20数年間もお世話になっていながら、ろくなお手伝いもせず去るのは、誠に申し訳ない、まあ、ここは開き直ってお受けするしかあるまいと考え直して、厚かましくもお受けした次第であります。ところが、しばらくして実は、2005年はロータリー誕生100周年、そしてさらに、静岡ロータリークラブ創立70周年に当たるという事がわかりまして、いやこれは大変なことになったと思いましたが、トゥー・レイトでした。開き直ったままの一年間でしたが、今では、この記念すべき年度に会長を努めさせていただいた事は、大変名誉な事、光栄な事であると考えています。何とかこの一年間を無事に過ごす事が出来ましたのも総て、山元副会長、寺戸幹事、長谷川副幹事さんを始め、役員、委員長の皆様のお陰であります。私などよりロータリーの知識も、能力も数段多くお持ちの皆様が、それぞれのお役目をきっちり果たしていただいた事に心から感謝しております。そして今更のように、静岡ロータリークラブの素晴らしさをかみしめているところです。



この一年、振り返ってみますと、やはり二つの記念事業が印象に残っています。100周年記念事業は麻機遊水地公園に東屋を建て、静岡市に寄贈することでした。4月18日に静岡市長にも出席していただいて、現地で記念例会を行いました。この事業は、田中年度に於いて計画決定された事業です。前年度から引き続いて、田中直前会長と杉山100周年事業委員長さんには麻機沼自然再生協議会に参加していただき、やっかいなお役所との接渉から建設までご努力いただいて事業を遂行していただきました。今後この蓮見亭が、市民の憩いの場として大いに利用されることを期待しています。

年度も終わりに近い6月20日には、静岡ロータリークラブ創立70周年記念例会がブケ東海で開催されました。75周年に近いこともあり、今回はひかえめに、しかし心暖まる記念例会にしたいと考え、すべて手作りで御婦人方にも出席していただく家族例会といたしました。例会では、会員の山本さんの司会で青島P・Gを始め、40周年尾崎会長、50周年川井会長、60周年鈴木会長の皆様にパネル座談会を開いていただきました。当時の回顧や、明日のロータリーについて語っていただき、当クラブの誇りある歴史を再認識することが出来ました。また祝賀会では、野沢さん、望月さんの合唱にのって、望月夫人他による妖艶なフラダンスや、若手の萩野さん、杉本さんによる元気なスルガレンジャーが披露されました。記念のポロシャツを身にまとった一同楽しい有意義な一時を過ごす事ができました。100周年実行委員長の志田さんが、企画から役割分担、進行、予・決算まで全てにわたって、見事な手腕を発揮していただき、皆様の御協力ですばらしい記念例会を持つ事ができました。あらためて感謝し、御礼申し上げます。次第です。



本年度は、クラブ運営の目標として「参加してロータリーライフを楽しもう」を掲げ、例会は勿論の事、いろいろな行事に出来るだけ、多くの会員の参加を呼びかけてきました。そして、ロータリーの友情と親睦をさらに深める為、特に御家族の皆様に参加していただける機会を増やしていただく様に、委員長の皆様方にお願いいたしました。佐藤親睦委員長さんにはこの意を汲んで、愛知万博一泊家族旅行を企画していただきました。限られた予算の中で難しいと一旦は断られましたが、特にお願いして苦しいやりくりをして実施いたしました。ロータリー家族の絆を一層強めることが出来たと存じます。又、新会員親睦委員会の桜井委員長、中垣副委員長さんにも念入りに準備していただいて、駿府公園でのお花見や三保海岸での地引網などを家族参加で実施していただきました。新・旧の会員とその家族が楽しく交流することが出来て、新会員親睦委員会の役割を十分果たしていただいたと存じます。



帆船オーシャンプリンセススクルージング

申し上げるまでもなく、ロータリーでは例会がクラブ運営の基礎であり、例会への出席がロータリアンの最大の義務であり、権利です。このため、私を含め歴代の会長の皆様が魅力ある例会運営に努めてこられました。当年度は、S・A・Aの勝山さん、ソングリーダーの久保田さん、スマイラーの水上さんにはそれぞれのお立場で御協力いただいて運営がスムーズに行われ例会を盛り上げていただきました。特にプログラムを担当していただいた杉山委員長はじめ委員の皆様にはバラエティーに富んだ卓話者をお招きいただき、例会をより魅力あるものにしていただきました。私といたしましてはこうした皆様の御努力に反するがごとく、毎週つまらない御挨拶をして皆様を退屈させてしまったのではないかと心配しております。ロータリーの知識もなく、才能も無い者の精一杯の結果として御寛容いただきたいと存じます。

この一年間、得難い勉強をさせていただき、皆様から多くの価値有るものを頂戴させていただきました。皆様の暖かい友情と御支援に感謝申し上げます。有難うございました。

平成17年度（2005～2006）

一年を振り返って

会 長 山元雍久

国際ロータリーが一世紀を過ぎ新たな世紀に入り、静岡ロータリークラブでも70周年の記念行事も終わり71年目となる2005～2006年度、私は静岡ロータリークラブの会長を仰せつかりました。R Iのテーマは“超我の奉仕”であり、ロータリーの原点に返ってのものでした。

ロータリーについて不勉強な私が最初に聞いたのは、マザーテレサは「貧しい人の顔の中に、神の顔が見える」と言い残されていますが、我々ロータリアンの中には「お互い一人ひとりの顔の中に、ロータリーの顔が見える」のでしょうか。ロータリーの顔はロータリーの心であり、サービスの理念とは自分を思い自分を大切にすると同様に、むしろそれ以上に他人を思い社会を大切に生きていくところに真の幸せがあると自覚して生きることだと言われます。ロータリーの新たな一世紀に入りその心を大切に育て、拓げていかなければと思い、アイ・サーブを大切にしようと思ったものでした。

当然のことではありますが、会長の役目として毎週の例会での挨拶は、浅学非才の私にとっては大変なことでした。毎日が学生時代の試験の前日の如く、気が落ち着くことがありませんでした。どんな事を話せばよいのか、どなたかに失礼にならないか、自分なりに考え、最後は思いつくままに緊張してお話致しました。会員の皆様にはさぞ退屈されたことと思いますが一年間我慢してお聞き下さったことに心からお礼申し上げます。しかし終わってみると長い様で短い一年間でした。その間クラブでは色々な事がありました。世界的にも日本としてもロータリアンが減少している中、91名で始まり、途中100名程になりましたが、終わってみれば91名ということで会員増強は果たせませんでした。そして最終例会で最古参の川野辺先生が、突然「お世話になりました」

とご挨拶をされ退会されましたのは、とても残念であり、又悲しいことでありました。長い間、クラブで中心的な存在だった方の退会は、あまりにも辛い最終例会となりました。

これからも入退会の問題は色々あると思います。特に病気をされたり、年齢的なことなど色々あると思います。この年度でも、病気の方、仕事でどうしても出席出来ない方などおられました。出来るだけの説得をしながらクラブに在籍していただいている方もおられます。どなたも、クラブに長い間在籍して活躍された方達であります。クラブの全会員で励まし会いながら、さらにロータリー活動を続けられるように心から願っております。

ロータリーに対して不勉強であった私を支えて下さった会員の皆様、特に山口前会長、伊藤副会長、長谷川幹事、西村副幹事、そして理事と委員の皆様のご協力には心から感謝しております。長谷川幹事には全てお任せで、いつも助けていただき、お蔭様で大きなトラブルもなく過ごせました。

ロータリーは奉仕と親睦の両輪で歩むといわれますが、近藤親睦委員長には秋の日本平での観月会から始まり山崎環境委員長、小濱さん、児玉さんのご協力による富士山エコツアー、冬の家族会、河津桜の花見、そして日銀見学と大相撲観戦等、素晴らしい企画をしていただきました。

ロータリーでの親睦は、奉仕の心を持った人達の集まりの中から親睦が芽生えるという事を、とても素晴らしく実践し、行動してくれた事はさすがだと感心し、又感謝しております。

又、会計の勝山さんには色々ご指摘いただき、終わってみれば単年度黒字という結果になりました。あまり目立たない事ですがとても良かった事だと思います。

会員増強と共にクラブの会費等も今後大切なことだと思います。

皆様のお陰で無事、楽しい一年間を送ることが出来ました。改めて心から厚くお礼申し上げます。有難うございました。

平成18年度（2006～2007）

一年を振り返って 会長 伊藤恒道

長いようで、短い一年が終わりました。

西村予史男幹事を始め、多くの方々の御協力で、山元雍久会長から第65代会長を引き継ぎ、東俊光会長へ無事バトンタッチする事が出来、安堵しております。

2006～2007年度の各委員会事業計画は、それぞれの委員長的情熱と努力により遂行され、会員相互の親睦の輪もより一層広がったと確信しています。

2006年11月2日～6日、ハワイのサウスヒロロータリークラブ50周年の祝賀行事に、特使として鈴木和夫米山委員長が出席され、シスタークラブを締結致しました。

特に今期は、節目となる3000回例会が2007年2月26日に牧田静二特別委員長のもと開催され、静岡ロータリークラブの伝統の素晴らしさを再認識しました。



会長となりロータリー活動について一から辿ってみる機会を得、改めて理解する事が多いのに驚きました。

例えば、識字率向上の意義やロータリー財団の仕組み等、理解できた事は良かったと思います。

一年間、例会の冒頭、会長挨拶の時間を頂いておりました。

時候に因んだ話題を取り上げる中で、地球温暖化の影響を強く感じ、暦の上と実際のズレを鑑みても「平年との差」が甚だしく、「異常気象」を痛感した一年でした。



今後の地球環境は、人類にとって、何より深刻な問題となっています。

年度事業目標の第一に掲げていた会員増強については、91名で始まり91名で終え、現状維持という結果でした。但し、入退会22名と例年にない慌しさで、会員増強は、今後のロータリークラブの在り方を踏まえた上で、考えるべき難しい問題だと思えます。

私達を取り巻く社会環境の変化に、組織自体も進化していく必要があるのではないのでしょうか。

イギリスの自然科学者 チャールズ・ダーウィンは「生き残っていくものは、最も強いものでも、最も賢いものでもなく、最も変えられるものだ。」という言葉を残しています。

一旦身に着けた原則にこだわり続け、新たな状況の変化に柔軟に対応できない、役人に有りがちな行動パターンを「訓練された無能力-役人の杓子定規」と言うそうです。実感そのものです。

街路に、今美しく咲き誇っている静岡市の花「タチアオイ」を見て、昨年の例会で、この凛とした立姿の話をした事を思い出しました。

一年間、有難うございました。



平成19年度（2007～2008）

地区協議会を振り返って 地区副幹事 浅原諒蔵

東年度には、米山委員会の委員長を仰せ付かったものの、奨学生も居なかったことから、何ら活動らしいこともせず一年間が過ぎ去ってしまった。また例年、この会誌に旅行記を投稿していたが、今回は材料も無く弱っていたところに、雑誌委員会からの催促があり、已む無く、東年度の行事として挙げて良いものか分かりませんが、たまたまガバナー・スタッフとして携わった地区協議会に就いて、触れてみたいと思います。

本年、4月20日にツインメッセ静岡にて牧田ガバナーが、エレクトとして開催した地区協議会を地区副幹事として、田中実行委員長の下、運営のお手伝いをしました。静岡と山梨にまたがる第2620地区のロータリアンが、交いする地区協議会は千名近い規模だけに、今秋に開催される予定の地区大会ほどでは無いにしろ、準備にはそれなりの時間と労力を要しました。地区協には、これ迄に何回となく出席しており内容も承知しているつもりでしたが、それは、飽くまでも話を聞くだけの立場で出席していたのであって、今回のように運営側の立場に立ってみて、その大変さを思い知らされました。



会場の設営や運営、そして細かいところでは、弁当の手配やら空模様を気にして雨具の準備、それ以外にも細々とした準備に4ヶ月近い時間を掛けて、当日を迎えた訳ですが、それに至るまでには実に多くの方々の協力と支えがあり、それがあって、初めて大会運営は可能となりました。特に大会前日、会場設営に慌ただしく追われる中、椅子が並べられ、ステージも設置されるなど会場づくりの準備にも目途が立った頃、天井から吊り下げられた看板表示の致命的な誤りに気づき、準備にあっていた全員が呆然とした。その間違いとは、本来2007～2008年度とすべきところ、誤って2006～2007年度としてしまい、そのミスに気づいて大慌てと成った。誰もが目にするステージ上のメイン看板だけに致命的なミスである。さらに良く見ると全ての看板の年度表記が違っており、これは全部を訂正するしかないと決断し、会場設営をお願いした近藤リースさんと協議する。近藤リースの近藤社長が的確な指示を出し、さらに社員の方々が大車輪で奮闘してくれたお陰で、遅くは成ったものの看板の張り替えも無事に終了し、全ての準備を整えることが出来ました。近藤社長、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

一夜明けた翌日、朝早くから集まって頂いた、大勢の静岡ロータリークラブ・ロータリアンの協力により、地区協議会が成功裏に終了したのはご承知の通りです。田中実行委員長を始めとする各委員会のメンバー、そしてガバナー事務局のスタッフの方々、さらには協力頂いた全てのロータリアンとその友情に感謝を申し上げます。

平成20年度（2008～2009）

1年を回顧して・・・ 会長 萩原英生

歴史と伝統ある静岡ロータリークラブ会長の任期が無事終わることが出来まして、本当に安堵しております、これも偏にご支援いただいた皆様のお陰と感謝致しております。

特に今年度は我が静岡RCから国際ロータリー第2620地区牧田ガバナーを輩出したし、その後方支援としての体制作りと、更には2620地区地区大会をホストクラブとしてお引き受けする、という大変な名誉とまた責任との両方を担った年でも有りました、

幸いなことに前年の2007年、時の東会長の時からすでにこの準備に取り掛かって頂いており、地区役員、ガバナースタッフ、地区協議会、地区大会の場所、更に地区大会実行委員長、地区大会幹事まで決まっております、私としてはスムーズにそれらを継承して、更なるスタッフの充実と、意志の疎通、クラブ内全会員が心ひとつにして立ち向かうムード作りをすれば良い、大変恵まれた会長であった訳です、いつもながら我が静岡RCは大したものであります「何か事ある時にはアツと言う間にまとまり、誰が指図するともなく、皆がそれぞれわきまえており、地区大会といえどもいとも簡単に形を付けてしまうのであります」本当に有り難いことです、やはり我がクラブの歴史と伝統という有難さのなせる業で有りましょうか、私は何やらそれだけでもなさそうだと思っております、お一人お一人がしっかりしているいわゆるindependentと申しますかindividualであることが土壌にあると思っております、このことはロータリーにとっても、またこれからの日本にとっても大変大事なことです、ロータリアンおひとりお一人があるいは日本人ひとり一人が個々に独立し、仕事に生活に人生に、それぞれにそれなりの責任を持つ、つまりお互いに自分の責任は自分で果たす、他人のせいにはしない、それによってお互いの自由と

生き甲斐を担保し合う事が出来るのです、つまり社会を良くしお互いの自由と独立を守りながら人間として人間らしい暮らしが出来る国となり町となっていくのです、このことが国と国の間においては、それぞれの国のidentityを尊重し合うことにと繋がっていきます、まさにロータリーの真骨頂ではないでしょうか、そしてこのことがすでに実践出来ている我が静岡RCはつくづくすばらしい人達の集団であると確信しています。

さらに地区大会当日は武藤出席委員長さんのご努力により念願の100%出席が達成されました。

その他今年度は、観月会、クリスマス家族会、春の家族旅行コルテオ、新緑ハイキングなど親睦委員会の皆様には大変お世話になりながら楽しくやらせて頂きました、お世話頂いた皆様本当に有難うございました、また忘れてならないのは、一度は在籍0人と潰れかけたローターアクトクラブを佐藤委員長のお力で何とか再生できたことも大変有難かったことです、もちろんこれからが一番大事なことは重々承知しています、私は今回会長をやらせて頂き、多くのことを学ばせて頂きました、静岡RCに在籍させて頂いて本当に良かった、そして会長をやらせて頂いて本当に良かった、何と言っても出来の悪い会長を支え続けて頂いた、久保田幹事さん、浅原副幹事さん、理事を引き受けて頂いた皆さん、アッセンブリーの皆さん、そしてご支援ご協力頂いた全会員の皆さん、事務局の皆さんに心から感謝を申し上げ一年のまとめとさせていただきます、一年間本当に有難うございました。



平成21年度（2009～2010）

年度の歩み

会 長 志田洪顯

会長に就任以来約8ヶ月が経過いたしました。なんとか大過なく進んでいますこと、浅原幹事及び理事会メンバーに大変感謝しています。

昨年12月の定例総会において、静岡RCの定款・細則の改定を諮りまして、会員の皆様の賛成をいただきまして成立いたしました。大筋は2007年の規定審議会による大幅な変更を反映することになりました。

シカゴにおけるロータリー活動のスタートから100年以上が経過し、基本理念は揺ぎ無くとも、組織、活動のグローバル化とともに、諸規定は次々と変更され、行きつ戻りつ大きなうねりとともに変化してまいりました。最近RIは組織の益々の増強、他団体との差別化を諮る考えの故に、私には少々混乱を引き起こしているように感じられます。国際活動の方向、職業奉仕の考え、拡大増強、クラブ委員会の構成、例会のあり方、出席、などの点において解釈が揺れているように思われます。

わが静岡RCをはじめ日本のRCは、その中であって保守的とも見られるような純粋さをもって奉仕の理想を追求しています。このことは私も誇りと思うことであります。RIの改革が、もう少しクラブ構成会員の目線に合わせた進化であって欲しいと感じます。今回の定款・細則の改定が少しでも静岡RCの会員のクラブライフに貢献できることを期待するものです。

1935年の静岡RC創立以来、今年は75年目を迎える年であります。今この75周年記念誌の発行を記念誌委員会の諸先輩がご苦勞されていますし、記念事業としての新世代環境教育イベントの開催、麻機沼蓮見亭の補修を計画しています。そして来る6月21日に75周年記念例会、祝賀会を開催いたします。私は創立70周年事業と牧田G年度の静岡地区大会の開催にあたって責任ある仕事をいただきました。その上に今回75周年をクラブ会長として迎えることができることは非常に喜びであります。今回は、もう祭り上げられていればよいとの先輩諸氏からの指示と考え、楽しみながら幹事、実行委員会の準備作業を見守っています。コンセプトは創立時1935年頃の雰囲気であり、そして家族、関係者とともに楽しむお祝いの会であります。

さて静岡RCの楽しさ、多様性を示すものとして多くの親睦グループがありますのでご紹介いたします。昔はファイアースイド例会、インフォーマルミーティング等と呼ばれ、その後インフォームドミーティングなどと訂正されたりしたのですが、インフォーマルなどとはおかしな話であり、まさにロータリー活動の理想を語り合う、意味あるミーティング、例会であると思います。RIも大いに推奨している活動でもあります。





静岡RCに現在この種の会がいくつあるかは正確には知りませんが、少しカウントしてみましよう。ゴルフ同好会、駅南銀座同好会、セルジオ同好会、くる麦の会、団塊の会、一水会、静岡RC東京例会、などが3年以上の伝統を持つ会として知られています。これらはいずれも静岡RCの会員が大半を占めながら、開かれた会であり、多様な人材交流の場であり、ロータリーの理想を語り合う会であります。これら以外にも多くのホームパーティーも開催されています。

静岡RCの会員諸氏は、職務上非常に責任ある立場であり、また超過密な忙しい方々であるので、月曜日12時半からの定例会だけではとても十分にロータリーライフを楽しむことはできません。そこでこのような会が自然発生し、今後も盛んになることと思います。

新会員をはじめとする皆様、親睦委員会、新会員親睦委員会の行事はもとより、是非これらの色々な会に御家族共々お顔を出していただき、楽しく奉仕の理想を追求してください。

追記

皆様御存知のこの種の会があったら、是非教えてください。



平成22年度（2010～2011）

80歳まであと8年

会 長 伴野隆一郎

今迄のロータリー歴で一番面白かった時期は福田年度の元で副幹事を努めさせていただいた時期です。次年度に福地会長年度の幹事となった時も併せ2年間は会社も外資との提携交渉の只中で、忙しい時期だったのですが、お二人ともRCの仕事を任せていただき、ほとんど口出しされなかったのが、思い切りやれたという感じがしています。

今年5月11日に静岡RCと静大連携講座の講師の任務を終えて、ほっとしていた所に、大澤雑誌委員長から80周年記念誌に寄稿せよとの事、来週からの海外旅行を控え、そんな無茶な愚痴をこぼし、一昨日の「くろ麦」の会の時に、向かいに座られた三菱商事の蓑田さんに「今度は本音を書いてみるか」と申しますと、蓑田さんが「本音」を書く問題を生じますよ」と応えられました。今日RC事務局に行って保存版「静岡ロータリークラブ 2010.7～2011.6 年会誌」を読んでも「会長年度を振り返って」と言う私の文章も、その年度の幹事、青野高宏さんの文章も「本音ばかり」が溢れていました。高村副幹事の「副幹事の職を終えて」、志田直前会長の「伴野年度の震災救援活動は大成功」、福地職

業奉仕委員長の「反省1年」、谷本社会奉仕委員長の「出遅れましたが最後はよく働きました」など力作で溢れかえっていました。それもこれも年度半ば2011年3月11日に起こった東日本大震災が「力」を我々に与えてくれたからです。大震災直後に知事と同じ飛行機に乗って行かれたのは谷本浩太郎社会奉仕委員長と佐藤長巳SAAさんですが、谷本委員長の涙ながらの例会報告は、未だに忘れられません。その後、静岡トヨタの川嶋社長と志田冷蔵の志田洪顯社長の協力を得て、被災地 陸前高田市に2台の車を送る事が出来たのですし、静岡南RC、静岡西RC、静岡中央RCの協力も得て、会員皆様の義捐金と共に現地にお渡しする事が出来たのでした。

常磐自動車道の復活は成りましたが、南北三陸鉄道の全線復活は未だありません。福島第一原子力発電所の廃炉への道は未だ定まらず、その一方、川内をはじめ原子力発電所再稼働への動きは進みだしておりますが、原子力は人間がコントロール可能な領域なのか、元々は原子力必須主義者だった私でしたが、今は懐疑的です。

会長任期全う後の私は「話が止まらない志田さんを壇上より引き摺り下ろし役」を拝命することになりました。でも、今年で72歳反抗されると、抑え込む力も衰えてきましたので、何方かお引き受けください。



平成23年度 (2011～2012)

やさしさと思いやり

会 長 杉山孝俊

2011～2012年度国際ロータリー会長カルヤンバネルジーさんのテーマは「Reach within to embrace humanity」「心の中を見つけよう 博愛を広げるために」でした。2011～2012年度2620地区積惟貞ガバナー年度方針は「今こそロータリーの真価が問われる時」でした。2011.3.11会長幹事エレクト研修セミナーの二日前に未曾有の東日本大震災が勃発し、積ガバナーは考慮の末にテーマを上記の言葉に書き換えたのでした。御二人のテーマを斟酌し私のクラブテーマは「やさしさと思いやり」に致しました。

更に静岡ロータリークラブ具体的な年度方針は以下三点に決定いたしました。

第一に強い家族を築くこと

万事は家族から始まります、私たちが行う奉仕、また世界で成し遂げたいと望む奉仕すべての出発点は家族にあります。そしてあらゆる家族の中心を成しているのが母と子です。ここから始めてこそ、人々の生活や地域社会全体を通じて世界をよりよくしていくことができると信じましょう。

第二に私たちが一番得意とすることを継続していく

こと

私たちは皆ロータリーの職業奉仕や四つのテストの実践で、今後も多くの人々に手を差し伸べていくことができるでしょう。今までのように、きれいで安全な水の提供、疫病の予防、識字率の普及、新世代の為の活動や協力、平和への努力はこれからも続けて行かなければなりません。今年度の新世代で企画されている、静岡大学連携講座、静大生への出前授業は奉仕の目玉になることでしょう。

第三に変える必要があることは変えていくことです。

私たちはロータリーを通じて世界を変えたいと望んでいます。幸せと健康と平和にあふれた世界を作ることができ、過去よりも明るい未来を築くことができると私たちは信じています。ポリオやほかの病気を世界から無くし、環境破壊に歯止めをかけ、子供の死亡率を減らし、識字率を高め、飢えを減らしたいと望むなら、自分自身がこの変化の担い手にならなければなりません。

2011年3月11日の東日本大震災、押し寄せた1000年に一度の大津波、破壊され収束できない福島原子力発電所の惨禍、今も多くの同胞が災害で苦しんでいます。我々は何を成すべきか、今ほどロータリーの真価が問われる時はないでしょう。今後も我々は全力で災害復興支援に取り組むべきであります。



会長 杉山孝俊

故 鈴木和夫氏

PG 青島廣幸氏

平成24年度 (2012～2013)

静岡ロータリークラブ創立80周年によせて…

会長 伊藤 博

静岡ロータリークラブ創立80周年おめでとうございます。

長い歴史の中に素晴らしい先輩たちが、培っていただいた伝統と格式のある静岡ロータリークラブのなかで78期(2012年～2013年)に会長を務めさせて頂きました事は大変に光栄に思っております。

私の会長時代のポイントは、「例会に参加してもらえるには？」どんな工夫と行動が必要だろうか、そればかり追求して行ったことを思い出します。

「例会の魅力」を提供するプログラムは、刻々と変化する社会環境に応じて、どんどん変化してゆかなければならないと考え、報道や時事解説をあらゆる角度から論評してくださる方、皆様の友人や職業を通じて知り合えた人々、人生に大きな影響を与えてくれた人々を卓話者として迎え、その感激を例会場で共有してみましょう。プログラム委員長のリーダーシップの元「卓話力」アップの為に会員皆さんが積極的に参画して、魅力あるプログラムを志向してまいりますか。そう、魅力ある数々の企画と全員参加のクラブ運営が合っこそ、会員の皆様の刺激作りや人脈創りに多いに役立つのではないのでしょうか。

私自身も会長就任経験を機に会員の皆様からは、幅広い経験を基にした多くの知識と、それを語る表現力を吸収させていただきました。

さらに若い世代に経験できなかった事を積極的に積む事により、同じ考えを持つ友人を持ち、世代を超えた会話を楽しむ人脈を広げ、多少のお金を惜しむことなく、「より自分を魅力的にする投資」と考えてゆく場所、例会こそがロータリークラブの真骨頂だと思っています。

さて、私が担当しました2012年～2013年の世相を思い出しまして、創作四字熟語と川柳で振り返っ

てみたいと思います。肩書きに「前」がつく野田首相が、「近いうち」と発言したのは真夏のこと。以来、解散まで100日、そして総選挙と、世の中も振り回されました。けれど、もともとあいまいな言葉なんですよ、「近いうち結婚しましょうと言う詐欺師」というふうには。

そして、投票用紙を前にして迷った「紙前党多」の衆議院選挙。結果が「自公治得」「維新前進」だけに「翁政復古」が気になる。「なにがなんだか誰がどこだか」判然としないまま、現在に到りました。

こんな感じで1年を振り返ってみましょう。まずは外交に目を向けると、辺境の孤島をめぐる隣国と続く「島島発止」。尖閣列島には中国の公船がわが物顔で出没し、防人たちは「船船境航」の中で体を張る。なのに、「尖閣や都知事の火遊び火事のもと」火事は大火になりました。

内憂は消費税増税に頼る財政。復興予算の流用がバレて「税途多難」だ。「原発ゼロがあっただけマシ」そんな時期もありましたし、世相は、「廃炉かないっそ廃炉はよそうかな」とサブちゃん節が聞こえてきます。

あの大震災から1年9ヶ月。いま「東日本大人災と改める」べきでしょう。

レバ刺し好きを励ます言葉もない「肝臓断念」。ウナギは稚魚が取れずに高騰し、かば焼き飽食する夢も「無理鰻代」に。上がる味あれば下がる足あり、「安価航路」の格安航空が相次ぎ離陸した。

話はメダルに沸いたロンドンオリンピックにいたします。人々はそれぞれに熱くなり「世は五輪 しばし被災地 蚊帳の外」日本代表たちもよくやった。「(北島) 康介さんを手ぶらでは帰せない」とチームが結束した「共存競泳」、アーチェリー女子団体はほんわかと「三矢一体」の銅メダル。レスリングの吉田沙保里選手は「史嬢最強」を証明し、国民栄誉賞に輝く。そして閉幕。選手とともに共感しました。お祭りのあとは寂しいもの。「リオ待って ふと我が年を振り返る」……

とはいえ、理化学の世界ではノーベル賞の中

山教授を世界が称え「伸弥万称」上方落語では、「三枝襲名」で六代目桂文枝が誕生し、芸人スギちゃんはワイルドな「野生自慢」で流行語大賞だぜえ！観測グッズが売り切れた「衆金環視」の金環日食。ふだんは疎遠な「ご近所が金環食で少し寄り」ってか！人間っていいなと思わせる。「威風堂塔」の東京スカイツリーは空二題。読書ならぬ「独唱三昧」の一人カラオケが若者に人気を呼び、NHKの連続テレビ小説「梅ちゃん先生」も「観梅御礼」の大好評でしたな。続く桜の季節に一陽来復の望みを託したい。

秘密法をゴリ押しした自民は「自暴秘鬼」の形相。ブレーキ役の公明党は「全面公伏」とあいなって、目を転じれば東京都庁は「知事滅裂」。

2012年の年の暮れです。「幸せは歩いて来ないとクジ売り場」私たちがどんな新年を迎えるかは、なお見えません。でも、歩いて来た跡を振り返れば、ヒントがあるかもしれない。以上お粗末でした。



「はさみ1本、紙一枚切り抜く心の原風景」切り絵作家水口千令さん作品です。2月25日に卓話でお招きしました。本当にすごい技ですね！この技をなんて言うか？皆さんわかりますか？「カミワザ」と言うのです。



2012～2013年度のスタート時のアッセンブリーメンバーの合同写真

経済人がキャリア形成に一役

来月から教育連携講座

静岡ロータリークラブと静岡大入社文科系学部は25日、1月から同クラブ会員が交代で同大講師を務める「教育連携講座」の調印式を静岡市葵区の葵タワーで開いた。

講座は同学部の1・2年生を対象で、学生にキャリア形成に役立つ考えや日々の業務内容に加え、企業の国際化や慈善事業など、それぞれの専門分野について、半年ごとに展開される予定。

調印式は同大の伊東 大校長が「学生にレポート課題を課す」として、各回ごとに講義を準備し、各回ごとに学生にレポート課題を課す。調印式は同大の伊東 大校長が「学生にレポート課題を課す」として、各回ごとに講義を準備し、各回ごとに学生にレポート課題を課す。

調印式は同大の伊東 大校長が「学生にレポート課題を課す」として、各回ごとに講義を準備し、各回ごとに学生にレポート課題を課す。

平成25年度（2013～2014）

会長としての一年を振り返って 会長 寺戸常剛

2013-2014年度、RI会長ロンD・バートン氏のテーマは「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」です。ロータリーを真に実践し、ロータリーの奉仕と価値観を日々決意すれば、自分がいかに素晴らしい影響をもたらすことができるか見えてくるでしょう。そうして初めて、人々の人生を真に豊かにしようというインスピレーション、やる気、パワーがわくのです。そして何よりも、あなた自身の人生が一番豊かになるを基本テーマに一年間活動して来ました。

特に本年度は、静岡ロータリークラブより国際ロータリー第2620地区 志田ガバナーを輩出し、地区支援の体制作りと地区大会のホストクラブという大変な名誉と責任を担った年度でありました。幸いな事に静岡ロータリークラブは5年前にも牧田ガバナーを輩出し経験がありましたので前年 伊藤会長の年度より地区のスケジュール、地区大会の実行委員会等、全ての日程が決まっておりましたので私としてはそれらを継承しスタッフの充実とクラブ内全員が心を一つにして各事業を行えるよう本年度テーマを「会員コミュニケーションの充実」とさせていただきました。

例年より三か月遅い地区大会は、第一日目 静岡では珍しく大雪に見舞われ山梨方面のメンバーには大会参加に大変ご苦勞をかけましたがスタッフメンバーが一丸となり二日間無事終了する事が出来ました。また台湾よりRI会長代理 劉 昭恵(リュウ ショウケイ)様、基調講演をして頂きました2012-2013年度RI会長 田中作次様お二人に大変素晴らしい地区大会だとお褒めの言葉をいただきました。

年度目標の会員増強は、鈴木会員増強委員長のご努力で入会18名、退会12名純増6名という結果でした。会員増強は今後のロータリークラブのあり方を考える上でも難しい問題です。80周年を迎え今一度会員一丸となり努力して行きたいと思えます。

二期目になりました。静岡大学連携講座も4月14日から始まり15講座15名の講師も決まり会員の皆様には大変感謝しております。私も257名の受講生の前で「ロータリーについて」というテーマで話をさせていただき、ロータリーの歴史、財団、奉仕活動の資料を集め私自身ロータリーについて再認識する事が多くあり素晴らしい機会を与えていただき感謝しております。

その他今年度は、予算の少ない中 観月会、クリスマス家族会、春の家族会等親睦委員会の皆様には大変お世話になり親睦活動に楽しく参加させていただきました。

静岡ロータリークラブは、幅広い年齢層で構成され、職業も多岐に亘っております。各方面で素晴らしい実績を挙げられご活躍されております会員の皆さんと1年間ロータリー活動が出来ました事を誇りに思います。

最後に1年間支えて頂きました 児玉幹事、佐藤副幹事、理事・役員、委員長の皆様、そしてご協力頂きました全会員の皆様、事務局の皆様心から感謝を申し上げ一年間のまとめとさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。





平成26年度（2014～2015）

第80代会長を終えて

会 長 浅原諒蔵

2015年6月29日、閉会の点鐘により第3355回の例会が終了し、安堵の胸を撫で下すと共に、一年間の会長職と云う重荷も降ろしました。

過ぎてしまえば短く感じられる時間も、これから始まると云う時はゴールは遙か彼方にありました。伝統と格式ある静岡ロータリークラブの第80代会長職のご指名をお受けした時は、志田ガバナーエレクトの女房役、次期地区幹事として忙しい日々を送っていた最中でした。然も、地区大会に次いで重要な行事である地区協議会開催を目前に控えてのタイミングであり、ロータリーの全てを背負い込んだような、ここ何年かでありました。

この記念誌に掲載する文章を書くにあたり、これ迄に担ってきたロータリーの役割を整理してみたところ、なんと12年にも亘って地区役員やら自クラブの重要ポストを務めてきました。

その12年の間に地区ロータリー財団委員会に関すること6年、内訳は補助金小委員会の委員から始まって、副委員長、委員長と務めあげました。もう一つは奨学金小委員会で、こちらも委員、副委員長、委員長を経験しました。

牧田さんがガバナーの時は地区協議会担当の地区副幹事に任命され、更には萩原年度のクラブ副幹事も合わせ担当すると云った忙しい毎日でした。

クラブ副幹事を担当すれば、その翌年はクラブ幹事が慣習のため、志田さんと浅原の会長・幹事の関係が、その後のガバナー・地区幹事の関係に繋がるのは、その当時は知る由もありませんでした。

積 惟貞ガバナーの時（クラブ会長は杉山孝俊さん）に次々期の地区幹事に就任し、翌年、次期地区幹事、そして志田さんのガバナー就任に伴い地区幹事となり地区の運営に携わりました。地区幹事の仕事は思っていた以上に大変で、忙しいのはガバナーですが、或る意味、大変なのは地区幹事かもしれま

せん。

忙しい地区幹事の仕事から解放される間もなく、最後は我が静岡ロータリークラブの第80代会長に就任となった次第です。

地区幹事の任期は、2014年6月迄でしたが、地区の会計を締める事務作業があり、事務的作業が終わったのが8月末。さらに志田年度は地区組織が現在の形になって丁度、40年と云うことで地区諮問会議にて40周年の記念誌を作ろうと云うことになり、パストガバナーのお一人が「地区幹事、宜しく」の一言で、地区周年誌を作成する破目となりました。結局、その作業を一人で引き受け（唯一、共立アイコム的小林さんだけが手伝ってくれました）、完成した記念誌を配布が出来たのは2015年の3月になってからでした。

この時期、クラブの会長としても何かと忙しい時で、市内7クラブ合同例会のホスト役を終えたと思ったら、第5分区のIMが控えていると云った具合で、大きな行事が次から次へという有様でした。

たまたま萩原英生さんをガバナー補佐に輩出した年に当たってしまったためにIM開催のホストクラブとなり、そのうえ何の因果か分かりませんが周年の祝賀行事をも私の年度で開催すると破目となりました。

10年に一度の周年行事、9年に一度のIM、そして7年に一度の市内7クラブ合同例会、この3つが全て重なって同じ年に開催されるとは、偶然のいたずらに他なりません。ちなみに計算をしてみたところ、それぞれ開催の間隔が違う3つの行事が次に重なるのは、なんと今から630年後の西暦2645年となります。600年後と云うと日本の人口は大きく減少して、現在の半分以下になると言われておりますので、その時まで、日本と云う国が存在しているかどうか分かりませんが、ロータリーは多分、あるでしょう。

ともあれ静岡ロータリーらしい格調高いIMが無事に終わり、ホッとする間もなく次の行事、80周年の準備に取り掛かると云う慌ただしさ。然し、これ迄に地区大会などの大きな行事を幾度も経験してきた静岡ロータリーだけに、いざとなれば短時間で手

際よく準備を進めるのが我が静岡ロータリー。

慌ただしく準備を進め、アッと云う間に当日、80周年記念例会開催日の6月15日を迎え、祝賀行事の目玉とも云える裏千家 大宗匠 千 玄室 様に記念講演の講師としてお越し頂きました。当初、準備の遅れもあり、また記念講演会を一般公開とただけに、ロータリー関係者以外の方が何人くらいお見えになるのか見当がつかず、当日の開宴間際まで幹事が気を揉んでおりました。

然しながら、開演には未だ相当時間があるにもかかわらず、講演会を聞きに来られたと思しき方々が、続々と会場内に入って行く光景を目の当たりにして安堵の胸を撫で下ろしました。

千 玄室 大宗匠が入場され、記念講演会のスタート。日頃、ロータリーに余り馴染みの無い方にも「ロータリーの精神」と云ったものを分かり易くお話しして頂き、お茶の話に留まらず、日本人として大切にすべきものは何かと云った示唆に富んだ内容で、然も70分と云う時間、立ちっ放しでお年を感じさせない熱のこもったご講演でした。特に最後の方はご自身の戦争体験を語られ、聴く者が感動を覚えずにいられない内容でした。

お年を感じさせないお元気な大宗匠で、駅にお迎えに出た志田さんのお話によりますと、大宗匠はエスカレーターやエレベーターには見向きもせず階段の方へと向かわれたために、志田さんが慌てて、こちらのエレベーターの方が出口に近いからと云って、やっとのことでエレベーターにお乗り頂いたそうです。また用意した車にも乗ろうとせず歩かれると云うので、これまた時間がないからと云う理由で無理やり車に押し込め、会場にお連れしたそうです。

このようにして第一部の公開記念講演会は大成功。続いて第二部の記念例会、式典、そして祝賀会へと行事は移り、いずれも静岡ロータリークラブ80周年に相応しく、格調高くそれでいて親しみやすく充実した内容の周年行事は無事にお開きとなりました。

80年という節目の年であっただけに、例年には無い行事がこれ以外にも幾つもありました。朝霧高原

のふもとっばらに静岡大学教育学部付属特別支援学校の生徒さんを招待しての「富士山世界遺産登録記念写生大会」の開催や、麻機遊水地にパーゴラを設置し、麻機自然再生協議会に寄贈を行いました。

また例年、行われている数々の親睦行事は当然、あった訳で、とにかく忙しいながらも充実した1年間であったと思っております。

6月29日に最後の閉会点鐘を終えた時、肩の荷を降ろしホッとしながらも一抹の寂しさを感じたのは何故であろうか。それだけ一生懸命、走り続けた充実感がなせる業なのであろうか。いずれにしても一会員に戻り、少し力を抜いて、これからも静岡ロータリークラブのために尽くして行きたいと思っております。

Shizuoka Rotary Club

2010 - 2011



2010年 志田年度から伴野年度へ



2010年 観月会



2010年 特別支援学校「秋祭り」



2010年 年末家族会



2011年 クラブフォーラム



2011年 けやき例会



2011年 震災支援活動



2010年 佐治麻希さんを囲んで

Shizuoka Rotary Club

2011 - 2012



2011年 新年度スタート



2011年 観月会



2011年 大運動会





2011年 年末家族会



2012年 伊豆旅行



2012年 つつじ例会



2012年 77周年記念例会

Shizuoka Rotary Club

2012 - 2013



2012年 伊藤年度アッセンブリーメンバー



2012年 特別支援学校秋まつり



2012年 観月会



2012年 年末家族会



2013年 新年例会



2013年 家族旅行



2013年 静岡RC 教育連携講座



2012年 地区大会大懇親会

Shizuoka Rotary Club

2013 - 2014



2013年～2014年 有意義な1年間のプレゼンター 3名



2014年 静大連携講座



2013年 アクティブな例会



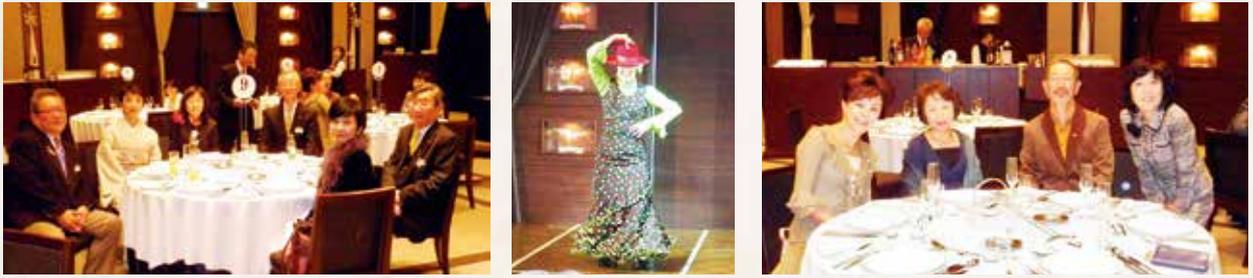
2014年 クラブフォーラム



2013年～2014年 棒振り四人衆



2014年 5人の先輩が静岡空襲を語る



2013年 年末家族会



2014年 地区大会



2014年 つつじ例会

Shizuoka Rotary Club

2014 - 2015



2014年 浅原年度アッセンブリーメンバー



2014年 小さな親切運動



2014年 80周年記念事業



2014年 年末家族会

2015年 移動例会 小さな親切運動



2015年 インターシティーミーティング



2015年 静大連携講座



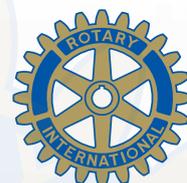
2015年 クラブ創立80周年記念例会



Look back on our activity

事業を 振り返る

The 80th
Anniversary





The
80th
Anniversary

東日本大震災復興支援事業報告書

2010-2011年度 社会奉仕委員長

谷本宏太郎

静岡RCでは東日本大震災復興支援事業を、自分たちの目に見える形で行いたいと考えました。震災二週間後に静岡県及び東日本大震災復興支援チームSAVE IWATEの協力を得て、岩手県沿岸部の被災地の調査を行いました。この調査によりRI2520地区の支援物資集積所である陸前高田自動車学校を経営する大船渡RCの田村氏と知り合うことができ、共同で支援事業を行うことにしました。

そこで、SAVE IWATEは被災者に栄養バランスの取れたおかずを配る「まごころキッチン」事業を提案しました。田村氏が厨房を提供してくれることになり、静岡RCが配送車両を提供することになりました。静岡RCは市内の他クラブに呼びかけ、静岡南RC、静岡西RC、及び静岡中央RCから協賛を得ることが出来ました。更に例会場であるトーカイシティーサービスさんの協賛も得られ、2トンの冷凍車と軽の保冷車を提供することが出来ました。

おかげで「まごころキッチン」事業は6月初旬にスタートでき、陸前高田市内の避難所に毎日150-200食のおかずを配給しています。この事業はBAJ(ブリッジ・エーシア・ジャパン)を通してジャパンプラットフォームが資金提供し、SAVE

IWATEが運営しています。メニューはホテルロイヤル盛岡の洋食料理長の指導の元、地元の方々が調理を行い、地元の方と遠野の山里暮らしネットワークの方々が配達しています。

6月末にはメンバー有志が陸前高田自動車学校、津波被害にあった陸前高田市街地および大船渡市街地を視察し、夜は盛岡市内で文化経済活性化活動を行い、翌朝はSAVE IWATEの支援物資配給所を視察しました。

その他に静岡RCでは静岡市内において行う岩手物産展を支援しています。



Look back on our activity
事業を振り返る





The 80th Anniversary

志田ガバナー主催の地区大会

地区大会実行委員長

向坂達也

当会会員の志田洪顯ガバナーが主催した国際ロータリー第2620地区2013～2014年度地区大会は、2014年（平成26年）2月8日（土）と2月9日（日）の2日間、JR静岡駅南口前のホテルセンチュリー静岡を主会場に、国際ロータリー会長代理として台湾から劉昭恵女史（台湾台中中央RC、第3460地区バストガバナー）をお迎えして開催されました。

この大会は、当年度のロン・バートン国際ロータリー会長と志田ガバナーが共に掲げるテーマ「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」を基調として「地区大会が持つ決議や討論の機能をより本来化させると共に、ゆとりを持たせて内容の充実をはかる」ことをめざして計画し、実施されました。

大会第1日目は、恒例の会長幹事会を取り止めて、本会議として、選挙人の評決による審議にしたり、地区フォーラムなどに多く時間を取り、地区ロータリーの活動を議論し、評議する会議としました。

その結果、米山記念奨学事業の学友会や青少年交換学生の皆さんの報告や、地区の各委員会（会員増強維持・IT推進・広報・職業奉仕・社会奉仕・ロータリー財団・米山記念館運営・国際奉仕）の充実し

た活動報告と質疑応答が行われ、担当者・参加者双方から、活動状況等が良く理解できたと好評でした。

大会第2日目は、当第2620地区に該当する山静二県に跨る富士山が、この度、世界文化遺産に指定されたことに鑑みて、ご来賓の静岡県知事川勝平太様のその指定までのご苦労や今後の対応などを織り交ぜてのご挨拶や、ロータリー財団の留学生だったご経験からロータリーの意義ある活動などに触れられたご来賓の静岡市長田辺信宏様のご挨拶、また、地区内全クラブの公式訪問を終えて、見聞した各クラブの特色ある活動などをそのクラブの会員と共に紹介した志田ガバナーのクラブ訪問記が行われ、いずれも大変好評でした。

次いで、国際ロータリー直前会長田中作次様の「ロータリーは私達の誇り」と題する記念講演が行われ、ロータリーが抱える現在の様々な課題と問題点や、私共が「本大会を通じて学び・積極的に行動し・周囲の人が幸せになる」ために心がけ取り組むべき事柄などについて、国際ロータリー会長代理劉昭恵女史のご講演と共に、貴重な示唆が得られました。

最後に、会長代理劉昭恵女史から、素晴らしい地区大会であったとのご講評をいただくと共に、今後、当地区と台湾の各ロータリークラブとの一層の親交を熱望されて大会を終えました。

1日目の会長代理歓迎晩餐会では、ジャズシンガーのウィリアムス浩子さんの、2日目の大懇親会では、ジャズバイオリニストの大村朋子さんのそれぞれ心

の籠った演奏が披露され大変好評で盛況でした。

ただ、当会会員全員が一丸となって万端の準備をしてきたつもりでしたが、天候だけは如何ともし難く、初日の8日の早朝から関東甲信を中心に記録的な大雪に見舞われ、各地で通行止めとなるなど交通網が終日乱れる事態に陥りました。

それでも、そのような中を地区内外から長時間か

けて苦勞しながら大勢の方々のご参加下さり感激いたしました。残念ながら、参加したくても参加が不可能でやむなく断念され、ご心痛を味合われた方々も大勢おられ、これらの方々に心からお見舞い申し上げますと共に、この一点が心残りなことでした。

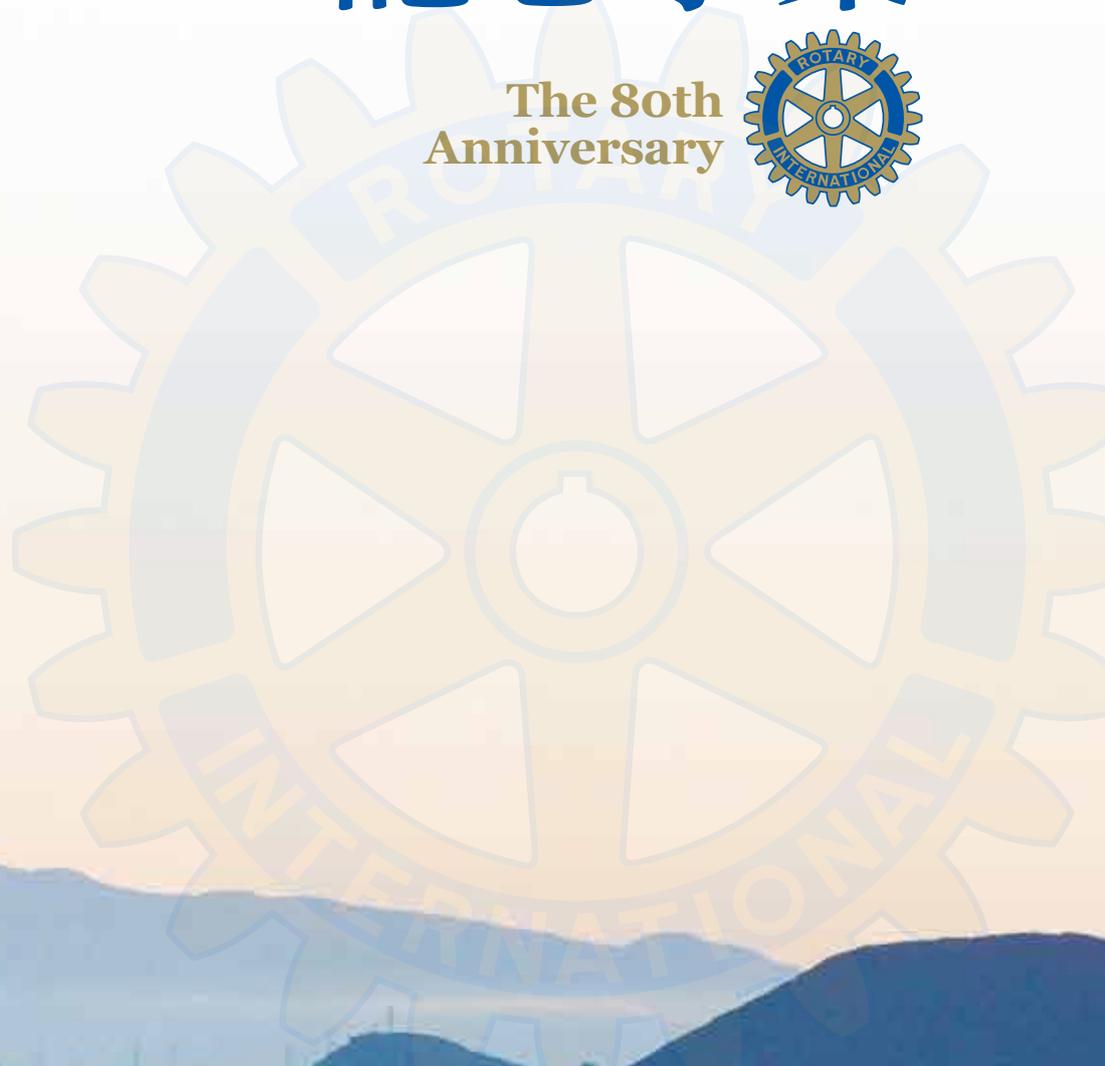




The 80th Anniversary

80周年 記念事業

The 80th
Anniversary





The 80th Anniversary

3年目を迎えた静岡大学教育連携講座

静岡大学教育連携講座特別委員会 委員長

浅野 秀 浩

2013年4月から始まった静大連携講座は本年度3年を経過しました。静岡大学人文社会科学部の2年、3年生を対象に毎回ロータリアンが講師となり、業界の紹介や自らが歩んだ歴史、業界を取りまく環境変化への対応などまさに今直面するホットな話題を幅広く紹介し、これから社会に出る若者たちのキャリア形成の一助となることを目的にスタートしました。日本のロータリークラブが国立大学で単位が付与される正規講座を稼働させた事例は今までに無く、静岡ロータリークラブが日本初の大学連携講座を開設したことになります。こうして静岡ロータリークラブの会員一丸となって進めている実績を日本中のロータリークラブにも浸透させようと、志田ガバナー（当時）が全国のガバナー会議の場で当連携講座を紹介していただいたおかげで、来年2016年度から松本ロータリークラブが松本大学と、青森モーニングロータリークラブが中心となった地区では青森大学との連携講座をスタートする事になりました。まさに地域社会に貢献する先進的な奉仕活動として全国から注目される事業に成長したと言えます。今回は静岡ロータリークラブの会員各氏が一度は担当することになっている静大連携講座のこれまでの歩みとこれからを80周年記念誌の誌上で紹介したいと思います。

1、静岡大学からの要請

連携講座がスタートした2年前の2011年に、当時から静大に縁があった私(浅野)のもとにある教授から相談がありました。その内容は「静岡大学は県内トップ水準の大学にありながら、県内民間企業との接点がとても少ない。研究や調査のために企業訪問したくてもなかなか容易には進まない。何か企業との接点を持つ仕組みを作ることはできないか」というものでした。私はすぐに静岡ロータリークラブが頭に浮かび、「それでは会長に相談してみます」というやり取りから始まったのです。

その後2年の歳月をかけ講座開設の準備を進め、伊藤会長の時代に静岡大学の伊東学長との連携講座5年契約が交わされました。静岡ロータリークラブ側も本連携講座の目的にあるようにこれからの日本を背負って立つ若き挑戦者たちに、自らの業界を紹介しながらどのようにして市場経済の勝者で居続けるのか、その解決方法や求める人間像を教示することは、当時本講座を担当していた新世代委員会の奉仕理念にも合致したのです。

第1回目の講義は2013年4月に当年度の会長だった伊藤先輩が担当し、本年度までに45回の講義が終了しました。こうしてスタートを切った連携講座の45回の講師陣の皆様を改めて紹介します。

The 80th Anniversary
80周年記念事業



2015 年度 4 月オリエンテーション



2015 年度第 1 回講義担当：浅原会長

注：肩書は当時、敬称略

2013年度	講師名	所属	講義テーマ
第1回	伊藤 博	静岡ロータリークラブ会長	ロータリークラブとは
第2回	里見 和洋	静岡銀行 副頭取	グローバル化と県内企業動向
第3回	宮前 武生	SMBC日興証券 支店長	M&A Market Review 2012
第4回	大石 滋	静岡新聞社 顧問	メディア(新聞)の今、これから
第5回	平尾 清	東海軒 社長	極上のMYSTIQUE
第6回	小野田 聡	中部電力 支店長	地域社会を支える電力の話
第7回	林田 充	JTB中部静岡 支店長	総合旅行業から交流文化事業へ
第8回	大澤 泉	巴川製紙所 本部長	新製品開発よもやま話
第9回	青谷 宣孝	NTTドコモ 支店長	モバイル イノベーション
第10回	服部 守親	日本銀行 支店長	日本経済の現状と展望
第11回	河合 寿	鈴与マテリアル 専務	フジドリームエアラインズの戦略
第12回	久保田 隆	浮月 社長	静岡市・観光地としてのブランド戦略
第13回	宮崎 洋一	わかば司法書士事務所 所長	専門職(士業)で生きる
第14回	谷本宏太郎	ヘリヤ商会 社長	日本茶の輸出
第15回	牧田 静二	2008地区ガバナー	ロータリーの歴史と精神

2014年度	講師名	所属	講義テーマ
第16回	寺戸 常剛	静岡ロータリークラブ会長	ロータリークラブとは
第17回	浅原 諒蔵	平和みらい 社長	物流共同化の経済効果を試算する
第18回	本保 晃	NHK静岡放送局 局長	静岡とNHK、そして考えてもらいたいこと
第19回	栗原 廣司	富士ゼロックス静岡 社長	価値あるコミュニケーション
第20回	加藤 誠	静岡信用金庫 理事長	信用金庫の成り立ちと地域社会への関わり
第21回	小林 武治	共立アイコム 社長	企業は変わり続けなければならない
第22回	小林 豊	テレビ静岡 社長	テレビ概論
第23回	近藤 哲也	近藤リース 社長	Be Creative !
第24回	相浦 司	西日本電信電話 支店長	進化するICT ~夢、思い、挑戦~
第25回	荻原 英生	おぎ原歯科医院 理事長	生きる力と口腔機能
第26回	杉山 孝俊	松柏堂本店 社長	老舗和菓子店の家訓並びに品性本位
第27回	小田 博之	全日本空輸 支店長	ANAグループの新たな成長戦略
第28回	藤田 博久	フジタ商会 社長	日本のものづくり支援
第29回	鈴川 辰男	電通東日本 支社長	広告コミュニケーションの役割
第30回	志田 洪顯	2014 地区ガバナー	志田合資会社から見る地域産業の変遷



The 80th Anniversary

2015年度	講師名	所属	講義テーマ
第31回	浅原 諒蔵	静岡ロータリークラブ会長	ロータリークラブとは
第32回	戸野 谷宏	静岡ガス 社長	暮らしをデザインするソリューション企業を目指して
第33回	河野 誠	河野法律事務所 所長	司法と弁護士役割
第34回	養田 隆一	三菱商事 支店長	総合商社三菱商事の60年と未来
第35回	伴野隆一郎	TOMONO オーナー	外資との提携を経験して
第36回	北澤 晴樹	静岡朝日テレビ 社長	テレビを巡る最新の状況
第37回	望月 義弘	タカラ・エムシー 元会長	静岡の消費支出と物価
第38回	安本 吉宏	安本吉宏公認会計士事務所 所長	職業会計人として生きる
第39回	江頭 信義	トヨタL&F静岡 社長	トヨタフォークリフトの歴史と今
第40回	川崎 裕司	東名自動車学校 社長	少子化における経営戦略
第41回	高階 成造	安藤ハザマ 支店長	建設業界の現在・過去・未来
第42回	田中 楯夫	田中忠雄建築設計事務所 社長	地域社会と街づくり活動
第43回	磯部 潔	静岡赤十字病院	エクセレントホスピタルになるために
第44回	大石 剛	久保田塗装 社長	鋼橋塗装業発祥の地しずおか
第45回	鴫田 勝彦	TOKAIホールディングス 社長	公務員から社長業への華麗なる変身

2、講義の準備とレポート評価

1回90分の講義は講演に慣れた会員の方でも長く感じる時間です。委員会では講義を決まった手順で進める標準化したルールを作り、その流れを各人意識しながら講義メニューを決めていきます。まず講師の自己紹介から入り、所属企業の会社紹介へと進みます。その後は各講師の判断で自由に進めていきますが、特筆すべきは「まだメディアで紹介されていないホットな話題やエピソードを紹介する」ことと、就職活動を控えた学生に対し「企業が望む人材とはどういうものか？」を講師の主観でお話いただくことです。これにより学生は社会の評価と自身の現状の姿のギャップを認識する機会を得ることができ、残された学生生活を有効に使うためのきっかけ作りにも役立つものと自負しております。

そして講義の終わりには今回の講義を聞いた感想と、各講師が自由に設定できる課題テーマに応える記述式レポートが課されます。毎年270名を超す学生が本講義を履修するので、その平均出席率を90%としても250枚前後の課題レポートを熟読し評価することになります。この作業は表裏250枚の評価、つまり500ページの書籍を読むことに等しく、採点の期限をレポート回収後1週間としているため、講

義の材料を準備する以上に講師にとっては大変な作業になります。しかし学生らが若者の視点で記述するレポート内容は、大変興味深いものが多く、その声を企業経営の材料に引用するケースも増えているようです。採点は各回とも平均点を80点となるように基準を設け、各講師の判断に委ねます。

3、採点集計とシステム開発

採点が終了した後は当委員会がレポートを回収し、履修者名簿への点数書き込みを行います。最初はせっせと1人ずつ270名の名簿の中から該当者を見つけ採点欄に点数を書き込んでいましたが、各回の書き込みにかかる時間は4時間を超え、非効率な集計作業を改善するためにどうしたら良いものか悩む日々が続きました。

そこに助け舟を出してくれたのが、富士ゼロックス静岡の栗原社長です。同社の看板ソフトである「Docu Share」を用いて、複合機でレポートの指名と学籍番号、評価点数を読み込み、履修者名簿に自動転記していく夢の集計ソフトを無償提供していただきました。これにより4時間かかっていた作業は20分に大幅短縮され、負担が劇的に減っていきました。このように連携講座に対する静岡ロータリー

会員各氏の関わりは、講義だけに限らず集計作業にまで及んでいます。こうした事務的な面からもロータリアンによる連携講座という言葉がシッカリ当てはまるのではないのでしょうか。

4、今後の展望

伊藤会長（当時）と伊東学長が取り交わした契約によれば、連携講座はあと2年で終了します。静岡大学からは非公式ながら期間延長の声も届いていますが、当たり前ですが残りの30回、つまり契約満了までの2年間を無難にやり遂げることが最優先です。誰でも1回は講義を担当することになっている連携講座ですが、5年間の合計講義数は「75」、静岡ロータリークラブの会員数は100名弱ですので、「1会員1講義の原則」を達成するにはあと2年の延長が必要になります。期間延長か期間満了で終了とするかは来年度の会長久保田先輩が判断することになりますが、今まで登壇された皆様の声も大きな判断材料となるに違いありません。いずれにせよ全国に広まりつつあるロータリアンによる教育連携講座の社会的評価はゆるぎないものとなりました。全国の先端をゆくこの活動の普及をより拡大するためにも残りの2年間は各方面から注目されるものとなりそうです。今まで講義いただいた講師陣からも建設的な改善点を伺っておりますので、さらにブラッシュアップして日本を代表する奉仕活動として定着を図りたいと思います。



270名を超える学生が履修しました



講義風景：望月元会長



熱心に聞き入る学生



講義を見学する青森モーニング RC 会長と松本 RC 会長（右）



The 80th Anniversary

静岡大学連携講座を担当して

河野法律事務所 所長

河野 誠

平成27年4月27日に、「司法と弁護士の役割」というタイトルで、静岡大学連携講座を担当致しました。

当日は、事前に講義内容をA4の用紙1枚にまとめたレジュメのほか、パワーポイントのスライドを用意し、本番に臨みました。

講義では、学生にとっては日頃馴染みが薄く、堅苦しいであろう内容に親近感を抱いてもらえるよう、諸外国との弁護士割合の比較や、国家予算における司法関連予算の比率など、様々な「数字」を中身に盛り込むことにより、少しでも興味を持って話を聞いてもらえるよう工夫しました。

当日は、階段教室にほぼ一杯の学生が熱心に話を聞いてくれ、担当した本人としては準備の甲斐があったと安堵しました。

講義後、学生が次週までの課題として作成するレポートには、講義の感想に加え、「議員定数不均衡訴訟における裁判所の態度をどう思うか」という、法の支配や国民主権といった基本原理に関わる難しいテーマを設定しました。これに対し、学生は皆、裁判所の現在の判断がどういったものかといった下調べから始まり、裁判所がそのような判断をする理由、またそれに対する評価などについて、一生懸命書いており、及第点に届かない答案はありませんでした。

担当を命じられた当初は、正直暗澹たる気持ちで

したが、実際に講義を担当してみて、得難い経験をさせていただいたと感謝しております。



2015年度・第3回講義担当：河野弁護士



講義風景



スライドを使用した講義

静大 講義を終えて

静岡朝日テレビ 社長

北澤 晴樹

講義は5月18日、「テレビを巡る最近の状況と地方テレビ局の地域貢献」というテーマで行いました。

「松本ロータリークラブ」「青森モーニングロータリークラブ」のロータリアン4名に視察の中の講義とあって少々緊張しました。

内容は視聴率や広告費などのテレビの基礎知識から4K8K・インターネットテレビなどの最近の状況、静岡を元気にするための在静民放4局の共同キャンペーン「wktkプロジェクト」それに「静岡マラソン」と「台北マラソン」のコラボレーションでの地域活性化などでした。出席した静大生は256人でレポートを読むのに結構時間がかかりました。

設問①は講義の感想ですが、大学生がテレビを余り見ていないことが改めて分かりました。テレビを見るのにも番組をとりあえず録画して暇な時に見ること、CMはほとんど飛ばして見ているとのこと。うすうすは感じていましたが改めて「若者のテレビ離れ」を感じました。

設問②は「静岡を元気にするためにあなたは何かをするのか」でした。ちょっとびっくりしたのは意外と県外から来た学生が多いということでした。

そして、自然・食べ物・富士山など静岡の魅力を全員が感じていること、それを県内・県外に発信していったり、イベントを起こしたりすることが静岡を元気にすることだと言う回答が多数を占めました。

そして大多数の静大生がSNSを使って発信していくとしており、テレビや新聞・ラジオなどの従来型のメディアを積極的に使っていくという意見は有りませんでした。時代の流れを感じました。

また機会があれば今度は「メディア論」で議論してみたいと思っています。



2015年度・第6回講義担当：北澤社長



学生と対話しながら講義を進める北澤社長



The 80th Anniversary

静大附属擁護学校の富士山写生大会と記念植樹

社会奉仕委員会

堀池 彰

静岡ロータリークラブ80周年記念事業「富士山世界文化遺産登録記念写生大会・ぼくの、わたしの富士山を描く」について報告致します。

この事業は、静岡ロータリークラブの80周年を記念するとともに、社会奉仕活動におけるRIロータリー財団からの補助事業として実施しました。

開催は2014（平成26）年10月25日でした、参加された「静岡大学附属特別支援学校」の生徒さん32名（姉弟を含む）とPTA（教員を含む）45名に静岡RCのメンバーの方々33名を加え、総勢で110名が大型バス3台に分乗して富士宮市にある屋外活動施設「ふもとっぱら」キャンプ場に向かいました。

当日は天候にも恵まれ、移動中から富士山が美しく、写生大会開催中も一日晴天となり快適に事業を進めることが出来ました。

広大な草地がひろがる施設内では参加された生徒さん達が思い思いに富士山の写生に取り組み、子供達同士や家族と一緒に和気藹々と、また時間とともに真剣に目の前に構える雄大な「富士山」を描き、取材を受けた静岡新聞の紙面からも伝わってきました。

生徒さん達が写生をしている間に我々静岡ロータリークラブのメンバーは、前年の台風でなぎ倒された富士山の裾野に連なる荒れ地の植林活動を体験し、慣れない作業に汗をかきましたがその後は参加者全

員でバーベキューで盛り上がり、「バター造り」や屋外活動を楽しみました。

閉会式では生徒さんの代表による「謝辞」をいただきましたが「こんな大きな富士山はを初めて見ました、楽しかったです」との言葉にロータリークラブの社会奉仕の意義を痛感した次第です。

最後になりましたが、企画から実施に至るまでに静岡大学附属特別支援学校の教員の方々、またPTAの役員の皆様には、度々の打ち合わせでご多用な中にお集まり頂いたり連絡調整にお時間を割いて頂き、陳謝と御礼を致します。

また、企画から実施まで協力願いました本年度社会奉仕委員会の委員の皆様と、当日の運営に活躍した静岡ロータリークラブのメンバーの方々にも感謝申し上げて事業報告とさせていただきます。



2014～2015年度 国際ロータリー第2620地区 静岡第5分区
インターシティミーティング

テーマ：未来の夢計画 ロータリーに輝きを

開催日：2015年3月1日(日)

会場：グランディエールブuketーカイ 4F(シンフォニー)

ホストクラブ：静岡ロータリークラブ



ご来賓

国際ロータリー第2620地区ガバナー	岡本一八様	静岡市長	田辺信宏様
静岡商工会議所連合会会長	後藤康雄様	静岡第5分区パストガバナー	青島廣幸様
静岡第5分区パストガバナー	牧野静二様	静岡第5分区パストガバナー	志田洪顯様
静岡第4分区ガバナー補佐	由利浩志様	静岡第5分区ガバナー補佐	鈴木俊光様
国際ロータリー第2620地区幹事	石原 実様	静岡第5分区ガバナー補佐	荻原英生様



The 80th Anniversary

プログラム

テーマ：未来の夢計画 ロータリーに輝きを

15:00～15:30	登録受付「4F シンフォニー」	司会	藤田 博久 原田亜紀子
	点鐘	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英生
	国家斉唱	ソングリーダー	川崎 裕司
	ロータリーソング「奉仕の理想」	ソングリーダー	川崎 裕司
	開会の言葉	IM実行委員長	山口 良昌
	歓迎の言葉	会長	浅原 諒蔵
	来賓及び役員紹介	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英生
15:30～16:10	来賓挨拶	ガバナー	岡本 一八
	来賓挨拶	静岡市長	田辺 信宏
	来賓挨拶	会頭	後藤 康雄
	参加クラブ紹介	副実行委員長	久保 田隆
	ガバナー補佐挨拶	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英生
	記念講演案内	司会	藤田 博久 原田亜紀子
16:10～16:20	休 憩		
16:20～17:20	記念講演	天文学者	浅田 英夫
〈閉会セレモニー〉	所見 次期ガバナー補佐紹介	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英夫
17:20～17:39	次期ガバナー補佐挨拶	次期ガバナー補佐	満井 義政
	次期IMホストクラブ紹介	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英夫
	次期IMホストクラブ挨拶	静岡西ロータリークラブ会長	高橋 雅実
	閉会の言葉	副実行委員	高橋 信継
	閉会点鐘	静岡第5分区ガバナー補佐	萩原 英夫
	交流タイム&懇親会案内・退場誘導	司会	藤田 博久 原田亜紀子
〈交流タイム〉	ロータリアン交流会（名刺交換会）静岡&清水芸妓唄・踊り		
17:50～18:20	懇親会誘導		
〈懇親会〉	開会挨拶・乾杯	パストガバナー	牧田 静二
18:30～19:55	ロータリーソング「手に手をつないで」	ソングリーダー	望月 義弘
	閉会の言葉	幹事	佐藤 長巳

IM 開会の言葉

IM実行委員長

山口良昌

本日は、国際ロータリー第2620地区第5分区インターシティミーティングの開催にあたり、田辺静岡市長様、後藤静岡商工会議所会頭様、国際ロータリー第2620地区岡本ガバナー様始め、ロータリー関係のご来賓の皆様方には、ご多忙の中、御足下の悪い中にもかかわらず、ご臨席たまわり、ありがとうございます。そして第5分区、9クラブからご参加いただいた大勢のロータリアン皆様方、ようこそお越しくださいました。

私ども、静岡ロータリークラブは昨年のお南でのIMで来年度のホストクラブを仰せつかりました。

以来、本日の開催に向けて、静岡のIMに参加してよかったと、喜び、評価していただけるようにクラブを挙げて準備をまいりました。

本日、このIMの場を通して、第5分区内9クラブの連携が強まり、ロータリアン同志の親睦が深まり、さらなるロータリーの奉仕活動の輪となり拡がって行く事を願っております。なにかと至らない点、不行き届きの点もあるかと存じますが、そこはロータリアンのフレンドシップに免じてご寛容賜ればと存じます。それでは只今より、国際ロータリー第2620地区第5分区インターシティミーティングを開会いたします。





The 80th Anniversary

IM 歓迎の言葉

会長

浅原 諒 蔵

静岡第5分区の皆様こんにちは。

本日は、国際ロータリー第2620地区第5分区インターシティミーティングによるこそお越しくできました。

ホストクラブになる、静岡ロータリーを代表して心より歓迎を申し上げます。今日、ここ静岡には、午前中に徳川家康公の顕彰400年の記念事業に関して、42.195キロのフルマラソン、静岡マラソンが開催され1万人を越す参加者が沿道の大勢の声援の元、熱戦を繰り広げ、同じように本日インターシティミーティングが開催されているこの会場も大勢のロータリアンで埋め尽くされ熱い雰囲気が漂っております。

そのような機会に、9年ぶりにホストクラブとなりました、静岡ロータリーが精一杯のおもてなしで、お応えをしたいと思っております。特に、記念公園後の交流タイムや懇親会では、思考を凝らしたおもてなしをご用意しておりますので、存分にお楽しみいただければと思っております。先週の月曜日、2月23日はロータリークラブの110回目の誕生日でございました。今から110年前の2月23日に設立されたロータリーも110年という時間が経過いたしますと自ずと役割も使命も変わって参ります。本日のイン

ターシティミーティングを通しまして地域社会へ少しでも、お持ち帰りいただければ幸いです。

簡単ではございますが、歓迎の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



IM 来賓挨拶

ガバナー

岡本 一八

皆様、こんにちは。本日はおめでとうございます。

私はこの地区の更新訪問の途中半分ぐらいで体調を崩し、後を副ガバナーにお願いをしました。本当に皆様方には頭が下がる思いで、ありがとうございました。

ここにいるガバナー補佐の方々にも大変ご迷惑を掛けしまして本当にすみませんでした。

本日のインターシティミーティングというのは皆様もご承知かと思いますが、せっかくのこの地区の集まりですので、今迄顔を見たことが無いという方も、知人という形にして今日は、友達にしてお帰り願いたいと思います。私がいつも言っているのは懇親会、講演会で名刺10枚くらいはもらってきて、そして、顔を覚えてやってほしいと、いつも言っております。それから、毎年の事だと思いますが、会長から言われているのは何がなんでも会員を増やしてくださいと。特に日本は高齢化の国ですから今のうちにたくさんの新人を入れてほしいと言われております。私は会員を何人にせよと言っているのではなく新しい会員を200名入れてくださいというお願いしております。やはりそれをやるには選んでいるとなかなか良い人はいない、ロータリーに相応しい人はなかなか探してもいない。でも、ロータリーに入

れば皆、一流になりますから是非、どんどん新会員を入れてほしいと思います。それから、必ずやらされていることがあるのですが、楽しい時にはハッピークラブ言って、手を叩くことをやります。今年もそのハッピークラブをずっとやらされました。それを徹底的にこの地区で、誰が入会した、楽しかった、全部その時は手を叩きましょう。ありがとうございました。





The 80th Anniversary

IM

来賓挨拶

静岡市長

田辺信宏

皆さん、こんにちは。

静岡市長の田辺信宏と申します。

開催地の市長としては、焼津、藤枝、島田、榛南地区からたくさんのお客様もいらっしゃると思いますので、歓迎方々の挨拶をしたいと思います。歓迎の割には声が嘎れていて申し訳ありません。

先ほどお話がありました静岡マラソンを「ガンバレ!!」と声を掛けすぎて少々お聞き苦しい声になってしまいますけれども心を込めてご挨拶申し上げます。静岡マラソンには全国から1万200人が参加し、大成功でした。ホテルや旅館も満杯になり経済効果も大きなものでした。静岡市は4月から8年間にわたる第三次総合計画に取り組みます。人口の減少に備えて、人を集めるにはどうしたらいいか、大きな課題になります。私は四半世紀前にロータリークラブの奨学金でヨーロッパに行かせてもらいました。欧州の観光都市ではどこでも、街の真ん中に歴史的な建造物があり、きちんと引き継がれていました。最近古いものを大事にする気風が弱くなっています。静岡市ではハードもソフトもいいものはきちんと継承していきたい。総合計画では駿府城の再建を目指しますが、ハードルは高く、民間の協力がないと難しい。家康公没後400年祭を起爆剤にして、昔あつ

た素晴らしいものをよみがえらせ、引き継いでいきたい。そんな街づくりを目指していきます。今日が、皆様の明日の活力になることを願い、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。



IM 来賓挨拶

静岡県商工会議所連合会会長

後藤 康雄

改めまして、みなさんこんにちは。

昨年、始まりました静岡マラソンは静岡県初の公式マラソンであります。昨年は天気が悪く、今年も残念な天気となってしまいました。

来年は三度目の正直ということで、皆様ご参加ください。本日は、国際ロータリー第2620地区静岡第5分区分ターシティミーティング盛大に開催され、誠におめでとうございます。中心からお祝いを申し上げます。本日、お集まりの県中部各地域のロータリークラブの皆様におかれましては、日頃から会員双方の親睦を深めると共に長年にわたり職場、地域社会あるいは国際社会に対する奉仕活動続けておられますことは、本当に有意義であり、改めて心事なる敬意を表します。

静岡県は富士山の世界文化遺産の登録が追い風となり、外国人の宿泊者が大幅に増加しております。私達、静岡県商工会議所もこの機会を、逃さない様に外国人旅行者の誘致の為、環境整備に力を入れてまいります。今年、徳川家康公400年の年を迎え静岡、浜松、愛知県の岡崎を中心とした、記念事業が繰り広げられていることでもあります。静岡県商工会議所におきましては、今年11月23日に徳川家康公と富士山をテーマにした全国商工会議所観光振興大

会IN静岡を開催いたしまして、全国から2000名を超える方々をお招きする予定でございます。数々の記念事業を通じまして、平和の象徴を未来の日本、全国へ発信してまいりたいと思います。このように、地域活性化に向けて、様々な事業を展開する所存でありますので、ロータリークラブの皆様には引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。結びになりますが、本日お集まりのロータリアンの皆様日頃の活動を通じまして地域社会の中で、さらに存在感を高めご活躍を願いましてお祝いの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





The 80th Anniversary

IM 所見

静岡第5分区ガバナー補佐

萩原英生

本日は、多くのご来賓の方にご臨席頂きまして、このように立派にIMが開催出来ますこと、本当にありがたく感謝申し上げます。ありがとうございます。

いまここから、皆様のお顔を拝見いたしておりますと、大変輝いて見えます、さすが一流の会社、一流の企業の皆様です、ロータリアンのお一人お一人の顔が輝いていればおのずから間違いなくロータリーは輝いて見えます、又、輝いているはずです。

未来に希望を持っている人は必ず輝いています。例えば五年後には東京オリンピックが開催されます、昨年「はやぶさ2号」が大きな夢と希望を乗せて宇宙へと飛び立ちましたが時を同じくして五年後に地球に戻って来ます。51年前の東京オリンピックをご存知の方は頑張って今度のオリンピックまで希望をつないで下さい。

私たちは未来をいつでも感じながら、前向きに生きて行きたいものだ、と言う事で今回のテーマを設定させて頂きました。

ご参加の皆様が懇親会の始まるころにはなお一層輝きを増して頂けますよう、今日はお願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



IM 記念講演

浅田 英夫

～宇宙人はいるか～

17世紀までは、地球は宇宙の中心に位置し、人類は上に選ばれた絶対の存在だと信じられていた。ところがガリレオ・ガリレイをはじめとする近代科学者の登場により、宇宙観は大きく変わった。

それ以後、誰でも考えるようになったことは、「地球以外にも生命が存在する星はあるのだろうか?」、「宇宙人は本当にいるのだろうか?」ということ。これは天文学の永遠のテーマのひとつである。

～地球の生命はどこから来たのだろうか～

地球は、太陽系の中でも唯一その表面に水をたたえた惑星である。この液体の水があるからこそ生命が誕生し進化することができた。なぜ地球だけが水に育まれた惑星になったのだろうか。それは、太陽からの距離と地球の大きさがその環境を作り出したと言って良いだろう。また、月の存在も大きいと言われている。しかし、水の存在だけでは生命は生まれない。生命の材料となっている有機化合物はどのように現れたのだろうか。近年、有機物は宇宙に大量に存在していて、それらが彗星や隕石に乗って地球にやって来たらしいと考えられるようになった。

～水をたたえた星 地球～

5000年前、カルディア人達の心を惑わせ、星座を

作るきっかけを作った5つの星たち。それは太陽の周りを巡る惑星でした。惑星たちは、今から46億年前、銀河の片隅で産声を上げた太陽とともに誕生しました。数は全部で8つ。そのうち、太陽から3番目の惑星が私たちの地球。誕生からおよそ1億年後、地球の半分程の大きさの微惑星が、地球に斜めに衝突、そのとき砕け散った破片が地球の周りを回りながら集まって月が誕生しました。

その後、地球は太陽からの距離と大きさがちょうど良かった為、ゆっくりと冷え、太陽の雨が降り水をたたえた美しい惑星となったのです。

～受け継がれる命～

38億年前、月が奏でる優しい潮汐力のリズムにのって、海の力で最初の命が産声を上げました。その命は、その後地球の温暖化と寒冷化の中で、進化と絶滅をしながら、海から陸に上がり、爬虫類から哺乳類へと進化していったのです。そしてやがて、私たちの先祖が誕生し、おじいさんおばあさん、お父さんお母さん、へと受け継がれ、今私たちがここにいる。これはまさに、偶然と必然が融合した奇跡の連続。宇宙で生まれた奇跡の星地球、そしてその地球で生まれた奇跡の私たち、すべては過去から現在、そして未来へとつながり、宇宙と繋がっているのです。宇宙の大きさから比べれば、消えてしまいそうなちっぽけ命、でも太古からバトンのように受け継がれた大切な命。だから地球と命を守り、未来へと送ることが、私たちの使命・・・



The 80th Anniversary



参加者一覧（順不同、敬称略）

御出席者の交代等で反映されていない分がございます。ご了承ください

焼津（30名） 会長：仲野和則

藤原明	近藤吉典	水野康男	浅原博	深沢英雄	吉田典充	仲本滋哉	芳村正樹
久保田好一	吉田雄一	倉嶋伸康	岡村延昌	伊東良洋	村松英和	福崎正展	小林学史
大石訓永	仲野和則	松村友吉	鈴木啓央	清水誠一	山竹葉子	塩川 彰	金丸好孝
青島直久	多々良匡	村松孝保	大石博之	村田昌弘	村松直行		

島田（26名） 会長：福島吉衛

井上勝彦	丸尾氣窮雄	福島吉衛	村本真也	渡邊直樹	朝倉純夫	村岡真生	小柳敦史
長谷川圭司	伊藤一成	竹島総一郎	塚本啓二	岡本廣一	大久保節夫	市川充宏	小寺敬二
鈴木民雄	福田昇	太田芳伸	鷺坂純生	多治見則之	奥尾龍太郎	栗田良久	池谷俊昭
大澤勲夫	松井四郎						

藤枝（28名） 会長：池ノ谷敏正

青島彰	石垣善康	大塚博巳	杉山静一	玉木潤一郎	畑昇	村松英昭	山田賀昭
荒井聡	江崎友次郎	栗原毅	鈴木透	大長昭子	松田真彦	森下敏顯	仲田廣志
池谷佳典	大石英典	小西啓一	鈴木舜光	土屋富士子	松葉隆夫	柳原寿男	松葉義之
池ノ谷敏正	大塚高弘	島村武慶	平和則				

静岡西（23名） 会長：高橋雅実

田中耕二	川村昌史	北島俊秀	武藤和義	岡村真央	白鳥三和子	鈴木麻祐子	富田英児
今田智久	川崎友和	満井義政	長島豊	佐々木敏春	白鳥勝平	大橋章男	山梨透
加藤博一	金原康之	望月正弘	沼田時子	佐藤嘉洋	杉山元	高橋雅実	

焼津南（21名） 会長：西野訓男

中西春之	渡仲義雄	法月昭治	小梁博治	神谷裕昭	早川博幸	岡本浩明	植松章司
山肇	小林義信	西野訓史	大川鉄男	増田孝枝	村松晴一	林奈美	中村幸夫
斉藤東洋	小濱隆夫	久保田誠	古谷仁	辻満里子			

榛南（20名） 会長：佐藤成男

赤堀俊兵	植田進	大石新治	佐藤成男	鈴木義弘	長谷川秀男	松下彗雄	水野悦裕
浅井清	榎田敏雄	大石奉正	鈴木愛一郎	曾根啓次	畑義治	三浦進	吉永行兵
岩堀英治	大石捷次	小野田明夫	鈴木靖幸				

静岡北（18名） 会長：鈴木勉

鈴木勉	戸崎博隆	石垣徳夫	杉山義郎	成瀬重夫	豊吉保詩	内田英男	大橋利昭
津田薫	吉田空玄	杉山直	林大樹	米田實	森崎和敏	岸好子	小野田貴
山崎俊昌	山田喜久子						

藤枝南（16名） 会長：伊藤彰彦

伊藤彰彦	内山淑夫	伊藤恒夫	竹田敏和	玉木末雄	稲葉俊英	杉浦聰	鈴木寿幸
渡辺芳隆	小林正敏	早川清人	池ヶ谷勇	朝比奈潔	漆畑雄一郎	平原望	ドベトクーン

静岡（96名） 会長：浅原諒蔵

青島廣幸	原田亜紀子	小林武治	河合寿	望月啓行	岡部一彦	斎藤靖	錦田勝彦
東俊光	伊藤博	児玉俊明	久住与志人	蓑田隆一	杉山孝俊	鈴木辰男	津田将広
長谷川豪男	稲葉豊	加藤誠	北澤晴樹	中山秀樹	志田洪顯	塩原太一郎	高橋信之
疋野智男	岩崎茂夫	川崎裕司	牧田静二	野村研	佐藤長巳	田中楯夫	太口努
堀池彰	井熊正浩	川嶋秀樹	向坂達也	西村やす子	杉本忠重	伴野隆一郎	古木公生
平松義康	井上裕詞	川辺哲	望月義弘	荻原英生	鈴木礁	藤田博久	植松昌美
平尾清	井手聡	河村卓利	松崎至宏	荻野淳	福地益人	寺戸常剛	山元雅久
服部守親	磯部潔	河野誠	森田昌宏	江頭信義	新庄剛和	高村信継	山口良昌
橋本良一	石井大介	小林豊	相浦司	大澤泉	坂上康	谷本宏太郎	山崎純男
本保晃	近藤哲也	浅野秀浩	水上房吉	大石剛(つよし)	里見和洋	戸野谷宏	安本吉宏
花村豊充	青野高宏	栗原廣司	宮崎洋一	大石剛(ごう)	佐藤三千男	田中孝将	吉田寛
浅原諒蔵	久保田隆	木村絵美	三浦孝文	小田博之	白垣好信	高階成造	蔡遣



The 80th Anniversary

IM 懇親会

会場 4F シンフォニー



IM 2014～2015年度インターシティミーティング収支報告書

実施日：平成27年3月1日

(単位：円)

収 入 の 部	
項 目	
会費収入	2,695,500
補助金収入	200,000
雑収入(御祝儀)	40,000
合 計	2,935,500

支 出 の 部	
項 目	
会場設営費	513,661
講師関係費	117,552
懇親会飲食費	1,656,422
アトラクション関係費	351,355
記念品費用	94,770
広報費	93,640
資料作成費	38,880
報告書作成費	51,400
雑費	17,820
合 計	2,935,500

IM 来期インターシティミーティング開催案内

2015～2016

インターシティミーティング開催案内
ホストクラブ 静岡西ロータリークラブ

日 時 3月5日(土)
開催場所 ホテルセンチュリー静岡
静岡市駿河区南町18-1



The 80th Anniversary

小さな親切運動清掃活動

社会奉仕委員会

堀池 彰

3月28日の移動例会・小さな親切運動に、多数ご参加頂き有り難うございました。

本年度は静岡ロータリークラブの80周年記念事業

の一環として、静岡クラブ単独で清掃活動を行いました。当日は晴天にも恵まれ、特に会員の皆様が日頃から親しんでいる両替町界隈を中心に市内中心部の清掃を行い、思いの外のゴミ収集量に活動の成果を実感いたしました。

また、その後の有志による花見会も桜は5分咲きでしたが、気持ちのいいひとときと成りましたこと、報告申し上げます。



麻機遊水地あずま屋例会

環境保全委員会 委員長

河合 寿

2014年夏、頼りにしていた環境保全委員長の古澤さんが、ご栄転により退会されてしまい、引き継ぎが無いまま、入会1年3カ月の私は、突然、委員長になってしまいました。本年度の環境保全委員会のメイン行事は「麻機遊水地あずま屋例会」の開催であります。この行事は、2005年、当クラブから麻機遊水地に「あずま屋・蓮見亭」を寄贈しており、その10周年を記念して開催されるもので、本年が初めてのとても重要な行事であります。にもかかわらず、浜松出身・焼津在住の私は、「麻機遊水地」がどこにあるのかも知らないとても情けない委員長でありました。そこで、何事もよくご存じの委員の望月さんに場所を教えてください、すぐに現地訪問をしました。ところが方向音痴の私は、湿地帯の中を東に西に1時間さまよい、目的地「あずま屋・蓮見亭」にたどり着いた時には、既に夕方、泣きたくなるような思いでありました。

安心したのも束の間、私の頭には「この細い道と湿地しかない、こんな所で、どうやったら例会を開催出来るのだろうか?」という大きな疑問が壁となって立ち塞がりました。まる1日、悩みましたが良いアイデア浮かびません。開き直って、分からないときは先輩に聞くのが一番だと思い、佐藤幹事をはじめ荻野さん、稲葉さん、近藤さんなどイベントに詳しい先輩たちにお聞きしたところ、私

にも分かるように丁寧に説明をして頂きました。やらなければいけないことをやっと理解し、几帳面な委員の斎藤さんに協力していただき、様々な準備が順調に進みだし、安堵しておりました。

ところがある日、浅原会長から新たなミッションが言い渡されました。

麻機遊水地をベースとして活動をされているNPO法人から、新たな器具を寄贈してほしいとの強い依頼がある、それを上手にとり纏めるようにとのご指示でありました。さっそく先方に訪問し、話し合いをしましたが、先方は様々な方たちが関与されている団体の為、なかなか意見がまとまらず、また話が一転二転した為、取り纏めにとても時間がかかってしまいました。最終的に「パーゴラ」を寄贈することで、先方も満足していただけることとなり、ホッとしました。

全ての準備が整い、いざ本番ということになりましたが、再び困った事態となりました。本番1週間前の天気予報で当日の降水確率が50%という判断のむずかしい予報となったからです。

それからの1週間、毎日、関係の方々との連絡を取り合い、検討した結果、最終的には小雨でも現地決行という判断がされました。部屋を開けて待っていて頂いた、雨天会場の浮月楼・久保田さんにキャンセルの連絡をさせて頂きました。ところが、当日の朝8時になって大雨になることが確実となり、全てを組みなおすことになってしまいました。幸いなことに、松崎さんのご紹介で近隣に会場を確保することが出来、さらに事務所の山口さんから全員に変更の緊急連絡をしていただき、近藤さんや斎藤さんに土砂降りの中、駐車場の案内をし



The 80th Anniversary

ていただき、なんとか開催までこぎつけました。

例会は、浅原会長にご挨拶頂き、2005年の会長の山口さんから「あずま屋寄贈の歴史」のお話を聞き、そして、自然再生協議会・ペーテル麻機部会の久保田会長へのパーゴラの目録寄贈と、滞りなく行われ、本当にホッとしました。

最後までバタバタしてしまい、皆様にご迷惑を

おかけし誠に申し訳なく思いました。また、先輩の皆さんは本当に親切で、快くアドバイスやご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

私自身は、この様に素晴らしい皆さんのお仲間に入れて頂いたことを、改めて本当に良かったと思う出来事でありました。



80周年を機になお一層輝きつつける静岡RC

創立80周年記念例会実行委員長

田中 楯夫

静岡ロータリークラブは 昭和10年の創立で、本日創立80周年の記念式典を迎えることになりました。1905年にシカゴでロータリーが生まれてから15年目に東京ロータリークラブが誕生し それから15年たって静岡ロータリークラブが生まれました。またそれから15年を経て、昭和25年一時RIから離脱していた静岡RCがRIに復帰するという 15年周期に歴史が動いていました。そして今年はRI復帰65周年の年でもあります。昭和10年に静岡RCが生まれたとき国内では20番目のクラブとして認証されたと聞いております。そのとき同時に生まれたのが 金沢RC、徳島RC、岐阜RC、帯広RC、そして静岡RCの5クラブでありました。それから80年たってももちろん現在もこの5クラブは それぞれの地区の中心的役割を果たしているわけです。 考えて見ますとロータリーに限らず 戦前から継続している組織は 学校や病院とか老舗の企業や団体等いろいろありますが それらは皆組織のトップの方がたの努力によるところでもあります。それらはまた本当にその時その時 社会にとって とっても重要で必要なものだったからこそ存続しえたのだと思います。自分たちの内輪だけの論理でなく、広く社会に貢献し その活動が地域社会にとって必要不可欠なものとなっているからこそ現在につながっていると思います。そのように考えて見ますと、80年前に生まれたこの5つのロータ

リークラブだけでなく その後全国に生まれた2290のクラブが自分たちの住む地域社会に理想をかかげ、奉仕の理念を持って活動し、地域社会に必要とされ愛され続けるとすればロータリーの未来は永遠に輝くだろうと思います。

開会に当たって静岡ロータリークラブの未来について考えてみました。 我が静岡ロータリーは会員同士の意思疎通が取れており、雰囲気が良いのが特徴でございます。

奉仕の心を育む原動力として、会員相互の親睦は欠かすことの出来ない要素であり、ロータリーの精神は、親睦と奉仕の調和の中に宿ると言われております。これからも親睦活動を通して会員の交流を深め、またロータリアン家族も一緒になって活動に取り組んでいく所存でございます。

80周年と云う節目の年を迎え、これまでの「礎」を築いてこられた、先輩ロータリアンに改めて感謝申し上げますと共に、次の周年、さらには百周年に向けて地区のリーディングクラブとして、奉仕と親睦に一層の精進を期す所存であります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げますと共に、ご指導・ご支援をお願い申し上げます。

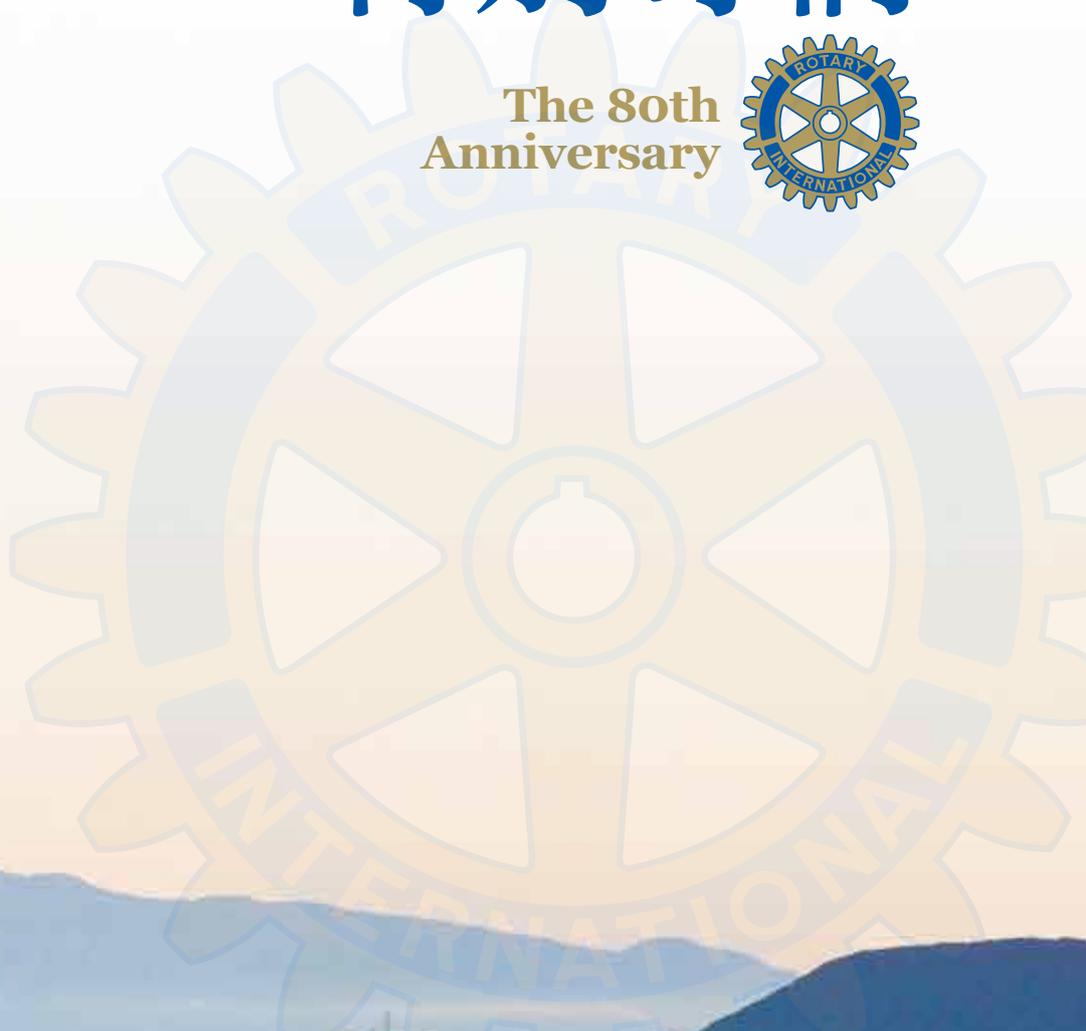
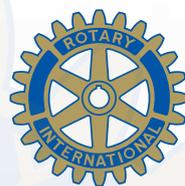
本日は誠にありがとうございました。



Special contribution

80周年紀念 特別寄稿

The 80th
Anniversary





The 80th Anniversary

静岡RC 80年誌によせて。

2013年—2014年 2620地区パストガバナー

志田 洪 顯

入会以来22年が過ぎました。静岡RC80周年という記念すべき日を思い、ロータリー手帳を繰ってみました。

私の手帳は1993-1994版から始まる。最初のうちは空手帳である。そして手帳に慣れるに従い、記帳内容はもっぱらPTAだ。全附連、県高P連、全国各地でびっしりと続く。そして静高、附属の同窓会も。社業に精励していたはずなのに全く記述がない。どうしたことだろう。

そして1995年4月10日に「静岡RC60周年、赤いベスト着用」とある。そうだ、野澤先輩の手配したしゃれた60年還暦祝いのベストだ。私は今でも着用している。親父のお古と2着を。懐かしいな、亡き野澤先輩の粋なお顔がよみがえる。残してある60周年ファイルを開けば、当時の鈴木和夫会長、後藤磯吉チャーターメンバー、内藤成男ガバナーなどの名前がある。既にいずれも故人だ。

1996.11.19には「いちまる松村とゴルフ」がある。今年Gノミニーになった松村氏とこの頃に既に出会っていたのだ。静岡ガスの岩崎清吾氏との出会いを探してみたが記載がない。もっと昔の、私がロータリーに入会するよりずっと昔のことなのだろう。芝川ゴルフ場で、私と魚市場のやんちゃ仲間の組に、平気で飛び入りしてきたのがあの岩崎清吾だった。後日のロータリー例会で遭遇し、驚き、確認し合ったものだった。しかるべくしてガスの会長になったと感じる。出会い、これこそ私のロータ

リーモーメントだ。

1997年末ころからPTAが減り、ロータリー行事の記載が急増する。堀端の会、伴野、萩原、東、志田などの自宅利用Home Partyが続く。この流れは「静岡RC東京例会」、「くろ麦の会」に続く。これら炉辺会議に関しては別途記録を残したいと考えているのでこの稿では省略する。

1998.5.22の伴野邸Partyは「エマグループ」となっている。1998.3.20から私は静高IAと先生方合計9人を引き連れてシリコンバレーのパロアルトに1週間滞在している。いまでもくつきりと思いだす。パロアルト高校の授業、高校生の車での通学、パロアルトRC例会でのランチメニューの選択制度、例会スピーチ、スタンフォード大近くの住宅街散歩での静かな挨拶「Good Morning!」。そして1999.3.13は「シーラお別れ会」がある。この頃の静岡RCの盛んな青少年交換事業を思い出させる。

2000年は65周年例会が開催されるはずであるが、私の手帳にはなにも残っていない。私は米山委員長で手元に理事会の資料が残っているがそこにも65周年のことは一言もでてこない。どうもこの頃5年毎の周年記念は開催しなかったようだ。この時の静岡新聞の秋田早苗会長の打上会にディナーをいただいたことや、秋田さんのお葬式も思い出す。

2005.1.17に静岡RC70周年記念例会とある。私は山口会長の下で実行委員長を命じられて寺戸氏、佐藤氏以下の協力を得て必死で働いた。NHK静岡のまだ名の売れぬ久保田祐佳ちゃんの司会で、駿府レンジャーなどの出演もあった。先日お亡くなりになった鈴木明子氏（鈴木与平チャーターメンバー夫人）に来賓筆頭でお出でいただき昭和25年当時のお話を伺った。今では違法のマーク入りポロシャツを作り、麻機沼の東屋建設、山本肇N

H K 司会の2度の座談会の開催なども記録に残っている。

2010.6.21は静岡RC75周年記念例会だ。私は会長であったようだ。そして実行委員長を児玉氏にお願いしたようであるが、全てはこの年度の浅原幹事が取り仕切っていたのでこの辺りのいきさつは殆ど判らない。静岡RCの素晴しさはこの権限移譲というか、実権を上げられてしまう慣例にあるようだ。ポールハリスの生涯を上演し、我がクラブ会員の隠し能力の凄さに驚き、東京RCの来賓が静岡にご縁があったことなどを思い出す。この時75周年を盛大にやるからには、今後はクォーター開催として5年毎はもとより、80,90周年はやらないで100周年にすると決めたはずであった。

それなのにそれなのに、またまた80周年を浅原会長が決意するとは、反対しようにも私のG年度地区幹事の浅原氏には逆らえない。80周年は2015.6.15に大成功に開催された。私も結局、千玄室大宗匠のお迎え接待に大わらわする羽目になってしまった。私はほんのちょっぴりお茶に係る。「表千家」の弟子である。しかし2012.11.18の高野年度の甲府地区大会にて「裏千家の千玄室PG」にお会いして、大宗匠の迫力と包容力に感激した。それ以来各地の地区大会やR研究会でお会いするたびにご挨拶をしてきた。驚くことに90歳を超えてなお、私がごとき人間の顔と名前とを覚えていてくれるのだ。あんな風に歳を重ねたいとあこがれの人である。それで浅原会長の「80周年に千玄室PGを呼びたい」に賛同して、京都に連絡を取る役目を果たした。そして京都まで表敬訪問することにもなった。寒い時期であったが珍しく優品のクラウンメロンを柿豊が探し出したので、大宗匠への自慢のお土産にできた。浅原氏はこれも素敵で静

岡いちごをたっぷり用意した。浅原、杉本、志田の3人で裏千家を訪問してご挨拶し、今日庵、不審庵界隈を散策した。夜は骨休めに祇園も楽しんだ。50年前のとある舞子の写真にのぼせた。すべてロータリーの出会い、モーメントである。

80周年当日の大宗匠お出迎えの時、静岡駅新幹線ホームでは参った。裏千家大宗匠の降りてきた車両に表千家同門会支部長夫人が鉢合わせしそうになった。お迎えに来た竹茗堂西村氏共々苦勞した。お元気ゆえ駅からブケまで歩くとおっしやり、無理にお迎えの車にお乗りいただく苦勞もあった。講演スピーチの中でも、お迎え役の私共をねぎらう言葉を挟み込むなど、全くガバナ教育のかなめ、原稿なしスピーチ要項そのままの見事さであった。

お送りでもまたハプニングがあった。静岡駅新幹線2階通路の東海軒売店の前でピタリと止まってしまった。隣の貴賓室にご案内のつもりだったのに、ええ？お腹がすいた？お昼ご飯の接待は不要のはずと？ドキリとした。静岡東海軒の鯛めしが好物だそう。それを聞いて安心して、売り子の女性に平尾社長のツケにしてくれと言っておいた。どうなったことか。

浅原会長のお考えで講演は公開講座にした。裏千家もそれを望んだ。裏千家淡交会の会員を集めて欲しいとの要望もでていた。静岡支部長は常葉の木宮健二氏であることも判ったので、佐藤長巳幹事の努力で多数の淡交会会員のご参加もいただいた。

公開講座のあとの記念式典は第4,5分区G補佐、各クラブ会長幹事の出席のお蔭で厳粛で盛大なものとなった。そして静岡RC大得意の大懇親会は勿論大いに楽しめた。2620地区の色々なややこし



The 80th Anniversary

い問題がつもり積もっている時だったので、他クラブ会長幹事と胸襟を開いて話すことができたことも幸いであった。聞くところによると、夜遅くまで、どこかで宴は延々と続いたようだ。静岡RCお祭り実行クラブの伝統は間違いなく次の世代に引き継がれていることを実感した。伴野氏、伊

藤氏や私など過去のお祭り男はもう静かなものだった。女房に引き従って早々に帰宅した。

80周年実行委員会田中委員長以下委員会の皆様、浅原、佐藤、正野、荻野の役員さん、ほんとうにご苦労様でした。会員諸氏の協力のもとに、また新しい伝統の1ページが書き加えられました。

Fire Side Meeting in Shizuoka RC

2013年—2014年 2620地区パストガバナー

志田 洪 顯

静岡RC 80周年にあたり、私に関わった静岡RCのFire Side Meetingについて記述してみます。

1990年代、静岡RCでは野澤、松崎、望月会員などが盛んに街中炉辺会議を開催されており、私も入会前から巻き込まれた被害者の一人でありました。セルジオ、オーロラなど、もうあちこち。名前を忘れてしまったり、閉店したり、ほとんど覚えていません。クラブのよき伝統は引継がれるべきであり、今でも団塊の会とか、駅南銀座の会などを始め、非公式と言われながら公式以上に公認され、強い力を持つ会がいくつも続いています。その中で伴野氏とともに継続してきたいくつかの会が、かれこれ20年近くになってきたので、よき伝統になりうるか否かは問わずに、それらをまとめておくことも80周年記

念誌にふさわしいかと考えここに記録します。

1994.5年に話が始まり、変形しながら今に続いている会があります。会の最初の名前は「堀端の会」、これが「Home Party」、「東京下町を食する会」、「一水会」など枝分かれ、収斂を経て、「静岡RC東京例会」に繋がっていきます。また2003年から始まった「くろ麦」の会も50回記念を迎えようかという伝統継承の素晴らしい会であるので紹介したいと思います。以下敬称略にてお許し願います。

「堀端の会」とは、駿府城の内堀外堀周辺にある各学校のPTAロータリアンの集まる会として、山口平井工業、増田新月堂、志田などが呼びかけ、雙葉、英和、附属、城内、静高などのロータリアン、山口先輩から西村竹茗堂までの世代のメンバーで構成した会でした。実働は1995.6.8、1997.12.16、1998.5.18の3回が私のロータリー手帳に記録された確実な開催日でありました。

そしてこの会に伴野(雙葉)、荻原(附属・静高)、東(附属)などのメンバーが加わるにつれて、会場を安上がりな自宅Home Partyでやろうとの雰

囲気が高まりました。1998.5.2伴野邸、1998.11.31東邸、1999.3.7田中邸、2000.9.16、2002.11.09、2003.4.19志田邸、2003.6.3伴野邸、2003.7.26萩原邸、2003.9.23桜井邸2004.7.28伴野邸、2005.2.26富久の会、2005.4.17由比桜の会、2005.8.3鮎の会、2006.3.4伴野邸、2006.4.8由比桜の会、2006.7.26伴野邸花火の会、2007.3.3萩原富久の会、2007.4.7由比桜の会、2008.3.8伴野邸富久の会、2008.4.6由比桜の会、2008.7.23馬走花火の会、2008.12.2萩原邸、2009.3.16伴野邸味の会、2009.4.4由比桜の会、そして2009.7.12の武藤日銀迎賓館でのFamily Partyも思い出深い会でした。さらに2010.4.10由比桜の会、2010.7.28馬走夏祭り、2011.7.23馬走花火の会、2012.4.8由比桜の会、2012.7.28馬走夏祭り、2013.4.6由比桜の会、2013.7.21馬走夏祭り、2014.8.2馬走夏祭りと続きました。

そして2015.4.4由比桜の会開催にあたり、志田は長すぎる春にとどめをさすべく会員各位に感謝一杯最終回を宣言しました。伴野氏も2015.7.25の馬走夏祭りではやはり最終回を宣言しましたが、参加者から異議も唱えられていました。どちらにしても一応の区切りとされるでありましょう。

Home Partyが盛んになり支店長メンバーが増えだした頃、Party Memberで2004年12月退会者である安永日銀と、2005年3月退会で静岡移住を決意しかかっていた春山住商との旧交を温めるべく、2005.6.30に伴野夫妻、志田が東京に行き、「東京下町を食する会」を開催しました。場所は本所高橋の老舗「伊せ喜」とし、どじょう鍋を楽しみつつ静岡談義に盛り上りました。そして静岡RC会員が上京し、退会者とともに舌づつみを打つ会の毎年の継続を決議しました。2006年は両国のしし鍋「ももんじや」に行ったような気がするが記録にありません。流会となってしまったかもしれません。しかし

2007.2.2に深川森下の桜鍋の名店「みの家」で盛大に開催することができ、馬の脂の塗り薬をお土産に再開を誓いました。そして2008.9.18には品川Twinsにて中山NTTの紹介だったのか、しゃれた雰囲気が集まり、名前も「東京例会」が通称に決まりました。次会2009年は森下の居酒屋、煮込み、焼とんの「山利喜」に狙いを定め、試食調査までしたのでありますが、本店が建替え休業となったこともあり時期を失いました。そして2010.10.3には退会した横山巴川の軽井沢のお宅を大澤巴川夫妻の肝いりで訪問し、ゴルフコンペも楽しみました。この頃、誠に申し訳ないことに、伴野、志田がクラブ会長に遭遇し不本意ながら開催不能になってしまいました。

一方我々は、OB会「東京例会」とともに、静岡の現役支店長さん方に焦点をあてた会の開催を目論みました。我々地元人にならぬ経験と知見をもち、静岡に赴任し、また中央に戻る方々、たとえば日銀、JR、電力、などの公益企業、商社、保険、証券、飲料などの全国規模の方々と、動きの鈍い地元人の懇親の場を創ることを狙いました。静岡の経済界にあるべくして意外と無い会を目指し、静岡RCに限定せず、市内各クラブのメンバーに働きかけました。幸い静岡RCのメンバーを中心に東、西クラブの会員も含め、懇意の仲間がすぐに20人ほどノミネートされました。2006.10.3初めて吉野鮎本店に集まり、毎月第一水曜日に開催と決まり、「一水会」と名付けられました。2006.11.15、2007.5.9、2007.7.4、2007.9.5、2007.12.5、2008.6.4、2008.12.3、2010.4.7などが私の手帳に記入されています。またこの「一水会」と記録された集まり以外に、メンバーの退任者の送別会と称して幾度もの歓送迎会が開催されています。毎月とは唱えただけでして、せいぜい隔月、いや半年ごとの感じではありましたが、非常にユニー



The 80th Anniversary

クで有意義な会であったと記憶しています。しかし「東京例会」と同様に2009年ころから私共のロータリー役職の忙しさと力不足のため、「一水会」も中断しているのが現状であります。

手に負えなくなると他人にかぶせることの得意な伴野、志田はすぐに方向転換し、「東京例会」の幹事役を東京勤務の多い小林武治氏にお願いしました。そして小林幹事は2012.10.19に「静岡RC東京例会」を「室町砂場」で開き、2013.5.17には日本橋「大江戸」で、2013.12.17には浅草「桜田」、2015.03.13に銀座「六角」開催と、見事な大幹事に昇格したところであります。そして来る2015.9.11には上野の名店「ぼんた」で開催するそうです。最近の参加者は日銀、NHK、ドコモ、電通、清水、安藤間、朝日などの退会者を中心に多様です。前回銀座の会が「**ロータリーの友2015年5月号31頁**」(次項に掲載)に掲載されていますので、ご覧いただければ顔ぶれもお分かりいただけるでしょう。

最後に最優秀の会をご紹介します。「くろ麦の会」です。本会の第1回の期日はどうも不明です。蕎麦屋「くろ麦」は1990年代にさつき町に移転してきた有名本格派の蕎麦屋でした。さつき町の南クラブの有名ロータリアン中川家の住まいの一画で営業していましたが、その後2000年ころには近所の現在地に独立開店してから更に名店として名をはせ、混み合いました。その頃静岡駅南口ビルの住人伴野、第一生命支店長中原、朝日テレビ笹井、さつき町旧魚市場からの住人志田などは混み合う昼12時を避け、11時半に昼食に訪れ顔を合わさずご縁から、お酒の楽しめる夕刻の蕎麦屋の会をやろうと集まるようになりました。中原第一生命が気楽に幹事役を担ってくれたおかげで最初から支店長さんが多い会でありました。私の手帳では2003.3.28が例会としての初

出です。「くろ麦」の粋なおかみのおしゃくを期待して、夕刻6時に集まり、小上りを占拠し、声高に語り合い、そば焼酎を飲みほし、そばの代わりにイカ墨スパゲッティを特注する困りものの会です。時には朝日テレビの美人アナを招集し、美声に酔う各位、支店長さんと静岡人半々の愉快的なメンバーの集まりです。今は名幹事高村信継氏のお蔭で私共の係る会で最も充実した永い伝統の会です。2回目2003.8.29に続き、2004.1.23、5.13、9.29、2005.1.25、5.20、9.28、2006.2.28、5.25、8.23、11.28、2007.2.20、5.23、8.29、11.28、2008.2.27、5.28、8.27、11.18、2009.2.18、5.19、8.18、11.18、2010.5.12、8.11、11.10、2011.5.25、8.24、11.16、2012.2.8、5.16、8.22、2013.2.20、5.29、11.20、2014.2.19、5.21、11.19、2015.2.18に出席しています。次会は2015.8.19の予定で、勿論私も出席するでしょう。

私の手帳に少なくともこの41回が記録されている歴史的炉辺会議であり、ひょっとするとこの8月19日は50回記念に近い会かもしれません。2003年から年4回開催すれば12年目の2015年で48回です。必ずしも4回とは限らない故、高村さんにお調べ願ってしかるべき日にお祝いをしたいと思っています。

以上静岡RCのFire Side Meetingの一端を記録しました。勿論抜け落ち、間違いのあることは覚悟の上です。皆様の記憶、手帳から、より正確な情報をいただけたら幸せです。そして他にも数あるFire Side Meetingの話題も記録に残していただきたいと考えます。長文深謝。ご精読いただけたら感謝、感謝です。

静岡ロータリークラブ

静岡RC 小林 武治

静岡ロータリークラブ（RC）は、県内で最も長い歴史を有し、県庁所在地にあることから、多くの支店長が在籍しています。しかしながら大手企業などの支店長という立場ゆえ、2年から3年で異動されていく方がほとんどです。ロータリー歴12年になる筆者も多くの支店長に出会い、見送りました。

地元出身で地元のロータリーに在籍している方々とは違い、当然出身地は多彩であり、業種も多種多様です。その中には常に日本銀行の支店長、NHKの支局長が在籍されることも静岡RCの多彩さを支えているといっても過言ではないでしょう。

そんな支店長たちとの「絆を断ちたくない」「せっかくの出会いを大切にしたい」「異動されていく方たちがその後もロータリークラブのファンであってほしい」「後任で来られる皆さんにロータリーの素晴らしさを喧伝してもらい、積極的な入会を促してもらいたい」「また一緒に飲みたい」。誰もが抱く希望だと言えるでしょう。そんな願いを実行に移す会員が、わがクラブにはおりました。伴野隆一郎先輩と志田洪顕先輩です。

お二方はとにかく人を巻き込むのが大好きで、宴席の主催をライフワークとしているようなロータリアンです。ロータリーだけでなく、ほかの団体の皆さんを巻き込んだ宴席をいくつか主宰してもいます。そんなお二人が発案されたのが「静岡ロータリークラブ・東京例会」です。さかのぼると、2007年2月2日に清澄白河のさ

くら鍋の「みの家」での例会が記念すべき第一回だったそうです。

その後、4年前から光栄にも筆者も巻き込まれることになりました。東京に支店があり、よく上京することと、そろそろもう少し若手に幹事を任せようという恩感からだったと思われまふ。おかげさまで永久幹事という称号を頂戴しております。もうしばらくは幹事を卒業し昇格することはできそうもありません。

私が幹事になってからは、「神田砂場」、同じく神田にある鰻の「大江戸」、浅草の江戸料理の「櫻田」、そして今年はノドグロが楽しめる銀座の「六角」での開催となりました。

一般的な宴席の幹事と違って少しだけ気を使うところは確かにあります。まずは皆さんのお口に合う料理が出るかどうか。次に私には信じられない酒量を予算内でどのように取るか。そして、一般の方の倍はあるのではないかと思える大音量での会話を許してもらえるか、ここが肝心です。

さて、当初は前述のお二人だけが静岡からの参加だったようですが、今年（3月13日に開催）は、現役の浅原諒蔵会長、伊藤恒道元会長、伴野夫人も参戦し、総勢20人のにぎやかな会を催すことができました。今後は規模の拡大とほかの大都市圏での開催も視野に入れ、より楽しく活発な会を継続していきたいものです。
(第2620地区 静岡県)



出展:ロータリーの友 2015年5月号より



The 80th Anniversary

台北にて

2015-2016 静岡RC 会長エレクト

疋野 智 男

2014年1月24日から28日にかけて志田ガバナーのお供で台湾へ訪問いたしました。

その時の旅行記です。

今回の台湾へのミッションは2つです。

そしてその成果は計り知れないくらい大きなものがあつたように思います。まず1つ目のミッションは、2014年2月8日～9日に行われる国際ロータリー第2620地区、地区大会へRI会長代理ミュージックを「三顧の礼」をもってお迎えすることです。ちなみに富士山空港を出発する1月24日時点ではどこの空港にミュージックが着くのかもわからない状況でした。そして2つ目が台北で開催される第4回日台親善会議なるものに参加することです。当初はミュージックの在籍する台中中央ロータリークラブへ行くスケジュールで計画しましたが、彼女も日台親善会議の理事で「台北にてお会いしましょう」とのことので1月26日、円山大飯店で11:30にミュージック以下3名の来日する方々と会うこととなりました。なお、そこまでのメールでの事前打ち合わせはすべて当クラブの伊藤博さんの奥様千枝子さんが手配していただいております。ちなみに静岡からのメンバーは志田ガバナー、伊藤千枝子さんと私の3名です。

さて我々3名は当日円山大飯店のロビーでキョロキョロとミュージックを探しておりましたところ誠に魅力的な老紳士ご夫妻に流暢な日本語で声を掛けていただきミュージックを紹介していただきました。そして「一緒に食事をしましょう」とのお誘い

のもと10数名が円卓を囲みました。我々3名の他に日本人が2名です。前川昭一日台親善会議名誉総裁ともう一人が中曽根真理子さんというなぞの女性です。当初の予定では我々3名とミュージック以下3名との会談と思っていたので狐につままれた状態のまま「乾杯」です。様子を伺い会話するうち少しずついろいろなことがわかってきました。まず、声を掛けたいいただいた威厳のある素敵なお紳士は林士珍（リンシチン）さんといって2008年に日台親善会議を前川昭一さんとともに立ち上げた方で台湾のロータリークラブの重鎮だということ。1927年生まれの86歳で15年前、高崎ガバナー時代第2620地区、地区大会に初めての台湾人のRI会長代理で当地区へこられたこと。また、私よりもきれいな日本語で話し、日本統治時代の八田与一をはじめとする日本人に尊敬の念を抱いていること。台中ロータリークラブ所属でミュージックのロータリーの師匠にあたること。林さんは日本語世代でミュージックはそうでないこと等々です。林さんのお話の中で我々が驚かされたのは米山梅吉が台北ロータリークラブを1931年に設立し今があるんだということと、前述の八田与一も台北ロータリーメンバーだったという点です。実に2月8日に台湾からみえるロータリアンの米山記念館への訪問は的を射た企画となりました。ミュージックについてもだいたいわかってきます。台湾人だということにとってもプライドを持っていること。台湾語と英語を話すこと。北京語はわかるらしいが使いたくない様子がうかがえること。明日からアメリカへ渡るので我々を案内できないことを大変申し訳ないと重ねて話すこと。林さんには頭が上がらないらしいということ。一緒にみえる娘さんは大学の先生でアメリカに長くいたこと。総じてかわいらしい女性かなと思われました。

前川昭一さんについては以下のようなことです。第2580地区のパストガバナーであること。お若く見えるが林さんと同じ1927年生まれの86歳であること。フィリピンバギオ基金に力を注がれていること。ビチャイ ラタクルRI元会長に傾倒されていること。朝霧ジャンボリーゴルフクラブの理事長だということ。

最初のなぞの人物だった中曽根真理子さんは前川昭一さんの実の娘だということ。元外務大臣 中曽根弘文参議院議員の奥様だということ。とても上品で控えめな女性だなと感じました。

混乱していた頭も1時間ちょっとの食事の間少しずつ整理されてきました。林さんご夫妻と前川さん親子が我々とミュージックたちとをとりもちをしてくださり、それだけでなく我々の信用の裏判を押すように接してくださったため、食事の終わる頃にはミュージック自身が我々に料理やお酒を振舞っていただけのような関係にまで打ち解けて最初とは雲泥の差の表情に変化してきました。とにもかくにも顔を合わせ三顧の礼を尽くすことは大切なことと痛感した次第です。もちろん実務上の話は伊藤千枝子さんがなさってくださったのは言うに及びません。

さて2つ目のミッションの日台親善会議ですが特筆すべきことは3点です。1つは東日本大震災で、日台親善会議ルートで1億4000万円、すべてのロータリークラブからは6億1000万円の義損金を日本のロータリークラブに送っていただいていた点です。とても大きな額です。2つ目は台湾米山学友会というものがあるから日本から台湾への留学生を迎えていることです。3番目は次年度RI会長にゲイリーC.K.ホァンがはじめて台湾から輩出することで会員拡大も含め台湾のロータリークラブが大いに意気盛んな様子が伺えました。

なお参加人数は日本から約400名、台湾から300名でした。2年に1回開かれるこの会議は次回開催地が金沢です。

翌日、1919年に完成し今もしっかり現役で使われている総統府に3名で見学に行きました。70歳代でしょうか、初老の紳士の日本語ガイドの方が児玉源太郎、後藤新平、八田与一などこの地と関わりあった日本人の名を上げ熱っぽく尊敬と感謝の気持ちを持って説明して下さいます。我々は感激でいっぱいでした。総括します。

私たち日本人がいつの間にか忘れてしまったのかもしれない。台湾は戦前までは日本だったことを。当時の台北は、日本でも有数の大都市であり1931年に米山梅吉が台北ロータリークラブを設立したのもごく自然なことだったはず。台北帝国大学は1928年に開校しています。大阪帝国大や名古屋帝国大の前です。初代台北ロータリークラブの会長は台北帝国大学幣原総長だとのこと。目からうろこが落ちました。

しかし現在の台湾と日本には正式には国交がありません。大使もいなければ大使館もありません。台湾は大きな矛盾を抱えているからこそ民間と民間との国際交流を日本以上に大切にしているように思えます。日本と台湾の関係はとても微妙です。前述の林さんと前川さんのように信用の裏側には大正生まれと昭和のはじめの生まれの同じ日本人として教育を受けた先人達のつながりが感じられてなりません。政治家であればパッと顔が浮かぶのは「李登輝」であったり「中曽根康弘」だったりです。人と人とのつながりが基本です。それを学んだ台湾へのミッションでした。

静岡ロータリークラブ 年会誌

2014.7-2015.6



【2014－2015年度 理事・役員・委員編成表】

役員・理事	(役員)					(理事)				
	会長	浅	原	諒	蔵	理	事	伴	野	隆一郎
	直前会長	寺	戸	常	剛	理	事	堀	池	彰
	副会長	正	野	智	男	理	事	望	月	啓行
	幹事	佐	藤	長	巳	理	事	木	村	絵美
	会計幹事	宮	崎	洋	一					
	会場監督	鈴	木		礁					

運営スタッフ										
	副幹事	荻	野		淳	副会場監督		伊	藤	博
	会計監査	里	見	和	洋	副会場監督		水	上	房吉
	会計監査	加	藤		誠	ソングリーダー		谷	本	宏太郎
	会計幹事	宮	崎	洋	一	副ソングリーダー		川	崎	裕司
	スマイル	小	林	武	治					
	副スマイル	西	村	やす	子					

理事会構成メンバー

会長	浅	原	諒	蔵	理	事	伴	野	隆一郎
直前会長	寺	戸	常	剛	理	事	堀	池	彰
副会長	正	野	智	男	理	事	望	月	啓行
幹事	佐	藤	長	巳	理	事	木	村	絵美
会計幹事	宮	崎	洋	一					
会場監督	鈴	木		礁					
副幹事	荻	野		淳					
プログラム委員長	本	保		晃					
親睦委員長	稻	葉		豊					
会員増強委員長	高	村	信	継					

クラブ運営管理常任委員会	会長	浅原 諒	蔵 理	伴野 隆一郎				
	副会長	寺戸 常剛		堀池 彰				
	幹事	足野 智男		望月 啓行				
	副幹事	佐藤 長巳		木村 絵美				
	会計幹事	荻野 淳一						
	副会計幹事	宮崎 洋一						
	会場監督	河野 誠	会計監査	里見 和洋				
	副会場監督	鈴木 博		加藤 誠				
	副会場監督	水上 房吉						
	ソングリーダー	谷本 宏太郎						
副ソングリーダー	川崎 裕司							
スマイル	小林 武治							
副スマイル	西村 やす子							
委員会名		委員長	副委員長	委員				
クラブ奉仕		足野 智男	寺戸 常剛	平尾 清文	本保 晃	新庄 剛和	大澤 泉	
出プログラム		平尾 清文	長谷川 喜則	三浦 孝文	野村 研	戸野 谷宏	高村 信継	
親睦		本保 晃	小林 豊	児玉 俊明	谷本 宏太郎	小林 武治		
報告		稲葉 豊	大石 剛(おし)	河村 卓利	高階 成造	橋本 良一	古木 公生	
雑誌				大石 剛(おし)	服部 守親	相浦 司	白垣 好信	
報				斎藤 靖	江頭 信義	花村 豊充	久住 与志人	
報		新庄 剛和	井上 裕詞	森田 昌宏				
報		大津 博文	津田 博之	岡部 一彦	山崎 純男			
報		野村 研	荻田 隆一	青野 高宏	佐藤 三千男	栗原 廣司		
情報		寺戸 常剛	児玉 俊明					
研修リーダー		杉山 孝俊	伊藤 博樹	青島 廣幸				
職業分類		戸野 谷宏	川嶋 秀和	牧田 静二	鈴木 和夫			
増強		高村 信継	里見 和洋	向坂 達也	山元 雅久	西村 やす子		
増強		児玉 俊明	佐藤 長巳	望月 啓行	佐藤 三千男	大石 剛(おし)	蓑田 隆一	
親睦				長谷川 喜則	高橋 信之	服部 守親	河合 一寿	
親睦				藤田 博久	野村 研	古木 公生	橋本 良一	
親睦				井熊 正浩	大石 剛(おし)	相浦 司	本保 晃	
親睦				白垣 好信	小田 博之	岡部 一彦	西村 やす子	
親睦				江頭 信義	安本 吉宏	斎藤 靖	鈴川 辰男	
親睦					花村 豊充	久住 与志人		
職業奉仕		伴野 隆一郎	加藤 誠	錦田 勝彦				
社会奉仕		堀池 彰	井熊 正浩	平松 義康	東 俊光	杉本 忠重		
環境保全		河合 一寿	田中 孝将	坂上 康	藤田 博久	安本 吉宏	鈴川 辰男	
国際奉仕		望月 啓行	谷本 宏太郎	望月 義弘	斎藤 靖			
青少年奉仕		木村 絵美	川崎 裕司	久保 田隆	江頭 信義			
ローターアクト		岩崎 茂夫	高橋 信之	山口 良昌	花村 豊充			
インターアクト		西村 やす子	安本 吉宏	足野 智男	志田 洪顯			
静大連携講座		浅野 秀浩	小林 武治	田中 植裕	望月 義弘	大石 剛(おし)	高橋 信之	
ローター財団		河野 誠	川辺 哲	川崎 孝将				
米山		中山 秀樹	植松 昌美	福地 益人				
クラブ事業特別		杉本 忠重	坂上 康	近藤 哲也	藤田 博久			
IM・7クラブ合同例会・80周年担当				安本 吉宏	堀池 彰	井熊 正浩	平松 義康	
				志田 洪顯	荻原 英生	寺戸 常剛	小林 武治	
				鈴川 辰男				

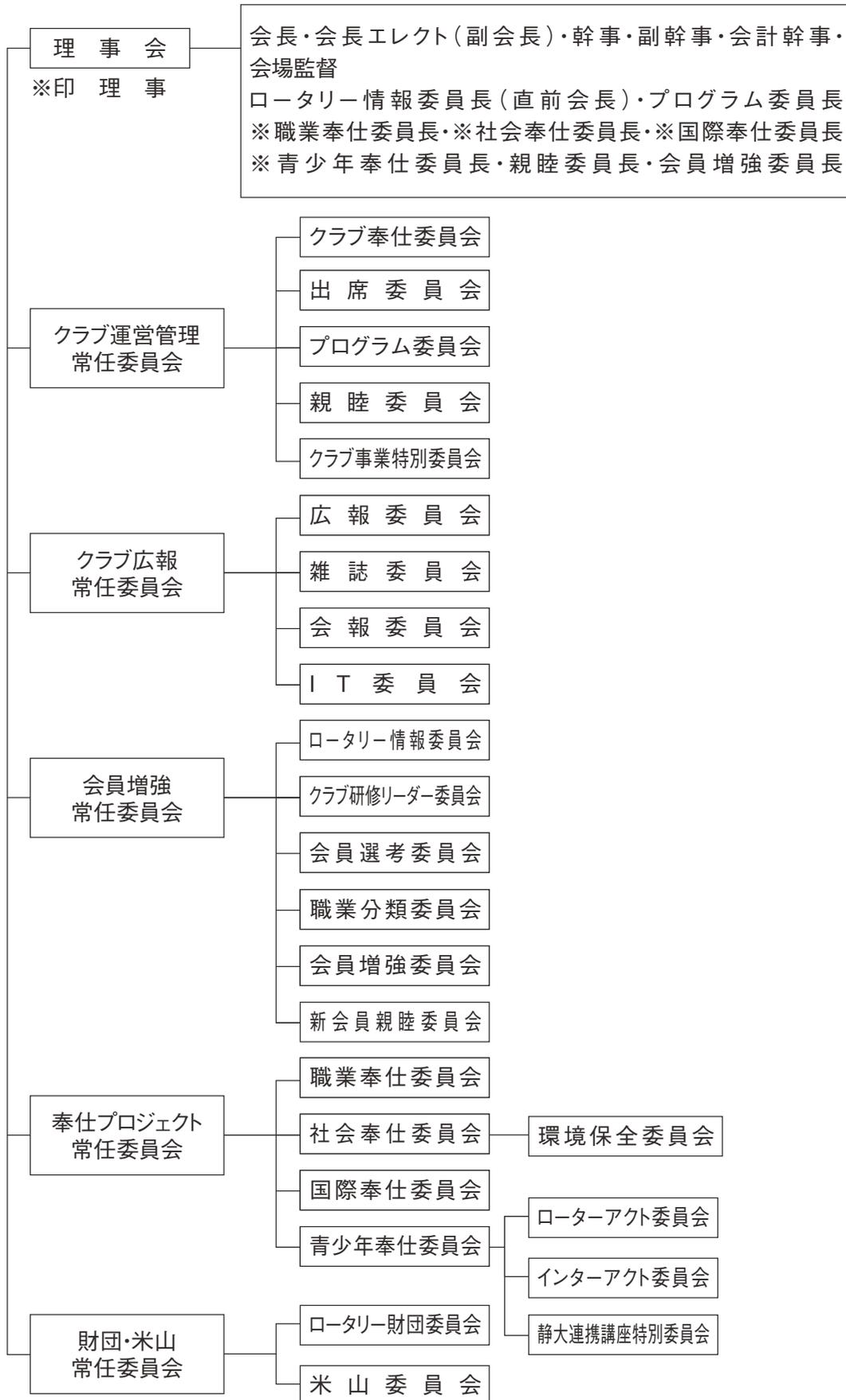
国際ロータリー第2620地区

- 青島 廣幸 地区諮問委員会
- 牧田 静二 地区諮問委員会／組織検討委員会 立法案検討委員会／地区研修委員会／ロータリー財団監査委員会
- 志田 洪顯 地区諮問委員会／組織検討委員会 立法案検討委員会／地区研修委員会／地区拡大カウンセラー／職業奉仕 アドバイザー
- 荻原 英生 静岡第5分区ガバナー補佐
- 西村 やす子 レディース委員会
- 坂上 康 職業奉仕委員会
- 望月 啓行 青少年交換小委員会
- 山崎 純男 米山記念奨学委員会
- 中山 秀樹 米山記念奨学委員会
- 河野 誠 ロータリー財団委員会・地区財団資金管理委員会 委員長
- 高村 信継 地区補助金グループ サブリーダー
- 堀池 彰 パッケージグラント・マッチンググラントチーム サブリーダー

静岡ロータリークラブ アッセンブリーメンバー



静岡ロータリークラブ 理事役員委員会 組織図



静岡ロータリークラブの歩み

- 1935. 6. 24 創立総会 創立会員数20名（スポンサークラブ横浜RC）日本で20番目
- 35. 9. 27 RI承認（国際登録番号3867番）所属第70地区ガバナー村田省蔵
- 36. 4. 3 認証状伝達式 会員数 23名
- 40. 8. 8 解散、木曜会として存続 会員数27名
- 50. 4. 11 再建 静岡RC総会（第60地区）会員数28名（スポンサークラブ東京RC）
- 4. 20 RI承認（登録番号3867番）
- 11. 18 認証状伝達式挙行
- 52. 2. 29 スポンサークラブとして沼津RC設立
- 3. 6 第60区東部地区インターシティゼネラルフォーラム主催
（於:修善寺温泉 菊屋 参加15クラブ 103名）
- 9. 2 スポンサークラブとして清水RC設立
- 54. 1. 25 県内4RCインターシティフォーラム主催（於:中島屋 参加65名）
- 55. 2. 23 RI50周年記念祝賀会開催（於:静岡松坂屋）
- 7. 1 第62地区所属となる
- 8. 15 例会場静岡ホテルとなる
- 56. 4. 14 第62区の地区協議会主催（於:静岡ホテル 参加43クラブ 180名）
- 57. 7. 1 第360地区所属となる
- 59. 10. 14 スポンサークラブとして静岡東RC設立（特別代表 小塩孫八）
- 10. 23 第360地区地区大会を主催（於:駿府会館 参加人員1,500名）
- 60. 7. 11 スポンサークラブとして焼津RC設立（特別代表 土橋一雄）
- 11. 7 例会場中島屋となる
- 61. 11. 13 例会場日興会館となる
- 62. 5. 28 スポンサークラブとして島田RC設立（特別代表 上野次郎吉）
- 63. 7. 1 上野次郎吉会員第360地区ガバナーに就任
- 64. 6. 23 孫クラブ静岡南RC設立
- 7. 1 第359地区に所属となる
- 65. 7. 1 鱸正太郎会員第359地区ガバナーに就任
- 10. 12 RI60周年記念東日本連合地区大会（東京代々木国立屋内競技場8,300名）
- 12 静岡クラブ設立30周年記念誌発行
- 67. 9. 17 静岡高等学校インターアクトクラブ設立
- 70. 2. 15 静岡第2分区インターシティゼネラルフォーラム主催（於:日興会館参加11クラブ271名）
- 5. 21 大阪万国博会場にて例会開催
- 71. 7. 1 田中忠雄会員第359地区ガバナー就任
- 1971. 7. 26 オハマRCと姉妹締結
- 11. 13 孫クラブ静岡日本平RC設立
- 72. 4. 26 孫クラブ藤枝RC設立
- 74. 5. 12 静岡ロータリーアクトクラブ設立・認証状伝達式（於:静岡新聞社別館）
- 7. 1 第362地区に所属となる
- 75. 7. 1 例会場静岡グランドホテル中島屋となる
- 9. 22 創立40周年記念例会及び祝賀会（於:日興会館）
- 12. 3 スポンサークラブとして静岡西RC設立（特別代表 中村円三郎）

- 77. 2. 26 静岡第4分区インターシティーゼネラルフォーラム主催（於:日興会館）
 - 7. 1 第262地区に所属となる
- 84. 4. 2 例会場日興会館となる
 - 11. 20 ハワイのサウスヒロRCと友好クラブとなる
- 85. 2. 11 創立50周年記念事業として県美術館前に欒並木を植樹
 - 4. 1 創立50周年記念例会及び祝賀会（於:日興会館）
 - 11. 25 創立50周年記念誌「静岡ロータリークラブの半世紀」発行
- 89. 7. 1 大石益光会員 第262地区ガバナーに就任
 - 10. 7 第262地区 地区大会を主催（於:静岡文化会館 参加人員2,200名）
- 90. 5. 15 孫クラブ静岡北RC設立
 - 9. 27 大石益光会員 第262地区ガバナーに再就任
- 91. 7. 1 第2620地区所属となる
- 93. 2. 13 第5分区IMを主催（於:日興会館 参加人員300名）
 - 5. 5 静岡ローターアクトクラブ設立20周年記念例会及びレセプション（於:日興会館）
 - 8. 30 2400回記念例会開催。創立スポンサーの東京RCより井上貴雄会員を招聘。
- 95. 4. 10 創立60周年還暦記念例会及び祝賀会（於:日興会館）
- 96. 7. 1 青島廣幸会員 第2620地区ガバナーに就任
- 97. 3. 1 第5分区IMを主催（於:AOI 参加人員323名）
 - 5. 22 大石益光パストガバナーご逝去
- 99. 8. 30 例会場ブケ東海静岡に名称変更となる
- 01. 6. 24 つつじ記念碑除幕式
- 03. 4. 14 クラブ細則を改訂
- 04. 1. 18 静岡ローターアクトクラブ創立30年記念式典（於:ブケ東海静岡）
 - 11. 16 100%ポール・ハリス・フェロー・クラブ認証（日本で55番目・世界で537番目）
- 05. 4. 18 RI100周年記念事業・蓮見亭贈呈式（於:麻機遊水地）
 - 6. 20 創立70周年記念例会及び祝賀会（於:ブケ東海静岡）
- 06. 7. 1 例会場ブケ東海静岡建て替え工事の為静岡グランドホテル中島屋に変更。
- 07. 2. 26 3000回例会
- 08. 4. 20 第2620地区 地区協議会主催（於:ツインメッセ 参加人員 938名）
- 08. 7. 1 牧田静二会員 第2620地区 ガバナーに就任
- 08. 11. 16 第2620地区 地区大会主催（於:ホテルセンチュリー静岡 参加人員 1,542名）
- 09. 6. 4 富士山静岡空港の開港 これにより志田年度の親睦事業計画が北海道まで拡張
- 10. 4. 19 グランドホテル中島屋からグランディエール・ブケトーカイへ例会場を変更した。
- 10. 6. 21 創立75周年記念例会及び祝賀会（於:浮月楼）
- 10. 10. 17 航空自衛隊第一航空団浜松エアフェスタクラブとして初めて見学する
- 11. 3. 14 東日本大震災支援をクラブとして行う事を決定
- 11. 5. 23 東日本大震災 被災地支援チームSAVE IWATEに対し保冷車2輛を贈呈
- 11. 7. 1 クラブ細則を改訂
- 12. 6. 25 創立77周年記念例会（於:グランディエール）
- 13. 3. 25 静岡大学教育連携講座調印
- 13. 4. 14 第2620地区 地区協議会主催（於:グランシップ 参加人数 972名）
- 13. 7. 1 志田洪顯会員 第2620地区 ガバナー就任
- 14. 2. 9 第2620地区 地区大会主催（於:ホテルセンチュリー静岡 参加人員 1,316名）
- 15. 6. 15 創立80周年記念例会及び祝賀会（於:グランディエールブケトーカイ）



80周年記念例会 会長挨拶

会長 浅原諒蔵

本日、ここに静岡ロータリークラブ創立80周年記念例会並びに記念式典に、国際ロータリー第2620地区岡本ガバナーを始めとする多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、また大勢のロータリアンのご参加のもと、このように盛大に開催できますことは、この上ない喜びであります。

静岡ロータリークラブを代表いたしまして、心より厚く御礼を申し上げます。

さてご承知のように我が静岡ロータリークラブは、1935年 昭和10年6月24日に横浜ロータリークラブをスポンサーに日本で20番目のロータリークラブとして、20名のチャーターメンバーで発足を致しました。

このチャーターメンバーは当時の静岡を代表するそうそうたる顔ぶれであったと言われております。

その後、戦争の拡大により已む無く解散しましたが、1950年 昭和25年4月11日に東京ロータリークラブをスポンサーとして28名の会員で再建され、以来、今日（こんにち）に至るまで脈々と歴史を重ね、昭和10年の6月から数えて、本年でめでたく創立80周年を迎えるに至りました。

この間に7名のガバナーを輩出した外、数多くの子クラブ、孫クラブを設立し、またインターアクトクラブやローターアクトクラブを設立するなど多彩な活動を行ってまいりました。

最近の活動としては、今年で3年目となる静岡大学教育連携講座があらうかと思えます。

これは静岡ロータリークラブの多様な職業分類に属する大勢の会員に講師として、静岡大学の教壇に順番にお立ち頂き、実践的知識を学生に教示すると云う職業奉仕を行っております。

また今回の80周年を迎えるにあたり記念事業として、昨年10月25日に朝霧高原にて「富士山世界文化遺産登録記念写生大会」を開催いたしました。これは静岡大学教育学部附属支援学校の生徒さん達を朝霧高原にお招きして、子供たちに目の前に聳える雄大な富士山を画用紙一杯に伸び伸びと描いてもらうと云う趣向で開催を致しました。

そうして、もう一つの記念事業は、麻機遊水地にパーゴラを設置し、麻機自然再生協議会に寄贈致しました。

これは今から丁度、10年前の静岡ロータリークラブ70周年、並びに国際ロータリー100周年を記念して、麻機の地に「あずま屋、蓮見亭」を静岡市に寄贈しました。

それから10年の歳月が経過した80周年の今年、既存の「あずま屋、蓮見亭」に併設する形で、パーゴラを設置し寄贈しました。

これにより今後、麻機遊水地を訪れる方々にとりまして、いっそう便利に使って頂けるかと思えます。

このように2620地区のリーディングクラブとして、様々な業績の足跡を残してきた静岡ロータリークラブでございます。

我が静岡ロータリーは会員同士の意思疎通が取れており、雰囲気の良いのが特徴でございます。

奉仕の心を育む原動力として、会員相互の親睦は欠かすことの出来ない要素であり、ロータリーの精神は、親睦と奉仕の調和の中に宿ると言われております。これからも親睦活動を通して会員の交流を深め、またロータリアン家族も一緒になって活動に取り組んでいく所存でございます。

80周年と云う節目の年を迎え、此れまでの「礎」を築いてこられた、先輩ロータリアンに改めて感謝申し上げますと共に、次の周年、さらには百周年に向けて地区のリーディングクラブとして、奉仕と親睦に一層の精進を期す所存であります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げますと共に、ご指導・ご支援をお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

幹事所感

幹事 佐藤長巳

静岡RCは、幹事より副幹事が業務が多忙で、毎回の例会スケジュールや理事会議事録等やらなければならない実務が多くあります。副幹事を終えて幹事になったので、実務の忙しさから解放されて、少しは楽になると思いましたが違いました。

7クラブ合同例会、第5分区ガバナー補佐IM、80周年事業、80周年記念例会、6クラブ合同事務所運営幹事と今年に限って、幹事の仕事は多忙でした。

幹事は会長の補佐であり、会長の思いをかたちにする役目を果たさなければなりません。

浅原会長の80周年にかける情熱を事業に関わる方々、参加される方々全員に喜ばれるかたちで成功させたいという思いでいっぱいでした。

年が明けるまでは、嵐の前の静けさではありませんが、淡々と事業が進んでいきましたが、年明けに一気に本年度のメイン事業が目白押しでした。

杉本委員長率いるクラブ事業特別委員会もそのころから、一気に始動しましたが、アイドリング不足なのか、なかなか軌道に乗りません。

それでも、7クラブ合同例会、IMと無事終了しましたが、80周年記念例会は大きな落とし穴がいくつもありました。公開例会の動員、スポンサークラブ、来賓の招待状など、今思えばもっと早く対応していればよかったと悔やみますが、その時は、委員長も幹事の私も精一杯でした。

公開講演会の動員に関しては、200名に届くかどうかの予想でした。

しかし、80周年の記念例会当日の裏千家千玄室大宗匠を講師にお招きしての公開講演会は超満員

で、少なれば椅子を片付けるという作業も予想していたにも関わらず用意した400席では不足増席した光景を眼の当たりにして、80周年記念講演会は大成功との思いを強くした瞬間でした。

この動員に関しては、静岡RC会員の皆様のご理解とご協力がなければ実現出来ませんでした。多くのメンバーの皆様に社員、ご友人、ご家族の方々にお声掛けをして頂いた結果の成果です。本当に感謝に堪えません。

多忙を極めた一年でしたが、終わってみればあっという間の一年でした。

浅原会長、荻野副幹事、そして、メンバーの皆様一年間、ありがとうございました。

貴重な体験をさせていただきましたことに感謝申し上げます。幹事所感とさせていただきます。

副幹事の職を終えて

副幹事 荻野 淳

平成25年度に疋野会長予定者から、幹事の指名を受け 2014～2015年度の一年間、副幹事として主に例会の運営を行ってまいりました。入会以来、様々な委員会にて多種多様な事業に関わらせていただきましたが、今回初めてクラブ運営に携わらせていただき、基調な体験をさせていただくと同時に、その重責に何度も押し潰されそうになりましたが、浅原会長ならびに佐藤幹事のご指導の元、何とか無事？に最後まで務める事ができました。皆様に心から感謝申し上げます。この経験を活かし、疋野年度の幹事としてクラブ運営に邁進致します。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

『親睦っていいな』

2014～15 新会員親睦委員会 児玉俊明

昨年度新会員親睦委員会委員長を務めました児玉です。委員会開催の節は皆様方に色々御協力を頂きまして誠にありがとうございました。

新会員親睦委員会と言うと、入会3年未満の方々に親睦の機会を増やし、より充実したロータリーライフを過していただくお手伝いをさせていただく為頑張っている委員会です。

昨年度は3回の委員会を開催させて頂きました。

1回目は8月25日に、毎年恒例の『車や』さんで行われ、19名の参加を頂きました。以前の新会員親睦会で、店の日本酒を全て飲み干したと言われる、伝説の『車屋』さんだったので心配しましたが、それほど乱れることなく、しかし結構盛り上がった親睦会でした。

2回目は2月4日に創作ダイニング『匠』さんで行われました。このときはローターアクト委員会とのコラボ企画でおこなわれ、ローターアクトクラブ15名の参加を加えメンバー18名の参加で計33名の大宴会となりました。若い世代との親睦を十分図る事が出来たと思いますし、ローターアクトクラブへの理解も深まった事と思います。この企画は、私が今年度ローターアクト委員会の委員長ですので、今年度の佐藤新会員親睦委員長とも相談して、是非今年も行っていきたいと思っております。

3回目は6月22日に和食 個室の都 京の町に夢が咲く 静岡駅前店さんと言うチョット長い名前の店で26名の参加で行われました。浅原直前会長、疋野本年度会長をはじめ志田パストガバナーの参加を頂き、新会員よりもベテラン会員の参加が多かった感がありましたが、大変盛り上がり1年間を締めくくる事が出来ました。ありがとうございました。

以上述べました様に、特に何かをやったというわけでもなく、親睦会のみをやっていたのですが、委員長としてはそれなりの充実感もありました。

又、他のクラブには無い委員会ですので是非これからも頑張ってお返しをさせて頂きたいと思っております。

親睦委員会を終えて

親睦委員会 委員長 稲葉 豊

2014年度は10月8日に浮月楼にて観月会を催しました。浮月楼さんは明治期に徳川慶喜が住んだ駿府代官屋敷跡という大変由緒ある料亭であり、名前に月がついているので観月会には打って付けだと思いました。中秋の名月よりはひと月遅れで、ちょうど皆既月食の日に当たり月を見ることができればよかったのですが生憎の曇り空でありました。宴会では和太鼓と津軽三味線の競演をお楽しみいただき、最後に庭園花火をご覧になっていただきました。この庭園花火は日露戦争の日本海戦を花火で模したお座敷遊びに由来しているとされ、池にはえるナイアガラの仕掛け花火と打ち上げ花火は明治末期から戦前まで続いたそうであります。

12月15日には恒例の年末家族会（クリスマス会）をブケトーカイ4Fにて行いました。当日は会員、ご家族約100人がご出席いただきました。浅原会長の挨拶、萩原さんの乾杯の後、宴会が始まり静岡在住でフィリピン生まれでの歌手、吉田リゼルさんがクリスマスソングを披露いたしました。出席者全員がビンゴに参加していただき、会員が持ち寄ったプレゼント交換など楽しいひと時を過ごしました。アトラクションとして清水エスパルスのオフィシャルチアリーダー「オレンジウェーブ」のメンバーが登場してチアパフォーマンスを披露、会場は大いに盛り上がりました。最後に出席者全員で輪をつくり「手に手つないで」を歌って閉会いたしました。

年が明けて4月25日「親睦家族旅行」は東京銀座の歌舞伎座にて四代目中村雁次郎襲名披露の観劇をお楽しみいただきました。貸切バス一台にて東名高速にて東京に向かいました。終了後は銀座散

策の後7丁目の料亭スタイルレストラン「花蝶」にて創作和食コースを召し上がっていただきました。皆様ワインをお食事と一緒に心行くまで楽しんでいただきました。

毎回例会では受付を3組に分けて担当させていただき、ビジターの紹介をさせていただきました。また、年間3回の親睦委員会主催のゴルフを行いました。土曜日、平日、日曜日と日程をかえて行いましたが、6月の最後のコンペは1組4人で、時期的によくなかったと反省しております。

いずれにしても今年度1年間親睦委員会会員の皆様のご協力のもと、いろいろな体験をさせていただきましたありがとうございます。また、多くの会員の皆様にご参加いただきまして感謝申し上げます。

静岡ロータリークラブ

2620 地区第五分区ガバナー補佐 荻原英生

2015年3月1日RI2620地区第五分区・IMが静岡RCホストにて開催されました、皆様のご協力にて盛会裏に終始いたしました、ご協力有難うございました、又ご苦勞様でございました。

紙面をお借りしまして衷心より御礼申し上げます。

IMの様子はIM報告書の中に詳細に記載されている通りですのでここでは私が今回ガバナー補佐をやらせて頂き感じたこと等申し述べたいと思います。

岡本ガバナーがご病気になられ、志田洪顯副ガバナーが代打をした経緯等があったが、私自身この一年間、これ程ロータリーについて勉強させて頂いた事は無かった、すなわちそれはロータリーの原理原則、哲学と言われるものだ。

「人の為に奉仕して、決してそれを恩に着せない」
「最も良く奉仕する者、最も良く報われる」

ポールハリスが1905年仲間3人と始めたロータリークラブはその後5年間で1,500名の会員組織に成長した、その10年前1900年日本人新渡戸稲造が

アメリカで「武士道」を英文発表、瞬く間にベストセラーとなり、すぐさまドイツ語フランス語に翻訳されヨーロッパでも大人気となった、第26代米国大統領セオドア・ルーズベルト（1901～1909）にも大きな感銘を与えた、1910年になってようやく日本語に翻訳された。

第一章のはじめ「武士道とはノーブレス・オブリージュである」と書かれている、塩野七生の「ローマ人の物語」に「一千年続いたローマ帝国の元老院を健全に保ったのはこのノーブレス・オブリージュの精神だ」と書かれている、ノーブレス・オブリージュの精神とは「貴族と言う高い身分に伴う道徳的義務」。

武士道とは「道徳的義務を履行する」そこに義があるのなら命を懸けても守る、人の為に命もかける、義、勇、仁、徳、誠、忠、だと言う。

人は何のために生きているのか？

「人の為、人に奉仕する」ため新渡戸稲造の「武士道」にポールハリス達もキリスト教と相まって感銘を受けたに違いない、此のころ急速にヨーロッパに広まったRCも同様な影響を受けた。

「自分以外の人の役に立つ」、これこそロータリーの神髄「奉仕の理想」である。

近年、日本ではご遺体の検体申し込が増えている。多くのお年寄りの「生きがいは」自分は人の為に役立っている、最終的に「死んでもお役に立つのなら」と考えている、動物、植物、地球の為でも良い「人は他の物の為に生き、奉仕するために生かされている」「情けは人の為ならず」と言う事かめぐり巡ってグルグル回りそれが自分に返ってくる。「すなわちグルグル回るロータリー」は「人の生き方、生き様そのもの」であって大自然の摂理にかなったロータリー哲学と言える。

このようなことを考えるようになったのは偏にガバナー補佐を一年間やらせて頂いたからに他ならない、本当に感謝申し上げますと共に、御礼申し上げます、有難うございました。



静岡RC80周年の記念の年に

株式会社 富陽軒 代表取締役 石井大介

私はこの記念すべき2015年の正月に入会をさせて頂きました。歴史を築いてこられた先輩諸氏の努力に敬意を表すと共に、65歳と高齢での入会にて会員の皆様方に何かと迷惑を掛けることが多いと思います。是非とも寛大な気持ちで、御指導宜しくをお願いします。

入会後半年を経た現在、二つのことを学びました。

一点目は萩原分区代理のスピーチの中でロータリー精神の根幹を成すと言ったノブレス・オブリージュ(仏noblesse oblige)という言葉です。要約すると「日本には貴族制度はないが、ロータリアンとして常に現在が他の人よりも恵まれた立場にあるということを意識しながら生きて行きなさい。」と理解しています。

二点目は80周年記念講演をされた千玄室大宗匠の「生きざま」です。10数年前に裏千家の継承者の立場を子息に譲位して、現在は学生時代からの趣味、馬術の伝統継承に活躍されています。馬術競技は馬場入場時の姿勢で優劣が決定するといわれていますが、講演時の姿勢は正に鞍上の人そのものでした。

世界に誇る茶道と、日本馬術連盟の会長として常陸宮妃名誉総裁 竹田副会長(JOC会長) 共々英国皇室エリザベス女王、アン王女、などの要人との国際交流を通じて、馬が実生活で不要になった現代に、世界が馬と共に歩んだ歴史を伝える役割を果たしている姿は、彼が講演において茶道の

伝統を後世に伝え世界に広めていくと語った人生と正しく一致しています。

彼が齢を重ねて尚、新たな道を切り開いていこうとする「意気込み」に心を打たれました。

私が20年後85歳になったとき静岡RCは創立100年を迎えますが、この二つを心に刻みながら、正会員として100周年式典に臨めたら幸せだなと思います。

初のロータリークラブ

日本生命保険相互会社 静岡支社長 島田和浩

2015年5月25日に伴野隆一郎様、加藤誠様のご推薦で、伝統と格式のある静岡ロータリークラブに入会させて頂きました。

まだ1か月余りの在籍ではありますが、創立80周年の記念式典にも参加の機会を頂くなど、絶好のタイミングでの入会となったことに大変感謝を申し上げます。

私は今回、初めて支社長職に就き、静岡の地に赴任を致しましたので、地域の皆様との親交・研鑽の場への参加も今まであまり経験がありませんでした。当然ながらロータリーに属したこともなく、その目指すべき価値観や精神さえも全くわからない状況でした。

そんな中、当日例会場に伺うと、飛び込んできたのが「スマイル?」「メイクアップ?」といった初めて聞く言葉が多くあったため、少し戸惑いを覚えました。浅原会長や寺戸様にロータリークラブについて丁寧なご説明を頂いたり、食事の席でも皆様がにこやかにお話しかけ頂いたため、そうした不安が一気に払拭されました。

加えまして、入会日当日にはパストガバナーであられる牧田様の「静岡ロータリークラブの歴史」の卓話を拝聴し、その歩みだけではなく、原理原則の哲学を理解できているかとも問われました。

初めての例会から戻り、早速頂いた資料に目を

通してみると、「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」とありました。また、「四つのテスト」と題された言行の判断指針も読ませて頂きました。

今までの人生の中で「言葉」としてなんとなく理解・解釈していたものを、自らの行動に努めていく姿勢へと変革していくことが肝要と認識し、静岡ロータリークラブの皆様との親交を深める中で、多くの事柄を学ばせて頂きたいと思えます。

ロータリアンと呼ばれるに相応しい人物になれるまでは、道のりは長いと思えますが、どうか皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

ロータリーとの出会い ロータリーでの出会いに感謝

清水建設株式会社 名古屋支店 静岡営業所 井手 聡

【ロータリーでの出会いに感謝】

昨年7月に弊社の静岡営業所の所長を拝命し、それを機に静岡ロータリーへの入会を希望して昨年8月にロータリーに入会させて頂き、10か月が経過し、ようやく1年を迎えようとしています。

私は、大学を卒業後、総合建設業である清水建設(株)に入社し、その後建設工事現場の施工管理の仕事に二十数年にわたり携わってきました。施工管理という業務は、お客様の望まれる建物を設計者の計画した図面に従い、協力会社と連携し具現化していく仕事です。したがって、目的が建物をより良く建築するという、ベクトルの方向性は統一されている方々と接する時間が大半でありました。

静岡ロータリーに入会したおかげで、建設業や関連業種以外の様々な業種の方々と接点を持つ機会ができ、毎週の例会での卓話をはじめ、様々な見解をお聞きするチャンスが増え、自らの成長に多大に貢献していくような幸福感を覚えています。

また、静岡ロータリーは、個人事業主の方から、静岡の経営者の皆様、我々のような転勤族の支社長の皆様等、業種もさることながら、実に様々な出会いができる場であり更なる成長の場となる期待感があります。

【ロータリーとの出会いに感謝】

ロータリーとの出会いに感謝すべきは、社会奉仕に参画できる喜びであります。私は、いわゆる企業のサラリーマンであるので、何らかの個人的な多少の寄付をすることができても、震災後のボランティア活動への参加などは到底できず、せいぜい企業の社会的使命を真面目にとらえ、企業の枠内での社会奉仕を意識する程度でした。個人的にも、献血を五十数回実施していますが、それも、血液データが送られてくることが、自らの健康管理になる為でもあり、多少の社会貢献になるかと思ひ、実施してきたにすぎません。

しかしながら、ロータリーに入会させて頂いて、1年にも満たない間に、富士山での植樹や清掃活動特別支援学校の写生大会の開催支援など、一人ではできない活動に参加でき、微力ながら社会貢献・社会奉仕を行える機会に出会えたことに感謝の念を覚えます。

企業人であるため、様々な活動への限界はあるものの、自らの成長の場であり、自らの社会貢献・社会奉仕のチャンスを生かせる場・・・それが静岡ロータリーにあると

静岡ロータリークラブ紹介

静岡赤十字病院院長 磯部 潔

昨年10月に前院長行木英生に交代して、入会致しました。静岡ロータリークラブの80周年記念ということですが、静岡赤十字病院も、今年の6月に設立82周年となります。私は6代目の院長となりますが、歴代の院長も、静岡ロータリークラブ

のメンバーです。

私は、昭和26年に、浜松に生まれ、浜松北高卒業後、慶応大学医学部に入学しました。卒業後、外科教室に入局し、昭和56年に、静岡赤十字病院に赴任しました。3年前から院長職に就いております。趣味は、学生時代は馬術部に所属しており、静岡でも数年間は乗馬をしておりましたが、仕事が忙しくなり、週末のゴルフを楽しむ程度になりました。人生の半分以上を過ごした静岡は、私の第2の故郷となりました。診療や趣味を通して、多くの人々と出会い、お世話になり、支えられ感謝しております。

静岡赤十字病院は現在建築中ですが年末には完成します。建築に際しまして静岡ロータリークラブの皆様から多大のご寄附を頂き感謝しております。新病院は、東海地震に対しての耐震化はもちろん、災害時には災害拠点病院として県外からの赤十字の災害救護班の受け入れや、それらの統括、采配が期待されております。また、地域の救急医療のニーズに応えるべく救命救急センターとしての使命を果たします。また、高度医療に対応できる医療機器と快適な療養環境を備え、救急医療、周産期医療、脳卒中、血管外科、脊椎外科、不整脈治療、血液・骨髄移植治療、糖尿病、リュウマチ・膠原病などの内科疾患、各種がん治療、および経鼻内視鏡を中心とした健診事業などをより一層充実させる予定です。また、今後も、研修医・看護師教育など、未来を見据えた幅広い活動に取り組む予定です。

当院の理念である、「人道」「博愛」の赤十字精神にのっとり、安心して身を任せることができる医療を提供するために、職員が一丸となって、頑張っております。今後も、静岡ロータリーの皆様のご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。また、私自身は、入会で、会員の皆さんと広く交流ができることを期待しております。

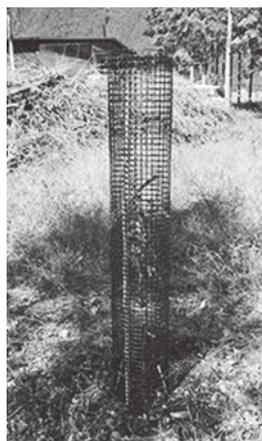
静岡ロータリークラブ設立 80周年記念事業への参加

(株)NTTドコモ 東海支社 静岡支店長 太口努

2014年10月25日、秋風が心地よく感じられる爽やかな天候のもと、静岡ロータリークラブ設立80周年記念事業に参加するために、静岡ロータリアンの皆様とご一緒に富士山麓の朝霧高原を訪れる機会がありました。当日は静岡大学教育学部付属特別支援学校の生徒さんやその保護者の方々、先生方をお招きし、雄大な富士山を画用紙いっぱいのにびのびと描いていただく「富士山世界文化遺産登録記念写生大会」が合わせて開催されました。



雲がほとんどなく快晴に恵まれ、総勢100名を超える参加者が集い、記念事業の一環として植樹事業などを体験してまいりました。2013年に来襲した台風の突風により高原のところどころで木々が倒されたため、地元のコミュニティを中心に森林を再生させる活動を展開されているとのことでした。また、野生のシカが樹木の皮を削り取ることによる食害があとを絶たないことも大きな問題となっているそうです。さくら、くりなどの木々を1本ずつ土壤に植え、食害の被害に遭わないように丁寧にネットで囲いをし、滞りなく植樹事業を終えることができました。思った以上に手間のかかる作業でしたが、森林の生態系を考えるよいきっかけにもなり、大変貴重な経験をさせていただきました。



午後からは、支援学校の生徒さんたちと一緒に青空の下でBBQを楽しんだりバターづくりに挑戦したり、と、あっという間に時間が過ぎていきましたが、一日中爽やかな気候の中でとても有意義に楽しく過ごすことができました。広大なキャンプ場が併設されていて、続々といろいろな形のテントが建ちはじめ、たくさんの方が思い思いに大自然の中での休日を堪能されていました。私も5～6年前から毎年キャンプを楽しんでいましたが、ここ1～2年残念ながら機会を設けられていないので、近いうちにまたキャンプをするのいいかな、と思い始めています。

静岡ロータリークラブに入会して

山元歯科医院 瀧上恵美子

この度、荻原様、高村様のご推薦により、伝統と歴史のある静岡ロータリークラブに入会させていただき、本当に光榮に思います。

以前より、現役会員である父より皆さまのご活躍や会の活発な活動は、日々聞いておりました。本当に素晴らしい会だと思っていました。まさか、私がこの会の一員にさせていただけるとは想像もしていませんでした。

現在、二人の息子達も大学に進学し、長男は5年生、次男も晴れて1年生として新しい一歩を歩

みはじめました。私自身も母としての役目がひと段落し、新しい社会への一歩を進めたいと考えています。

大学を卒業し国家試験を経て歯科医師となり25年が経過しました。資格だけあっても決して一人前ではありません。資格をどこでどのように使うかがとても大切で、人間力を問われると感じます。

不調で来院した患者さまに誠意ある治療をして“ありがとう”と笑顔でお帰りになっていただいたり、またスタッフ達とその笑顔を喜び合ったり、感謝を日々感じるようになりました。

ロータリーの精神は、人間愛を基本とし相手の事をよく考え、自分の職業活動を通じ社会に奉仕することと聞いています。

これからは、静岡ロータリークラブの一員として認めていただけるよう真摯に活動していきたいと思えます。

静岡には何も無い

北澤晴樹

「静岡の人は“静岡には何も無い”と言う。しかし、都会の喧騒からは離れたいが、ド田舎には住みたくない。静岡はそんな人にはうってつけのとても住みやすい所、それをまず県民に知って欲しい」県外出身の静大生のレポートだ。

5月に静岡大学との連携講座で講義を行った。「テレビを巡る最近の状況とローカル局の地方貢献」というテーマで行い256人の静大生が聴講した。テーマについてレポートを提出してもらうことになっているが、設問1は感想。設問2は「静岡を元気にするためにあなたは何かをするのか」で激しく採点させていただいた。意外だったのは静大生に県外からの学生がおおいことだった。冒頭の言葉も県外からの学生のレポートの一部だ。彼ら・彼女らは例外なく富士山や温泉はじめ豊かな自然・食文化・交通の便など静岡に大きな魅力を

感じており、それを誇りに思っている。

本人には無断でレポートの一部を紹介させていただこう。

「静岡県民は自信が足りません。県外や国外にアピールする前に、静岡県の良いところ・他県には無い点を知ってもらうことが大切」

「ホビーショーや清水のコスプレイベントなど地元企業・商店街と連携してSNSで発信していけば若い世代や外国人観光局を集客できるのでは」

「教師になって子供たちに静岡の魅力・欠点を伝えたい。そして、将来県外の大学に行っても戻りたいと言う気持ちを育てていきたい」

「静岡の人は“素通りされてしまう”と言うが、西にも東にも交通網がしっかり整っていることでもある。目的地は静岡でなくても、熱海の温泉、三島のうなぎなど新幹線駅のすぐ近くに魅力がたくさんあるのに、少しだけ立ち寄ってくれば静岡は横に長く通過するのに時間がかかる県ということに脱却できるのに」

鋭くしかも愛情を持った温かい目で静岡県を見ているレポートだ。若い力に期待したい。

静岡に来てまもなく一年になる。高校まで北海道で育った自分にとって静岡はまさに天国、「リタイアしたら静岡で暮らしたい」と言っていた自分の父親は夢もかなわず他界した。まさか自分が父親の夢をかなえるとは思っても見なかった。静岡に赴任したのも深い縁を感じてしまう。

恥ずかしい話だが赴任するまで静岡には3回しか来たことが無かった。御殿場・三島・伊豆などはゴルフ・温泉などによく来ていた。特に伊豆は大好きで学生時代から頻繁に訪れていた。ただ、静岡までとなるともう一歩足が伸びず、新幹線でもわざわざ降りる用事も無かった。

やはり、住んで見なければその土地の良さは見えてこない。住んで見ればどんどん良さが見えてくるし、良さを探すようにもなる。酒好きの私は地酒のおいしさにまず感激、マグロ・カツオのうまさは想定範囲内だが生シラス、アジのうまさは格別。なんで「そば」がこんなにおいしいのか誰か教えてください！

私の役目はこの幸せをみんなに伝えること。まず県内の人に「こんなに幸せなところは無いですよ」と。そして県外には、「一度来てみてください」ともっばら個人的に宣伝しています。

放送局勤めの私は公私混同も厭わず、若い力と一緒に静岡を盛り上げていきます。

転職のすすめ

花野博昭

静岡ロータリークラブ創立80周年、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げますとともに、これまでクラブの発展にご尽力された諸先輩に敬意を表します。

さて、私は会社に入社以来5回の転職を経験してまいりました。その経験から感じていることを二つ述べたいと思います。

一つ目は転職は有益だということです。転職をしますと当然新しい土地で新しい仲間や新しい取引先と仕事をすることになるわけですが、新天地でビジネスを成功させるためには今一度自分を見つめ直し、新しいマーケットを勉強し、良く考え、一生懸命努力をする必要に迫られます。それが結果的に自己の成長につながるからです。さらに言えば、同じところに長く在籍しますとどうしてもマンネリ化してしまいがちですが、それからの脱却にもなります。ですから、特に若いビジネスパーソンの皆さんには会社から転職を命じられても断らないことをお勧めします。

二つ目は新しい土地で生活することにより、それまで自分が知らなかった文化に接することが出来るということです。その土地の季節ごとの美味しい食べ物を味わい、お祭りなどのイベントに参加し、その土地の皆さんとの交流を深めていくことで少しずつその土地の一員になっていきます。なかなか出来ない貴重な体験です。

その土地ならではのものが最も嬉しいと感

じるのは方言に接することです。どの土地のどのような方言でも私は好きです。それはおそらく懐かしさを感じるからだろうと思います。現代は極度の東京集中と都会信仰、テレビの発達により方言を話す人が減ってきています。寂しい限りです。先人達から受け継がれてきた方言はその土地の文化そのものでもありますので、是非大切にしていだきたいと思います。

私はこれからはばらく静岡で生活させていただきます。静岡の文化を目一杯味わい、幸せを感じたいと思っています。微力ながらも静岡への貢献も果たしていきたいと思っていますので、静岡の皆様どうぞ宜しくお願いします。

趣味は読書？

原田亜紀子

元文学少女だった私は、履歴書も釣書も「趣味は読書」一本で通してきました。あれから長い月日(歳月)が経ち、文学とも少女ともかけ離れてしまいましたが、今も本が好きで、出張の際にはまずその町の書店に立ち寄ることにしています。駅前の書店の規模やラインナップ、レイアウトから、その土地の習慣や文化度をほんやりと感ずることが出来ますし、さらに、海外の田舎町で埃をかぶった日本の小説なんかを見つけたときは嬉しくて仕方ありません。現地語に訳されたその本は、国内だったら手に取ることはなかったかもしれないのに、海外ではなんだかとても愛おしく思えて、つい買わずにはいられなくなる。たとえ現地の言葉に翻訳されたその文字が、私には“ミミズのダンス”にしか見えなかったとしても。そんなわけで、出張帰りのキャリーバッグには、いつも新しい本が増えているのです。

でも、書籍は重い場所もとる。元文学少女の悲しい性で、本を捨てることは決して出来ない。収納場所も限界を迎えつつあり、だんだん本を片

づけられない女になり始めてきました。これではいけないと悩みはじめたころ、電子書籍が普及し始め、モノは試しと使ってみると、確かにこれは便利。海外にいても最新刊を出版日に読むことが出来るし、逆に電子化して復活した絶版本もある。何より、小さなスマートフォンひとつに何冊もの本をダウンロードして持ち歩くことができるから、読みたいものがよりどりみどり。なんてステキなの！まるで新しい恋人に出会ったかのように、しばらく電子書籍に夢中になりました。

でも、やっぱり何かが違うのです。あのインクのおい、ページをめくる感触、寝転がって読んでちょっと腕が疲れちゃったな、と感じるあの重さ。そして最大の違和感は、読んだ本がちっともたまらないということ。そう、多くの読書家の方同様、私も『収集癖』という病を併発させていたのです。そうか、私は読書家ではなく書籍愛好家だったのか！電子書籍を通して新しい私を発見しました。私と電子書籍との蜜月は終わり、増え続ける本の整理はこれからも人生のテーマになりそうです。

改めて「誉めて伸ばす」

山本靖

学校での「いじめ」、悲しい出来事が後を絶たない。

先生や親に失敗や欠点を指摘、叱責されてフラストレーションを蓄積し、暴力、非行、いじめに奔るか、或いは奮起して努力するか。確かに「失敗は成功のもと」ではあるが、フラストレーションが「いじめ」に繋がっているケースも多いという。誰かをいじめなければ欲求不満が解消できず、精神のバランスがとれないようだ。

その不満の真因は親の愛情欠如かも知れないし、愛情過多による過干渉かも知れないが、したくない勉強や塾通いを強要されることもどこかで

もある。

こうした不満の原因を除去することは容易ではないが、何か不満の解消に繋がる方法はないか。その一つの方法は「誉めること」「誉める教育」。

子供も自分を否定して生きていくことはできない。当たり前なことだが、自分の存在価値を肯定し、他人からも肯定されてはじめて前向きに生きていくことができる。他人から自分を肯定される体験、喜びを知ると、その喜びをさらに求め、長所をさらに伸ばしたり、他人から否定されないよう自ら欠点を直そうとしたりする。

誉めることは叱ることより何倍も難しいし、誉め方によっては逆効果にもなる場合もあるが、先生や親があまり誉めないからか、自分の長所がわからない子供、自信がない子供が多いという。学校でも家庭でも、改めて「誉めること」の大切さを認め実践すれば、自律的な行動が生まれ、と同時に不満が減り、いじめも減っていくのでは。

子供たちの多くが小中学校の頃から自分を認め、自信を持って生きていくことができたらいいだろうな。



随 想

「捨てる」ということ

里見和洋

「断・捨・離」ということばがよく使われるようになった。なんでも、インドヨガから来ているようだ。モノや、情報がひっきりなしに入って来る状態を絶つが「断」、不要なものを思い切って捨てるのが「捨」、モノや情報の集合場所から距離を置くのが「離」というような意味と理解している。

私事ながら、3～4年前から郷里の築90年位の古民家を片付けだした。そして去年、一部をリフォームした。つくづく捨てることの大切さを体感しつつ、一方で、戦中戦後を生きてきた92歳の老母の、こみたい性の根深さに愕然とした。

「捨てる」「捨てるな!」との感情的対立は、この間ずっと続いた。そうこうしながら、単にモノを大切に「する」「しない」ということから離れて、歳をとるということは、「現状が変わる」ことに対する拒否感情をもつということではないかと思うに至った。結局、ガンコになり朽ちていく。吾が身を省みる機会にもなった次第である。

さて、論語に「吾、日に三たび吾身を省みる」という章句がある。この省みるということについて、安岡正篤がオモシロいことを書いている。

「省」という字には2つの意味あり。

1つに、「反省」するの省みる。

2つに、「省く^{はぶ}」の意味と。

つまり、反省し、省みることにより、不要なこと

無駄なことを省いていく。これが「省」という字の2つの大事な意味と。ところが、役人という者はとかくムダが多い。訓れて省みなくなる。ゴタゴタと仕事を複雑にする。そこで、省みて、省かなければいけないというので、役所の前に「省」の字をつけた。昔の人はエライ!と。更に追い打ちをかけるように、官僚というものは、反対に濁りをつけて「省」を「冗^{じょう}」にする傾向がある。真偽のほどは何とも分かりかねるも、しゃれたことを言うものだと感心した次第。

自らを省みながら、ムダを省き、少しでもモノごとを「長期的に複眼で本質を見る」ようにつとめていきたいと思う。

おそれ多き静岡

福地益人

ヘンな表題名だが、このごろ“おそれ”と云う言葉をテレビその他で見聞きする。例えば天気予報ではシバシバで、“〇〇台風が、△△に上陸のオソレがあります”と云う。また、JR東海道線のホームの柱に“このあたりハトの糞が頭上から落ちてくるオソレがあります”と書かれている場所がある。私だけが気にしている言葉であろうか。

子供の頃、と云っても小学生時代、ラジオ放送で“おそれ多くも天皇陛下におかせられましては、〇〇に行幸されました”と云うようなニュースを聞いたりした。まだ太平洋戦争が勃発する前だが、戦争中にも“おそれ多くも”は時々聞いていたが、恐ろしく感じたことは一度もなく、子供心にも是非とも陛下にお会いしたいと思っていた。

“オソレ”とは如何なる意味か、不思議な言葉と思っている。①身に危険がせまり恐ろしく感ずる、②身に危険が無くても精神的に追い詰められる、③自分には危険は全く無いが、離れた人に危

険が迫っている、④自他共に今は危険も何もないが、予想されるような危険な事態が起きれば、または懸念があると云うような意味合いなのであろうか。しかし、身にも誰にも大した危険がないにもかかわらず、“オソレ”は使われる。前記した天皇陛下の行幸の件だが、日本人の誰も危険とは思わず、出来ることならば、ここにも天皇陛下に来てもらいたいと思ってにちがいない。ハトの糞はオソレなのであろうか。それよりもチュウインガムがベンチの上に吐き出されているほうが余程オソロしい。今現在、我が県では伊豆箱根で箱根温泉の火山噴火の危険な事態が予想されている。周辺では「風評被害」も予想され、観光関係者は頭を悩ませているようであるが、これも“オソレ”と云われている。それに引き替え、別の観光地では“ぼうず地獄”とか“地獄谷”と名付けて観光客を呼び込んでいる場所もある。“オソレ”とは来てもらいたいこと、来てもらいたくないこと、の二つの意味が有るのであろうか。

このように屁理屈を述べると、“オソレ”には日本人の感覚で云えば一方的な意味だけではないかもしれない。日本に大きな影響を及ぼす台風は日本人の総てが嫌う気象であろうか。時には多大な被害をもたらす暴風雨もあるが、干ばつに悩む農村では夢にも見る慈雨となり、草木に住み込む害虫（例えばカメムシ）を吹き飛ばしてくれて台風様々と喜ぶ農家もいる。その昔、北九州を襲った蒙古は台風に追われた。有名な神風である。オソレも程度や状況によって変わるのであろうか。我が国の建国時に、時の天照大御神は和が国のことを「豊葦原の千五百秋の端穂の国」と云い、梅雨や台風のような雨の多い国と捉えていた。少なくとも雨は怖いところ恐ろしいところ住みにくいところとは申されていない。

さて、表題の“おそれ多き静岡”だが、静岡は恐ろしい所であろうか、最近の情報では静岡県の人口は減少傾向が全国1～2を誇るらしく、私が住む焼津市は過疎化が進んでいる。そこに住んでいると解らなかつたが、港湾付近から海岸部、海岸線に沿って住居が取り壊され空き地となり駐車

場がやたらと増えてきた。JR焼津駅南から港までの駅前通り、古い繁華街はシャッター通りに変わり、繁華街と思われる区域は他に分散した。お陰様で焼津市医師会館の周辺も空き地が増え安く駐車場を購入できた。なぜ焼津の海岸線から市民が退却しつつあるのかは説明しなくても解っていることで防ぎようもない。

第一の理由:云わずと知れた東海大地震、第二の理由:地震で廃墟となった市街からの大火災、第三の理由:地震に伴う大津波で市の中心部が瓦礫、第四の理由:浜岡原発からの放射性物質による汚染が市の全域、第五の理由:富士山が大爆発、第六の理由:自分だけ取り残され商売がなりたない、だから競って退却、その他もろもろ、以上であるが、将に六重苦である。実は六重苦に加えて更に各種の情報が飛ぶ。その1) 50年以上前からだが、明日起きても更に今起きても可笑しくない、その2) 関東大震災の何倍も大きい、その3) 津波は数分後には到着し直ちに避難しないと助からない、その4) 原発からの汚染は県外に及ぶから予め避難先を考えろ、その5) 富士山の噴火は御嶽山が示したように予告されないから心せよ、などなどと脅し文句が多発し“おそれ多き静岡”で逃げるが勝ちとなった。

その話を20年程前、当時の厚生省環境衛生局長に話したら、「何を言ってんだ、もし静岡県に地震や津波、火山の爆発で大災害が起きたら、東京は更に深刻で被害は甚大だ」と答えた。静岡は騒ぎ過ぎ、と云うような発言だった。

その後、静岡県では耐震化、避難場所、備蓄、各種訓練など行政指導・県民の参加型負担で対処してきたが、東京は都民に直接的負担を奨励するよりも、地下鉄、環状線高速道路、公園整備、防波堤、河川護岸整備、大規模地下水槽など、公共予防整備に多額の投資をした。東京の被害は甚大とマスコミが云うが、人々は逃げるどころか増加の一方である。都民の安心感こそ都政であろう。これらの情報は、それが正しいのか行き過ぎなのかは明らかではないが、情報の出どころは有識者と云われる近視眼の方々であろう。数千年前の神

代以前の時代に起きた天変地異がこの世に再現されると云う。沼津、興津、焼津のように津の名が付いた海岸は津波被害があると古くから云われる。アマテラス大神やコノハナサクヤ姫（静岡浅間神社）、スサノオノ尊（焼津神社）に直接聞いてみたい。

現在、静岡県に流される災害情報の殆どは特定の人々により過大に評価され示されたものが多いと思う。その情報がハズレても、お咎めはないが、当たれば有名人となる。

県民参加型は高度に実現すれば素晴らしいが、“おそれながら” 実現不可能と思う。東京都型の行政優先型で市民をリードするのが金がかかるがベターであろう。いくら躍起になって情報を流しても半数の市民はついてこないことを知るべきである。出産数の減少を叫んでいる人は、自身が何人子供を育て苦労話でなく、楽しく養育・教育し、成功した様子を公表して指導したらよい。私は子供の養育・教育は楽ではなかったが、口に出すことは少ない。小学生の頃、私は3人姉妹で少ないほうで、4、5人は当たり前の時代で1人2人は恥ずかしい時代だった。私は結婚し3人を育てた。

20年も前に中国雑誌「人民中国」と云う日本語月刊誌を読んで“なるほど” と思ったことがある。中国の雑誌編集者が初めて日本を訪れたときの印象を述べていたが、その中で“日本人は中国人と比較して最も違うのは、日本人は被害意識が強く過大だと、それに関連し危険意識も過大となり、それらに対応するのも過大” と述べていた。良いことか否かについては述べていないが、それを理解しないと日本人を語れないと云う。私はその言葉を知ってから“なるほど” と日本人を意識するようになった。“おそれ多き静岡” は“なるほど” 日本人が演出する過大な被害意識（被害妄想）であろうか。

地震や天気予報などの予報官は予報がハズレたほうが結果として良かったと云う。たしかに予報通りの大災害が次から次に当たり災害日本になったら大変なことであるが、だからと云って総ての予報に対処は不可能であろう。如何に風光明媚、

温暖で四季の食材が豊富で云うところが少なく住み易い県であっても、静岡県が危ないところと嫌われないために“おそれ多き静岡” と云う印象を払拭するように、県の為政者を含めマスコミも真剣に取り組まなければならない問題である。

阪神淡路大震災、近くは東北の震災津波などは、起きて当然と思われる場所（小学校の頃から危ない所と聞いていた）であったが、何故か想定外と識者の話であった。静岡県は東海地震説が噂されてから他の府県からの情報を真剣に取り入れ、静岡市は町内会などでも対処に当たってきた。浜岡は別だが、静岡県は県の良いところを宣伝するのも必要だが、“おそれ少なき安全地帯” として宣伝し、東京都型行政優先型の安心施策を実行しなければ、永く住んでいきたいが残念ながら“おそれ多き静岡県” から逃げださなければならない人々が増える。従兄弟の子供が私に向かって“おじさんは何処に逃げますか、逃げる場所は決まっていますか” と問われた。逃げる所がないので返答できなかった。静岡県は子供まで避難するところを気にしているようでは、人口減は当たり前であろう。“慌てるな、県はガッチリとガードを固めている” と県民にガッチリ示すべきである。

老人川柳

望月義弘

（他人作）

紙とペン 探している間に 句を忘れ
こないだと 50年前の 話する
起きたけど 寝るまで特に 用はなし
体調の よい日に医者をはしごする
徘徊と うわさをされて 散歩やめ
無病では 話題に困る 老人会
寂しくて 振り込め詐欺と 長電話
（自 作）

一日に 何回くちに 「どっこいしょ」

困るのは はずしたメガネ どこえやら
 書いた字が 判らなくて 友に訊く
 この部屋に なんで来たのか 自問する
 ニッコリと 挨拶された 誰だっけ？

自分のクラブをダメにする 10の方法

望月義弘

- 例会に欠席する。
- 出席すればアラ探しをする。
- 役職につくことや委員になることを断る。
- 自分が指名されなかったり、任命されなかったりすると怒る。
- 委員になっても委員会に出席しない。
- 出席したとしても、閉会まで発言しない。そして、こうすべきであったなどと批評する。
- クラブの仕事はなるべくならいっさいしないようにする。そしてベテランの信用のおける人たちが仕事にかかると、排他的だといって非難する。
- 新しいプログラムには会員の金の浪費だといって反発する。
- 新しいことが何もないと、役員たちには想像力が不足しているなどと不満を言う。
- クラブ会報はたまにしか読まない。それでいて、何がどうなっているのかサッパリわからないとこぼす。

ロータリークラブに感謝を!!

大澤 泉

2009年4月20日に静岡ロータリークラブに入会させて頂き、早6年が経過しました。在籍中の2010年に創立75周年、そして今年2015年に創立80周年を迎える事ができました事を、嬉しく思います。

この6年の間、2つの委員会の委員長(親睦、雑誌)を仰せつかり活動して参りましたが、いろいろな事を経験させて頂き、本当にありがとうございました。また、現在二つしかない静岡ロータリークラブ公認サークルである写真サークル・マジックサークルの両方にも所属し、いろいろな方々との親睦を図る事ができた事は有意義であったと思っております。

特にマジックに関しましては、2009年の年末家族会でステージに立って以来、いろいろな場面で披露する機会が増え、自分の技術も更に向上したような気がします。その甲斐もあり(?)昨年2014年5月の弊社(株)巴川製紙所の創業百周年記念イベントでは、30分程度のマジックショーを行う事ができました。多くのロータリアンの方々が会場に駆けつけてくださり、本当に嬉しく思いました。

今年9月21日は敬老の日ですが、3つの自治会から敬老会でのマジックショーの依頼を受けました。日程の都合もあり一つの自治会は断りましたが、寺田自治会(9/13) 草薙つつじヶ丘自治会(10/3)の敬老会ではマジックショーを行う予定です。これもロータリークラブのお陰と感謝しております。

今年度中に、還暦の年を迎えます。静岡での単身赴任生活も十年目となり、そろそろ静岡を離れる時期が近づいてきております。

静岡ロータリークラブでのいろいろな経験を生かし、新天地での第二のサラリーマン生活を、更に有意義なものにできるよう頑張っていきたいと思っております。

Photo Gallery

アッセンブリーメンバー 1年間頑張ります



2014年7月7日

ガバナー公式訪問



2014年7月14日

体験入会



2014年8月4日

小さな親切運動・ゴミ拾い



2014年9月6日

この一年もよく飲みました!



富士山写生大会

2014年10月25日



年末家族会

2014年12月15日



骨折なんて何のその

2014年12月22日



年男による節分例会

2015年2月2日



インターシティミーティング

2015年3月1日



小さな親切運動

2015年3月28日



麻機遊水地あづま屋例会

2015年4月20日



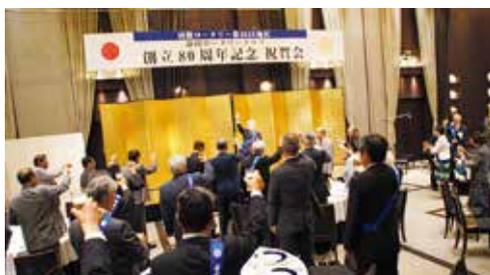
けやき例会

2015年5月18日



創立80周年記念例会

2015年6月15日



念願かなって(^-^)/

2015年6月22日



歴代役員・委員長一覧表

委員長 年度	会 長	副会長	幹 事	会 計	会 場 監 督	職 業 奉 仕	国 際 奉 仕	社 会 奉 仕	青 少 年 奉 仕	情 報	出 席
1934昭9年	尾崎	鈴木 ^(与)	片岡	伏見	居初						
35昭10年	尾崎	鈴木 ^(与)	片岡	伏見	居初						
36昭11年	中村		片岡								
37昭12年	甲賀	三橋	片岡	稲畑	磯野						
38昭13年	三橋	居初	片岡		江河						
39昭14年	鈴木 ^(与)	中田	片岡	藤井	黒川						
40昭15年	居初	へりや	片岡	金井	大谷						
49昭24年	小塩	原田	清水	(清水)	蛭川	原田	川井	小塩			佐藤
50昭25年	小塩	原田	清水	(清水)	蛭川	原田	川井	小塩			佐藤
51昭26年	小塩	鈴木	岩城	清水	三上	土橋	川井	佐藤		阿部	
52昭27年	平野	佐藤	蛭川	岩城	桜井	清水	鱸	高野	川井	小塩	川上
53昭28年	佐藤	上野	蛭川	桜井	山本	吉岡	吉岡	伊藤	中田	清水	鈴木 ^(敬)
54昭29年	中田	鱸	蛭川	三上	杉本	桜井	中村	江崎	鈴木 ^(信)	佐藤	鈴木 ^(安)
55昭30年	川井	清水	蛭川	稲森	安達	三上	柚原	青島	稲森	中田	梅田
56昭31年	阿部	山本	蛭川	鈴木	矢島	鈴木	鶴飼	田中	稲森	川井	杉本
57昭32年	土橋	蛭川	稲森	岡田	岡部	阿部	石井	鈴木 ^(藤)	川辺	阿部	桜井
58昭33年	鈴木	山崎	稲森	小塩 ^(敬)	河瀬	岡田	鱸	青島	鈴木 ^(八)	土橋	山本
59昭34年	上野	三上	稲森	岡部	田中	川村	片山	杉田	山崎	鈴木 ^(信)	青島 ^(富)
60昭35年	鱸	住	志田	稲森	岡部	河瀬	細川	福地	川辺	上野	鈴木 ^(安)
61昭36年	柚原	桜井	川辺	稲森	増井	小林	志田	岡部	青島 ^(広)	鱸	河瀬 ^(敬)
62昭37年	青島	三上	稲森 ^(信)	稲森	佐野	栗田	田中	田島	尾崎	柚原	岡田
63昭38年	山崎	鈴木	小林	児玉	田中	土橋	柚原	小塩	川井	青島 ^(富)	桜井 ^(輝)
64昭39年	鈴木	中村	片山	鈴木 ^(八)	稲森	児玉	石塚	岡田	加藤	山崎	大村
65昭40年	中村 ^(四)	田中	青島	鈴木 ^(八)	栗田	杉田	鶴飼	安並	加藤	鈴木 ^(安)	佐野
66昭41年	田中	志田	渡会	館石	稲森	山口	尾崎	児玉	横山	中村	鈴木 ^(八)
67昭42年	三上 ^(時)	稲森 ^(利)	林	田辺	額田	小林	細川	近藤	横山	田中	栗田
68昭43年	山本 ^(吉)	青島	河瀬	田辺	稲森	館石	児玉	中村 ^(四)	柴主	三上	稲葉
69昭44年	細川	林	桜井 ^(武)	田辺	稲森	大村	大石 ^(益)	渡会	尾崎	山本 ^(吉)	影山
70昭45年	福地	岡田	川井 ^(信)	高木	稲森	稲葉	川辺	加藤	片山	細川	大石 ^(益)
71昭46年	志田	稲森 ^(利)	柴主	高木	花崎	河瀬	田代	白井	尾崎	福地	大畑
72昭47年	稲森 ^(利)	尾崎	桜井 ^(次)	川井 ^(信)	戸塚 ^(誠)	石川	水上	近藤	川野辺	志田	稲森 ^(信)
73昭48年	岡田 ^(新)	大石	山本 ^(菊)	川井 ^(信)	小野	館石	大畑	岩崎	平尾	稲森	藤野
74昭49年	大石 ^(益)	林	山下	川井 ^(信)	小長谷	影山	中村 ^(孝)	向坂	桜井 ^(武)	岡田 ^(新)	大村
75昭50年	尾崎	近藤	戸塚 ^(誠)	青島	高村	水野	渡辺	実石	奥野	大石 ^(益)	山元
76昭51年	館石	青島	望月	高村	稲森 ^(利)	川野辺	桜井	大石	小野	尾崎	正村
77昭52年	児玉	桜井	谷田	高村	稲森 ^(利)	渡会	大畑	小林	牧田	館石	上田

委員長 年度	広 報	雑 誌	会 報	プ ログ ラ ム	会 員 選 考	職 業 分 類	会 員 増 強	親 睦 活 動	財 団	ローター アクト	インター アクト	つつじ	新会員 親睦小
1934昭9年													
35昭10年													
36昭11年													
37昭12年													
38昭13年													
39昭14年													
40昭15年													
49昭24年				清 水	川 井	蛭 川	原 田	清水(俊)					
50昭25年				清 水	川 井	蛭 川	原 田	清水(俊)					
51昭26年		山 中		岩 城	植 田	平 野	鈴木(与)	清水(俊)					
52昭27年		鱸		蛭 川	岩 城	山 崎	上 野	伊藤(義)					
53昭28年		鱸		山 本	土 橋	鈴木(安)	岩 城	山 崎					
54昭29年	江 川	田 中		稲 森	上 野	山 本	鱸	田中(大)					
55昭30年	阿 部	伊 藤		山 本	土 橋	鱸	清水(俊)	桜 井					
56昭31年	柚 原	石 井	石 井	鱸	土 橋	山 本	山 本	岡 田					
57昭32年	田 中	片 山	片 山	三 上	山 崎	鈴木(安)	蛭 川	山 本					
58昭33年	増井(俊)	片 山	片 山	浅 沼	高 野	佐藤(芳)	山 崎	上 野					
59昭34年	佐々木	志 田	志 田	鱸	山 本	小 塩	三 上	柚 原					
60昭35年	中村(勇)	三 上	門 野	吉 田	川 井	川 村	住	稲森(祐)					
61昭36年	門 野	青 葉	泰	住	鈴木(信)	田 中	桜 井	青島(富)					
62昭37年	丸 山	大 村	石 塚	安 並	川 村	丸 尾	三 上	加 藤					
63昭38年	鱸	志 田	片 山	大 橋	佐 藤	川 村	鈴木(信)	稲 森					
64昭39年	小 林	丸 尾	紀 村	小 堀	川 村	志 田	中 村	渡 会					
65昭40年	小 堀	細 川	大石(益)	稲 森	鈴木(信)	志 田	田 中	稲 葉					
66昭41年	大石(益)	桜井(武)	佐 野	下 川	川 村	片 山		新 間					
67昭42年	片 山	安 並	桜井(武)	大石(益)	児 玉	川 村		杉 田					
68昭43年	小 堀	志 田	小長井	佐 野	柚 原	小 林		川井(祐)					
69昭44年	横 山	藤 野	高 木	新 間	山口(千代)	稲森(祐)	林	岡 田					
70昭45年	永 田	小 堀	水 上	原野谷	中村(円)	渡 会	小 林	横 山	岡 田				
71昭46年	中 村	岩 崎	山本(菊)	大石(益)	丸 尾	青 島	稲 森	渡 会	鈴木(安)				
72昭47年	横 山	佐 野	小 堀	中村(孝)	福地(省)	児 玉	尾 崎	大 村	中 村				
73昭48年	原野谷	安 並	小長谷	加藤(和)	細 川	桜井(武)	大 石	白 井	志 田	向 坂			
74昭49年	荒 川	近 藤	桜井(次)	横 山	山口(千代)	小 林	林	小 野	三上(時)	鈴木(和)	牧 田		
75昭50年	花 崎	大 畑	岩 崎	平 尾	鈴木(安)	林	近 藤	柴 主	土 橋	稲 葉	河 瀬		
76昭51年	増 井	荻原(弘)	小 堀	多 門	安 並	小 塩	青 島	太 田	稲森(祐)	横 山	伊 藤		
77昭52年	伊藤(博)	安 並	疋 野	原野谷	高 野	川 井	杉 田	奥 田	尾 崎	小長谷	岡田(宏)		

委員長 年度	会 長	副会長	幹 事	会 計	会 場 監 督	職 業 奉 仕	国 際 奉 仕	社 会 奉 仕	青 少 年 奉 仕	情 報	出 席
78昭53年	林	柴 主	鈴木(和)	高 村	稲森(和)	実 石	水 野	望 月	高 野	児 玉	山 本
79昭54年	柴 主	渡 部	三 上	高 村	稲森(和)	戸塚(誠)	桜 井	平 尾	林	内 山	
80昭55年	渡 会	青 島	松 崎	高 木	稲森(和)	荻 原	秋 田	時 田	望 月	柴 主	佐野(副)
81昭56年	青 島	大 畑	遠 藤	谷 田	稲森(和)	足 立	三 上	星 野	才 茂	渡 会	小 野
82昭57年	大 畑	桜 井	平 尾	田 辺	稲森(和)	向 坂	川野辺	実 石	奥 野	青 島	疋 野
83昭58年	桜 井	川 井	時 田	田 辺	稲森(和)	中 須	高 村	北 村	山 本	大 畑	遠藤(副)
84昭59年	川 井	川野辺	才 茂	田 辺	稲森(和)	星 野	岡田(宏)	実 石	遠藤(副)	桜 井	稲 葉
85昭60年	川野辺	中 須	川 村	田 辺	稲森(和)	平 尾	牧 田	荻 原	鈴木(和)	川 井	甲 田
86昭61年	中 須	稲 葉	野 澤	平 野	稲森(和)	柴 主	桜 井	青 島	望 月	川野辺	土 谷
87昭62年	稲 葉	才 茂	秋 田	平 野	増 田	水 上	木 村	柴 主	奥 野	中 須	福 田
88昭63年	才 茂	実 石	山 口	平 野	増 田	青 島	岡 田	折 美	森	稲 葉	吉 田
89平1年	実 石	戸 塚	高木(和)	田 辺	増 田	星 野	牧 田	川 村	野 澤	才 茂	宮 澤
90平2年	戸 塚	高 村	松 川	田 辺	増 田	福 田	鈴木(和)	向 坂	田 中	実 石	山本(奥)
91平3年	高 村	望 月	影 山	寺 岡	田 中	松 井	岡 田	牧 田	時 田	戸 塚	山本(良)
92平4年	望 月	岡田(宏)	稲森(正)	寺 岡	吉 田	三 浦	野 澤	福 地	北 村	高 村	平 田
93平5年	岡田(宏)	鈴木(和)	田 中	平 田	東	松 井	影 山	伴 野	松 川	望 月	岡 本
94平6年	鈴木(和)	松 井	杉 山	平 田	山本(良)	野 澤	荻原(英)	牧 田	伊藤(恒)	岡田(宏)	大 野
95平7年	松 井	牧 田	増 田	平 田	山本(良)	山口(良)	東	岡 本	志田(洪)	鈴木(和)	矢 部
96平8年	牧 田	松 崎	伊藤(恒)	矢 部	山本(良)	杉 田	伴 野	影 山	山本(隆)	松 井	三 浦
97平9年	松 崎	野 澤	伊藤(博)	矢 部	駒 形	北 村	西 村	中 野	東	牧 田	山 本
98平10年	野 澤	秋 田	稲葉(卓)	矢 部	駒 形	杉山(孝)	桜 井	志田(洪)	望 月	松 崎	原 田
99平11年	秋 田	向 坂	東	矢 部	駒 形	田中(輔)	伴 野	影 山	西 村	野 澤	寺 戸
2000平12年	向 坂	福 田	荻 原	萩 原	浅 原	原	梅 原	原 田	山 口	秋 田	植 松
01平13年	福 田	福 地	志田(洪)	山口(良)	浅 原	山 崎	長谷川	駒 形	石 川	向 坂	東
02平14年	福 地	田 中	伴 野	勝 山	浅 原	山本(隆)	寺 戸	奥 山	杉山(孝)	福 田	瀧 上
03平15年	田 中	山 口	桜 井	杉山(孝)	勝 山	伊 藤	牧 田	梅 原	長谷川	福 地	植 松
04平16年	山 口	山 元	寺 戸	杉山(孝)	勝 山	望 月	志 田	宮城島	小 林	田 中	疋 野
05平17年	山 元	伊藤(恒)	長谷川	勝 山	高 村	鈴木(和)	疋 野	東	久保田	山 口	小林(武)
06平18年	伊藤(恒)	東	西 村	勝 山	高 村	大 石	浅 原	松 崎	田 中	山 元	鈴木(健)
07平19年	東	荻 原	疋 野	勝 山	小 野	野 澤	植 松	佐 藤	伴 野	伊 藤	藤 牧
08平20年	荻 原	志 田	久保田	杉 本	小 野	稲 葉	青 野	望 月	小 倉	東	武 藤
09平21年	志 田	伴 野	浅 原	杉 本	小 野	長谷川	山 口	伊藤(博)	佐 藤	荻 原	鹿野内
10平22年	伴 野	杉山(孝)	青 野	杉 本	佐 藤	福 地	近 藤	谷 本	小 林	志 田	川 添
11平23年	杉山(孝)	伊藤(博)	高 村	杉 本	佐 藤	児 玉	鈴木(和)	稲 葉	浅 野	伴 野	川 辺
12平24年	伊藤(博)	寺 戸	小林(武)	杉 本	山 崎	堀 池	松 崎	鈴木(健)	宮 崎	杉山(孝)	秋 山
13平25年	寺 戸	浅 原	児 玉	杉 本	山 崎	平 松	山 口	坂 上	近 藤	伊藤(博)	宮 前
14平26年	浅 原	疋 野	佐藤(良)	宮 崎	鈴木(健)	伴 野	望月(啓)	堀 池	木 村	寺 戸	平 尾

※「青少年奉仕委員会」は2001年度より「新世代委員会」に変更

委員長 年度	広報	雑誌	会報	プログラム	I T	会 選 考	職 業 分 類	会 員 増 強	親 睦 活 動	財 団	ロー ター ア ク ト	イン ター ア ク ト	つ つ じ	新 会 員 親 睦 小	環 境 全 保	米 山	ク ラ ブ 藤 田
78昭53年	柚子島	志田	荻原	秋田		大村	田辺	細川	時田	館石	松崎	田中					
79昭54年	大石(益)	川野辺	才茂	岡田(益)		山崎	青島	岡田(新)	遠藤	中村	山元(和)	田中					
80昭55年	永田	向坂	伊藤(博)	神戸		細川	近藤	志田	谷田	大畑	野沢	田中					
81昭56年	中須	花崎	高村	鈴木(誠)		安並	川野辺	桜井	嶋田	原野谷	野沢	鈴木(和)					
82昭57年	大石	佐野(-)	戸塚	秋田		柴主	稲葉	山口(千吉)	荻原	増井	漆谷	鈴木(和)					
83昭58年	伊藤(博)	近藤	野澤	岡田(益)		川辺	谷田	渡会	増田	館石	山元	鈴木(和)					
84昭59年	松井	山口(千吉)	高橋	戸塚(関)		尾崎	平野	青島	小沢	柴主	山元	松川					
85昭60年	山本(興)	谷田	足立	高村		渡会	伊藤(徳)	高野	山口(良)	青島	高木(悦)	松川					
86昭61年	戸塚(関)	林	森田	松井		山崎	尾崎	志田	遠藤(嘉)	永田	高木(悦)	松川	安並	川村			
87昭62年	松井	高村	伊藤(博)	多胡		山口(千)	実石	鈴木(和)	小沢	林	向坂	松川	安並	野沢			
88昭63年	土谷	足立	山名	斉藤		伊藤	谷田	野澤	田中	桜井	向坂	森田	安並	秋田			
89平1年	安達	伊藤(徳)	嶋田	毎木		伊藤(恒)	杉田	松崎	東	渡会	望月	時田	安並	山口(良)			
90平2年	三浦	北村	小杉	坂本		山口(千)	山元	山口(良)	稲森	柴主	望月	時田	安並	高木(悦)	向坂		
91平3年	坂本	秋田	毎木	東		平田	疋野	荻原(英)	小杉	青島	山口(良)	山元	安並	松川	牧田		
92平4年	伊藤(-)	磯谷	村田	星野		上田	甲田	山名	奥山	実石	山口(良)	伊藤	渡会	影山	奥野		
93平5年	斉藤	松崎	矢部	秋田		平尾	増田	青島	三浦	時田	山口(良)	伊藤	林	稲森(正)	野澤	高村	
94平6年	秋田	東	伴野	大倉		福田	向坂	森	影山	時田	奥山	稲葉(卓)	林	田中	山元	福地	
95平7年	岩淵	杉田	西村	山本(肇)		星野	向坂	三浦	影山	田中	奥山	稲葉(卓)	林	杉山	荻原(英)	福地	
96平8年	大倉	荻原	奥山	大城		小杉	大野	西村	稲葉(卓)	森	山崎	志田(洪)	林	増田	山口	福地	
97平9年	杉山(光)	杉山(孝)	寺戸	村井		山口	大野	望月	荻原(英)	影山	山崎	志田(洪)	福地	伊藤(恒)	岡本	杉田	
98平10年	松井	福地	寺戸	大石		福田	杉田	田中	長谷川	鈴木(和)	石川	久保田	向坂	伊藤(博)	伴野	柴主	
99平11年	大倉	大石	法月	山本(肇)		望月	松崎	杉山(三)	岩本	鈴木(和)	石川	山元	——	稲葉(卓)	杉山(孝)	志田(洪)	
2000平12年	大石	杉田	岡田(至)	篠崎		福地	北村	佐藤	青野	松崎	長谷川	小林	——	東	山田	伊藤(恒)	
01平13年	山本(肇)	西村	池田	笹井		松崎	森田	桜井	坪井	秋田	青野	小林	——	荻原	小浜	山元	
02平14年	星野	牧田	佐藤	庄司		鈴木(和)	梅原	小浜	宮城島	望月	青野	久保田	——	志田(洪)	影山	大石	
03平15年	笹井	駒形	小林	浦崎	古川	山元	大石	小浜	疋野	東	青野	久保田	——	伴野	浅原	松崎	
04平16年	庄司	梅原	小杉	杉山	坪井	杉田	山崎	荻原	佐藤	奥山	植松	久保田	——	桜井	高村	伴野	
05平17年	大石	志田	増永	小森	梅原	伴野	駒形	水上	近藤	杉田	植松	宮城島	——	寺戸	山崎	澤村	
06平18年	梅原	伴野	山崎	村上	寺戸	望月	荻原	坪井	荻野	志田	稲葉	瀧上	——	長谷川	杉山(孝)	鈴木(和)	
07平19年	高村	向坂	小林	島津	坪井	鈴木(和)	中野	志田	児玉	杉山(孝)	青野	荻野	——	西村	鈴木(和)	浅原	
08平20年	横山	高村	新庄	河合	大久保	大石	村上	中山	水上	植松	佐藤	荻野	——	疋野	谷本	山崎	
09平21年	大石	東	堀池	広瀬(純)	小澤	村上	武藤	中村	坂上	小林	谷本	荻野	——	久保田	宝田	山崎	牧田
10平22年	広瀬(純)	植松	坂上	長谷川	菊盛	田中(備)	加藤	鈴木(備)	中山	山崎	浅野	小澤	——	浅原	新庄	寺戸	牧田
11平23年	河合	水上	平松	塩野	蟹江	山元	山元	加藤	大澤	村上	浅野	川崎(博)	——	青野	疋野	川崎(裕)	志田
12平24年	大石	望月	栗原	正木	菊盛	田中(備)	田中(備)	加藤	川崎(裕)	河野	宮崎	蟹江	——	高村	稲葉	中山	伴野
13平25年	高村	荻原	高階	佐藤(三)	栗原	東	東	鈴木(備)	川嶋	河野	近藤	木村	——	小林(武)	植松	中山	伴野
14平26年	新庄	大澤	三浦	本保	野村	戸野谷	戸野谷	高村	稲葉	河野	岩崎	西村	——	児玉	河合	中山	杉山(孝)

委員長 年度	100周年	70周年	I M	3000回 例会	CLP 準備	地区大 会実行	75周年 実行	委員長 年度	100周年	70周年	I M	3000回 例会	CLP 準備	地区大 会実行	75周年 実行	クラブ 藤田 100周年
2003平15年	杉山(孝)							07平19年	——	——	——	——	伊藤			
04平16年	杉山(孝)	志田						08平20年	——	——	——	——	——	鈴木(和)		
05平17年	——	——	田中					09平21年	——	——	——	——	——	——	児玉	
06平18年	——	——	——	牧田				14平26年	——	——	——	——	——	——	——	杉本

前年度入退会者

入 会 (13名)	退 会 (9名)
井 手 聡 2014. 8.18	長 谷 川 喜 則 2014.12. 1
太 口 努 2014. 8.18	鈴 木 和 夫 2015. 1. 8(ご逝去)
北 澤 晴 樹 2014. 9. 1	高 橋 信 之 2015. 3.16
原 田 亜 紀 子 2014. 9.29	古 木 公 生 2015. 3.16
磯 部 潔 2014.10. 6	橋 本 良 一 2015. 3.16
塩 原 太 一 郎 2014.11.10	野 村 研 2015. 4. 6
吉 田 寛 2014.12.22	本 保 晃 2015. 6. 8
石 井 大 介 2015. 1. 5	相 浦 司 2015. 6.22
後 藤 正 博 2015. 3.23	青 野 高 宏 2015. 6.30
瀧 上 恵 美 子 2015. 4. 6	
島 田 和 浩 2015. 5.25	
花 野 博 昭 2015. 6. 8	
山 本 靖 2015. 6.29	

公益財団法人 ローターリー米山記念奨学会

○2014-2015寄付額 ¥1,504,000(上期・下期普通寄付+特別寄付)

氏名	年度実績	累計額
青島 廣幸	10,000	150,000
浅原 諒蔵	10,000	150,000
青野 高宏	10,000	150,000
浅野 秀浩	10,000	90,000
福地 益人	10,000	150,000
東 俊光	10,000	150,000
長谷川 豪男	0	140,000
疋野 智男	10,000	150,000
堀池 彰	10,000	80,000
平松 義康	10,000	60,000
平尾 清	10,000	30,000
伊藤 博	10,000	70,000
稲葉 豊	10,000	60,000
岩崎 茂夫	10,000	80,000
近藤 哲也	10,000	150,000
久保田 隆	10,000	150,000
小林 武治	10,000	120,000
児玉 俊明	10,000	110,000
加藤 誠	10,000	60,000
川崎 裕司	10,000	60,000
川嶋 秀樹	10,000	60,000
川辺 哲	10,000	50,000
河村 卓利	10,000	50,000
河野 誠	10,000	50,000
小林 豊	10,000	40,000
栗原 廣司	10,000	40,000
木村 絵美	10,000	30,000
牧田 静二	10,000	190,000
向坂 達也	10,000	150,000
望月 義弘	10,000	150,000
松崎 至宏	10,000	150,000
森田 昌宏	10,000	150,000
水上 房吉	10,000	140,000
宮崎 洋一	10,000	80,000
三浦 孝文	10,000	30,000
望月 啓行	10,000	30,000
中山 秀樹	10,000	90,000
荻原 英生	10,000	150,000
荻野 淳	10,000	120,000
大澤 泉	10,000	60,000
鈴木 和夫	10,000	150,000
杉山 孝俊	10,000	150,000
志田 洪顯	10,000	150,000
佐藤 長巳	10,000	150,000
杉本 忠重	10,000	120,000
鈴木 礁	10,000	110,000
新庄 剛和	10,000	90,000
坂上 康	10,000	70,000

氏名	今年度実績	累計額
里見 和洋	10,000	40,000
佐藤 三千男	10,000	30,000
田中 楯夫	10,000	150,000
伴野 隆一郎	10,000	150,000
寺戸 常剛	10,000	150,000
高村 信継	10,000	150,000
谷本 宏太郎	10,000	90,000
戸野谷 宏	10,000	80,000
田中 孝将	10,000	80,000
高階 成造	10,000	50,000
鴫田 勝彦	10,000	50,000
津田 将広	10,000	30,000
植松 昌美	10,000	150,000
山元 雍久	10,000	150,000
山口 良昌	10,000	150,000
山崎 純男	10,000	150,000
長谷川 喜則	10,000	20,000
大石 剛(つよし)	10,000	20,000
蓑田 隆一	10,000	20,000
高橋 信之	10,000	20,000
服部 守親	10,000	20,000
河合 寿	10,000	20,000
藤田 博久	10,000	20,000
野村 研	10,000	20,000
橋本 良一	10,000	20,000
古木 公生	10,000	20,000
井熊 正浩	10,000	20,000
大石 剛(ごう)	10,000	20,000
相浦 司	10,000	20,000
本保 晃	10,000	20,000
小田 博之	10,000	20,000
白垣 好信	10,000	20,000
西村 やす子	10,000	20,000
岡部 一彦	10,000	20,000
江頭 信義	10,000	10,000
花村 豊充	10,000	10,000
原田 亜紀子	10,000	10,000
井上 裕詞	10,000	10,000
井手 聡	10,000	10,000
磯部 潔	10,000	10,000
久住 与志人	10,000	10,000
北澤 晴樹	10,000	10,000
斎藤 靖	10,000	10,000
鈴川 辰男	10,000	10,000
塩原 太一郎	10,000	10,000
太口 努	10,000	10,000
安本 吉宏	10,000	10,000

公益財団法人 ローターリー日本財団

2014-2015寄付額 9,300ドル

ポール・ハリス・フェロー／マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

会 員 名	今年度実績	累 計
青 島 廣 幸	100	10,020
牧 田 静 二	100	5,270
向 坂 達 也	100	6,020
望 月 義 弘	100	5,020
松 崎 至 宏	100	6,020
田 中 楯 夫	100	5,020
山 元 雍 久	100	4,020
山 口 良 昌	100	5,020
森 田 昌 宏	100	3,020
福 地 益 人	100	3,020
東 俊 光	100	4,020
荻 原 英 生	100	5,020
伴 野 隆 一 郎	100	4,020
杉 山 孝 俊	100	4,020
志 田 洪 顯	100	3,020
寺 戸 常 剛	100	3,020
山 崎 純 男	100	5,020
浅 原 諒 藏	100	2,300
長谷川 豪 男	0	1,920
植 松 昌 美	100	2,020
青 野 高 宏	100	2,020
佐 藤 長 巳	100	2,020
疋 野 智 男	100	2,020
高 村 信 継	100	2,020
近 藤 哲 也	100	2,020
久保田 隆	100	2,020
水 上 房 吉	100	2,020
小 林 武 治	100	2,020
荻 野 淳	100	2,020
杉 本 忠 重	100	2,020
鈴 木 礁	100	2,020
児 玉 俊 明	100	1,020
中 山 秀 樹	100	1,020
谷 本 宏 太 郎	100	1,020
新 庄 剛 和	100	900
浅 野 秀 浩	100	900
戸野谷 宏	100	900
宮 崎 洋 一	100	900
田 中 孝 将	100	900
堀 池 彰	100	900
伊 藤 博	100	1,800
稲 葉 豊	100	700
坂 上 康	100	700
加 藤 誠	100	700
大 澤 泉	100	700
平 松 義 康	100	600
川 崎 裕 司	100	600

会 員 名	今年度実績	累 計
川 嶋 秀 樹	100	600
川 辺 哲	100	500
河 村 卓 利	100	500
小 林 豊	100	500
河 野 誠	100	500
高 階 成 造	100	500
鴫 田 勝 彦	100	500
岩 崎 茂 夫	100	400
栗 原 廣 司	100	400
里 見 和 洋	100	400
三 浦 孝 文	100	300
平 尾 清	100	300
津 田 将 広	100	300
木 村 絵 美	0	200
佐 藤 三 千 男	100	300
大 石 剛 (つよし)	100	300
蓑 田 隆 一	100	300
高 橋 信 之	100	300
服 部 守 親	100	300
望 月 啓 行	100	300
青 谷 宣 孝	100	300
河 合 寿	100	300
藤 田 博 久	100	300
野 村 研	100	300
古 木 公 生	100	300
橋 本 良 一	100	300
井 熊 正 浩	100	200
大 石 剛 (こう)	100	200
相 浦 司	100	200
井 上 裕 詞	100	200
西 村 や す 子	100	200
小 田 博 之	100	200
本 保 晃	100	200
岡 部 一 彦	100	200
白 垣 好 信	100	200
安 本 吉 宏	100	200
齐 藤 靖	100	100
江 頭 信 義	100	100
花 村 豊 充	100	100
原 田 亜 紀 子	100	100
井 手 聡	100	100
磯 部 潔	100	100
石 井 大 介	100	100
久 住 与 志 人	100	100
北 澤 晴 樹	100	100
鈴 川 辰 男	100	100
塩 原 太 一 郎	100	100
吉 田 寛	100	100

御 家 族

青 島 由 佳

退 会 者

川 井 健太郎
 上 野 次郎吉
 土 橋 一 雄
 小 塩 松太郎
 増 井 東 平
 谷 田 庄兵衛
 稲 森 利 次
 吉 田 賢 治
 佐 野 一 雄
 森 迪 也 (2回)
 高 野 成 夫
 山 下 勝 博
 大 畑 憲太郎
 大 野 信 義
 久保田 学
 伊 藤 恵 二
 山 田 史
 原 田 佑 輔
 山 本 良 蔵 (2回)
 鈴 木 功 (2回)
 志 田 勝次郎 (5回)
 才 茂 誉 英 (2回)
 川 辺 繁 (4回)
 秋 田 早 苗 (3回)
 中 原 好 一
 春 山 芳 保
 樺 山 博
 中 垣 潔
 小長谷 育 教
 川野辺 芳 郎 (4回)
 久津輪 早 苗
 小 浜 修一郎
 塚 原 克 彦
 中 村 芳 明
 杉 田 雅 彦
 瀧 上 徹
 稲 葉 卓 一 (3回)
 平 尾 謙 司 (4回)
 勝 山 靖 久
 小 寺 建 一
 野 澤 武 良 男 (4回)
 駒 形 榮 一 (3回)
 大 石 滋
 伊 藤 恒 道 (4回)

川 村 弘
 鱸 正太郎
 山 崎 順 造 (6回)
 桜 井 秀
 鱸 俊 子
 高 木 悦 壮
 時 田 行 一
 戸 塚 陽 弑
 大 石 益 光 (6回)
 林 清 見 (2回)
 閑 念 利 政
 萩 原 弘 士
 岡 本 寿 光
 野 口 武 彦
 高 村 金次郎 (3回)
 岡 田 宏 司 (2回)
 矢 部 元 彦 (2回)
 甲 田 誠 (3回)
 近 藤 春 雄 (4回)
 増 田 悦 男
 稲 森 祐 一 (4回)
 柴 主 多一郎 (4回)
 安 永 隆 則
 近 藤 茂
 鈴 木 涼 太
 庄 司 佑 治
 白 石 博 昭
 増 永 孝 之
 川野辺 玲 子
 櫻 井 達 也
 遠 藤 清 士 (2回)
 星 野 和七郎 (4回)
 澤 村 潔
 梅 原 伸 彦
 設 楽 幸 敬
 小 山 益 男
 齋 藤 薫
 奥 山 源 二 (3回)
 宮 下 民 樹
 小 倉 博
 中 野 拓 也 (3回)
 杉 山 三 喜 男
 坪 井 脩 生
 行 木 英 生

田 中 忠 雄
 田 中 美智子
 中 村 円三郎
 足 立 浩
 平 野 孝 雄
 渡 会 栄 一
 田 辺 三 平
 桜 井 次 郎 (3回)
 大 石 温 子 (6回)
 大 高 田 欣 浩
 大 城 哲 夫
 岡 田 新三郎 (2回)
 永 田 正 雄 (2回)
 土 屋 勝 弘
 高 橋 久 克
 篠 崎 鉄 也
 水 上 房 吉 (3回)
 岩 本 嵩 満
 稲 葉 慶 一 (3回)
 岡 田 至 宏
 影 山 弥 太郎 (2回)
 古 川 章
 松 井 純 (3回)
 佐 藤 雅 春
 奥 村 昌 彦
 古 知 弘 行
 笹 井 輝 雄
 宮 城 島 敏 之
 小 杉 功 進
 中 山 肇
 山 本 貞 次 (3回)
 小 林 丈 記
 尾 崎 徳 郎 (4回)
 澤 田 厚 二
 桜 井 一 郎 (3回)
 福 田 榮 (3回)
 西 村 予史男 (3回)
 北 村 明 (4回)
 藤 牧 康 男 (3回)
 佐 野 嘉 六 (3回)
 村 上 貴 紀
 鈴 木 和 夫 (4回)

名 誉 会 員

川 井 祐 一 (4回)

ベネファクター寄付 (13名)

(岡田 宏 司)
 (柴 主 多一郎)
 (平 尾 謙 司)
 牧 田 静 二
 志 田 洪 顯

田 中 楯 夫
 鈴 木 和 夫
 青 島 廣 幸
 向 坂 達 也

(大 石 益 光) (2回)
 (大 石 温 子)
 (尾 崎 德 郎)
 山 口 良 昌

2014-2015 年間100%出席者表彰

(年 数)	(敬 称 略)
44年	牧田静二
43年	望月義弘
41年	松崎至宏
40年	向坂達也
38年	田中楯夫
30年	青島廣幸
29年	福地益人
26年	荻原英生
22年	志田洪顯
20年	寺戸常剛
19年	山崎純男
18年	浅原諒蔵
16年	佐藤長巳
15年	疋野智男
14年	高村信継
11年	鈴木 礁
10年	植松昌美
8年	中山秀樹
7年	伊藤 博
6年	大澤 泉・坂上 康
5年	河野 誠
4年	岩崎茂夫・川崎裕司
3年	里見和洋
1年	荻野 淳

年間クラブ出席率78.19%

1 例 会

2014年

- 7月7日(3313回) 会長本年度方針発表
- 7月14日(3314回) ガバナー公式訪問
- 7月28日(3315回) 会員卓話
社会奉仕委員会委員長
堀池 彰氏
「地区事業の紹介」
- 8月4日(3316回) 会員卓話
司法書士法人
西村 やす子氏
「オリーブオイルの驚くべき健康効果」
- 8月18日(3317回) クラブフォーラム
「会員増強について」
- 8月25日(3318回) ゲスト卓話
静岡県教育委員会
社会教育課長
北川 清美氏
「みんなで社会教育!!」
- 9月1日(3319回) ゲスト卓話
静岡市長
田辺 信宏氏
「世界に輝く静岡の実現~静岡市政の現状と課題~」
- 9月6日(3320回) 移動例会
「小さな親切運動」
- 9月22日(3321回) ゲスト卓話
元米山記念奨学生
蔡 遣氏
「西安について」および
「米山梅吉物語」
- 9月29日(3322回) クラブフォーラム
「青少年奉仕委員会」
- 10月6日(3323回) 会員卓話
全日本空輸株式会社静岡支店長
小田 博之氏
「ANA貨物事業概要と沖縄貨ハブ」
- 10月20日(3324回) 会員卓話
株式会社JTB中部
静岡支店長
斎藤 靖氏
「観光における地域活性化」
- 10月25日(3325回) 移動例会
- 11月10日(3326回) ゲスト卓話
アムズ環境デザイン研究所
高木 敦子氏
「地域の魅力を活かして、残す」
- 11月17日(3327回) ゲスト卓話
Kmix DJ

DJ Roni氏
「ラジオに運ばれて静岡へ」

- 12月1日(3328回) 会員卓話
安本吉宏公認会計士税理士事務所
安本 吉宏氏
「相続税改正とその対応」
- 12月8日(3329回) ゲスト卓話
元HNKアナウンサー
山川 静夫氏
「放送よもやまばなし」
- 12月15日(3330回) 年末家族会
- 12月22日(3331回) ゲスト卓話
ドッグレスキュー
プエルタ・アビエルタ代表
平光 宣子氏
「保護犬から教えられたこと」

2015年

- 1月5日(3332回) 新年例会
- 1月19日(3333回) ゲスト卓話
静岡地方気象台長
宮本 仁美氏
「静岡の気象特性と南極域から探る地球温暖化」
- 1月26日(3334回) ゲスト卓話
静岡大学名誉教授
大和田 哲男氏
「今こそ生かしたい家康公の叡智」
- 2月2日(3335回) ゲスト卓話
清水港客船誘致委員会 会長
望月 薫氏
「客船と清水港」
- 2月9日(3336回) ゲスト卓話
静岡犯罪被害者支援センター
白井 孝一氏
「犯罪被害者の支援活動について」
- 2月16日(3337回) 静岡市内7クラブ合同例会
- 2月23日(3338回) 会員卓話
国際ロータリー第2620地区
パストガバナー
志太 洪顯氏
「静岡大学連携講座とロータリークラブ」
- 3月1日(3339回) 移動例会
「インターシティーミーティング」
- 3月9日(3340回) 会員卓話
静岡第一テレビ
佐藤 三千男氏
「新聞・テレビはいま」

- 3月16日(3341回) 会員卓話
中部電力株式会社
常務執行役員 静岡支店長
岡部 一彦氏
「中部電力の現状と取組」
- 3月23日(3342回) 会員卓話
SMBC日興証券(株) 静岡支店長
井上 裕詞氏
- 3月28日(3343回) 移動例会
「小さな親切運動」
- 4月6日(3344回) 会員卓話
NTTドコモ静岡支店長
太口 努氏
「移動体通信業界をとりまく状況
について」
- 4月13日(3345回) 会員卓話
静岡朝日テレビ社長
北澤 晴樹氏
「静岡を元気に!プロジェクト」
- 4月20日(3346回) 移動例会
「麻機遊水地あづま屋例会」
- 4月27日(3347回) 夜間例会・臨時総会
- 5月11日(3348回) ゲスト卓話
東海旅客鉄道株式会社
静岡支店長
河原崎 宏之氏
「東海道新幹線開業50年の足跡と
在来線」
- 5月18日(3349回) けやき例会
- 5月25日(3350回) 会員卓話
国際ロータリー第2620地区
パストガバナー
牧田 静二氏
「静岡ロータリークラブの歴史」
- 6月1日(3351回) ガバナー補佐訪問
「ロータリー活動についての所感」
- 6月8日(3352回) ゲスト卓話
静岡県朝鮮通信し研究会
北村 欽哉氏
「一枚の扁額から見えてきたもの」
- 6月15日(3353回) クラブ80周年記念例会
- 6月22日(3354回) ゲスト卓話
静岡県森林・林業研究センター
上席研究員
大場 孝裕氏
「ニホンジカ問題と対策-生態系
保全のためのシカ管理-」
- 6月29日(3355回) ゲスト卓話

東京上海日動火災保険(株)
執行役員総務部長
水戸徳川家15代目当主
徳川 斉正氏

2 理事会

- 7月7日 第1回
9月以降例会卓話について
新会員について
地区社会奉仕事業について
7月8月のスケジュール
- 7月28日 第2回
9月以降例会卓話について
新会員について
小さな親切運動について
8月18日のクラブフォーラムについて
観月会について
9月のスケジュール
- 9月1日 第3回
10月以降例会卓話について
新会員について
観月会について
出産・育児休暇の扱いについて
80周年記念事業について
10月のスケジュール
- 10月6日 第4回
11月以降例会卓話について
新会員について
賜暇願いについて
年末家族会について
80周年記念事業について
7クラブ合同例会、IMについて
11月のスケジュール
- 11月10日 第5回
12月以降例会卓話について
新会員について
年末家族会について
休会願いについて
7クラブ合同例会、IMについて
12月のスケジュール
- 12月8日 第6回

3 その他の事業

＋ 2014年 ＋

- 9月6日 移動例会・小さな親切運動
- 9月20日 特別支援学校秋祭り
- 10月8日 観月会
- 10月20日 職場見学会 IAI様
- 10月25日 移動例会・80周年記念事業・富士山写生大会
- 12月15日 年末家族会

＋ 2015年 ＋

- 1月5日 新年例会
- 3月1日 IM
- 3月28日 移動例会・小さな親切運動
- 4月13日 静大連携講座3期目スタート
- 4月20日 移動例会・麻機遊水地あずま屋例会
- 4月25日 親睦家族旅行
- 6月15日 80周年記念例会

- 1月以降例会卓話について
新会員について
年末家族会について
7クラブ合同例会、IMについて
1月のスケジュール
- 1月19日 第7回
2月以降例会卓話について
新会員について
7クラブ合同例会、IMについて
青少年交換研究会・富士の国会議について
2月のスケジュール
- 2月9日 第8回
3月以降例会卓話について
新会員について
80周年記念例会について
3月移動例会の件
4月移動例会あずまや例会の件
IMについて
3月のスケジュール
- 3月9日 第9回
4月以降例会卓話について
新会員について
80周年記念例会について
3月移動例会の件
4月移動例会あずまや例会の件
4月のスケジュール
- 4月6日 第10回
5月以降例会卓話について
新会員について
80周年記念例会について
5月のスケジュール
- 5月11日 第11回
6月以降例会卓話について
新会員について
80周年記念例会について
6月のスケジュール
- 6月8日 第12回
賜暇願い延長について
6月最終までのスケジュール

2014~2015年度決算報告書

(平成26年7月1日~平成27年6月30日)

静岡ロータリークラブ
会計幹事 宮崎 洋一

I 本会計

(収入の部)

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	増 減
会 費	21,600,000	22,010,000	△ 410,000
特 別 会 費	3,600,000	3,680,000	△ 80,000
入 会 金	1,000,000	1,250,000	△250,000
ロータリー財団BOX	117,000	78,261	+ 38,739
米 山 基 金 B O X	117,000	119,751	△ 2,751
社 会 奉 仕 B O X	156,000	101,471	+ 54,529
ビ ジ タ ー 収 入	93,000	63,000	+ 30,000
ス マ イ ル 収 入	1,200,000	999,300	+ 200,700
雑 収 入	100,000	49,590	+ 50,410
基 金 繰 入 収 入		2,000,000	△2,000,000
当 期 収 入 合 計	27,983,000	30,351,373	△ 2,368,373
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,600,000	1,851,480	△ 251,480
収 入 合 計	29,583,000	32,202,853	△ 2,619,853

(支出の部)

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	増 減
R I 人 頭 分 担 金	531,930	578,738	△46,808
地 区 資 金 分 担 金	1,790,000	1,990,000	△200,000
公益財団法人米山記念奨学会寄付金	1,440,000	1,504,000	△64,000
ロータリー財団寄付金	918,000	1,097,400	△179,400
委 員 会 費	5,920,000	5,810,158	+ 109,842
例 会 費	9,770,000	8,448,567	+1,321,433
会 議 費	500,000	369,016	+130,984
登 録 費	1,240,000	1,809,500	△569,500
書 籍 雑 誌 費	300,000	275,119	+ 24,881
事 務 局 費	3,822,000	3,766,106	+ 55,894
印 刷 費	650,000	697,032	△47,032
慶 弔 費	950,000	828,643	+121,357
旅 費 交 通 費	200,000	459,882	△259,882
B O X 寄 付 金	390,000	299,483	+90,517
80周年特別例会事業費	900,000	2,689,437	△1,789,437
雑 費	150,000	34,857	+115,143
基 金 繰 入 支 出	0	240,063	△240,063
予 備 費	111,070		+111,070
当 期 支 出 合 計	29,583,000	30,898,001	△ 1,315,001
次 期 繰 越 収 支 差 額	0	1,304,852	0

Ⅱ 基金会計

<委員会費内訳> (単位：円)

項 目	予 算	決 算
ク ラ ブ 奉 仕	10,000	0
ロータリー情報	10,000	26,550
クラブ研修リーダー	10,000	0
出 席	90,000	64,000
広 報	10,000	0
雑 誌	610,000	399,600
会 報	1,010,000	1,094,040
会 員 選 考	10,000	0
職 業 分 類	10,000	0
会 員 増 強	10,000	0
プ ロ グ ラ ム	410,000	297,750
親 睦	1,010,000	1,265,140
新 会 員 親 睦	110,000	18,100
職 業 奉 仕	90,000	90,400
社 会 奉 仕	510,000	596,628
環 境 保 全	110,000	0
国 際 奉 仕	60,000	0
ロータリー財団	10,000	3,000
米 山	10,000	10,000
青 少 年 奉 仕	160,000	260,340
ローターアクト	710,000	710,000
インターアクト	60,000	54,490
S A A	10,000	8,400
I T	310,000	333,720
80周年特別	510,000	510,000
静大連携講座	60,000	68,000
計	5,920,000	5,810,158

(収入の部) (単位：円)

項 目	予 算	決 算
雑収入(利息)	3,000	408
ガバナー事務所貸付金返金	0	3,000,000
前 期 繰 越 金	895,364	895,364
計	898,364	3,895,772

(支出の部) (単位：円)

項 目	予 算	決 算
80周年記念例会事業費	0	2,000,000
次 期 繰 越 金	898,364	1,895,772
計	898,364	3,895,772

財 産 目 録

平成27年 6月30日現在

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額	
〔資産の部〕			
流動資産			
普 通 預 金	静岡銀行伝馬町支店	71	
固定資産			
普 通 預 金 (基金会計預金)	静岡銀行伝馬町支店	1,895,772	
	資産合計		1,895,843
〔負債の部〕			
未払金(6/30例会)		0	
	負債合計		0
	正味財産		1,895,843

以上報告いたします。

平成27年 月 日

2014～2015年度会長 浅原 諒蔵 印

2014～2015年度会計幹事 宮崎 洋一 印

監査の結果、適正と認めます。

平成27年 月 日

2014～2015年度会計監査 里見 和洋 印

加藤 誠 印

